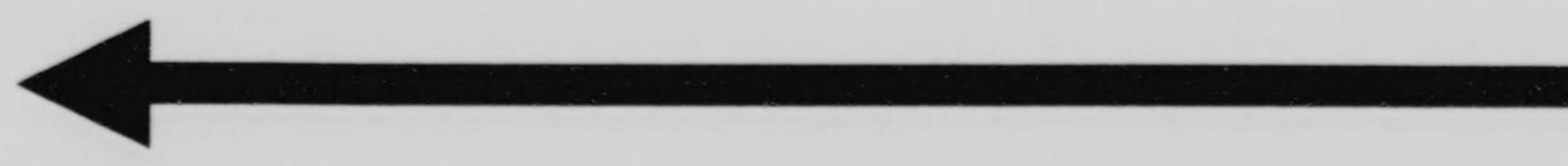


373
222

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁹m 1 2 3 4 5

始



15.9.13

373
222



秋田案内

例言

一、本書は主として本縣の産業と景勝とを題材とし更に簡單なる遊覽案内を添ふることにせり要するに縣勢の概況を大方に紹介するを目的とせるを以て其の餘りに簡に過ぎたるは止むを得ざることとす。

二、縣勢の詳細は之れを更に發行せんとする「現代の秋田」第三版に於てすべく今回の「秋田案内」は之れが豫備的編述に過ぎず然れども本縣に於ける産業状態の大要は本書によりて略ぼ領會するに足るべきを信ず。

大正七年新秋

編者 汀水生識

特製 月桂冠 樽詰各種
 酒 富久娘 樽詰
 清凉飲料 スワンサイダー

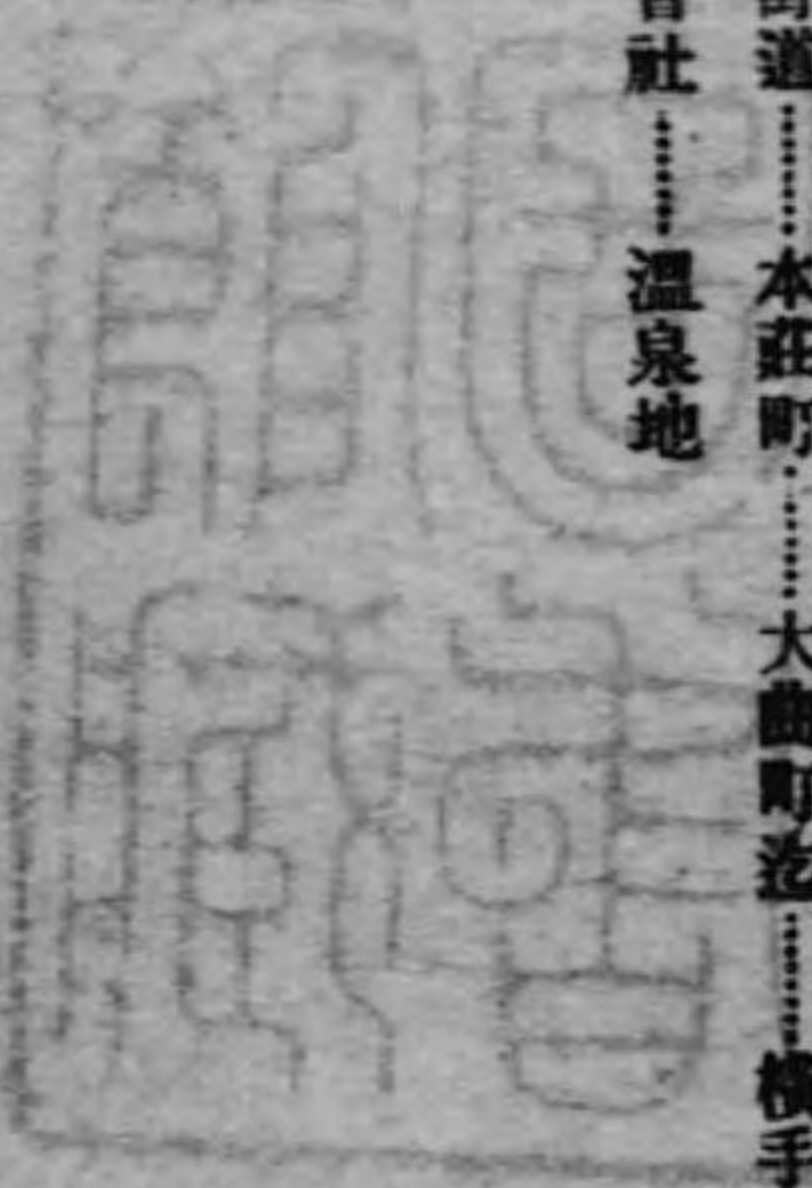
秋田縣特約大販賣店
 諸雜貨商 西養助商店
 秋田市中通町
 電話七三一番

新刊 秋田案内目次

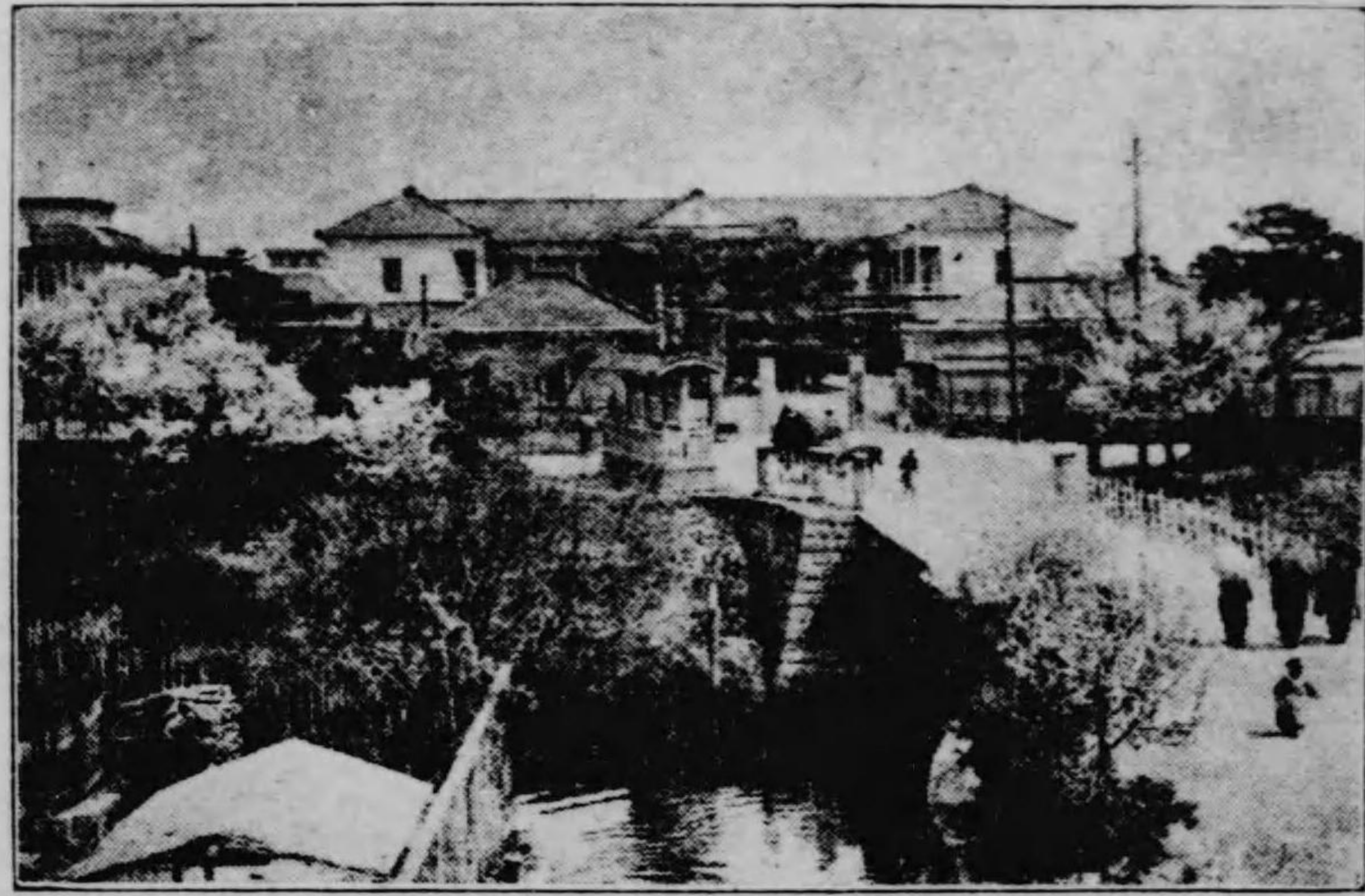
秋田旅覧の順路

△奥羽線沿道

縣北……大館町……扇田町……十二所の機業……十和田湖……小坂嶺山……花輪町……
 鷹巣町……能代港町……秋田木材會社……沿道の都邑……船川港と北浦港……土崎港町……
 ……黒川油田……秋田製油所……
 秋田市概況……千秋公園と川端美人……
 由利街道……水莊町……大曲町迄……横手町迄……縣内一の染織業……湯澤町……秋田
 木工會社……温泉地



大正
 7. 9. 16
 内交



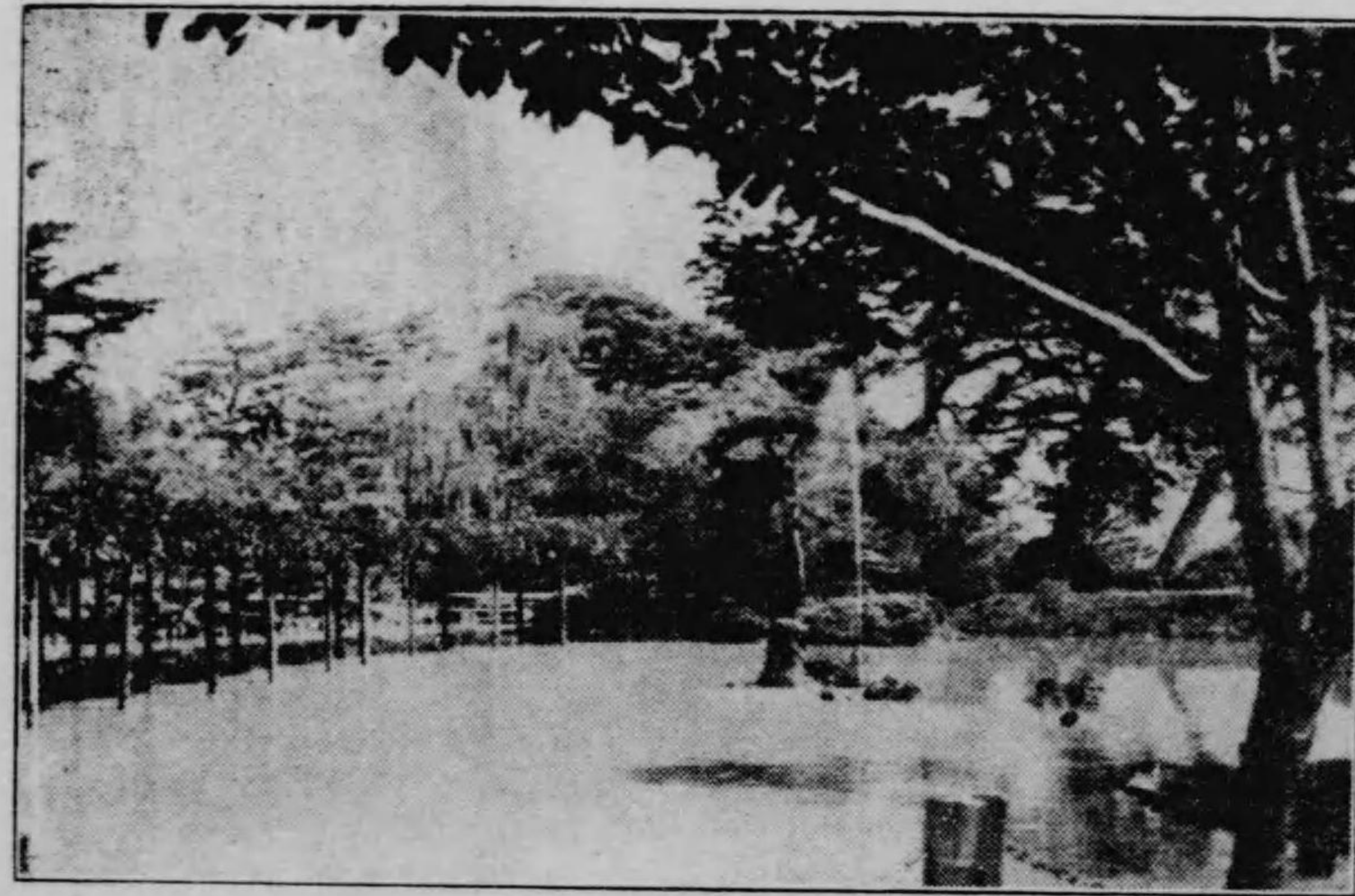
秋田縣廳



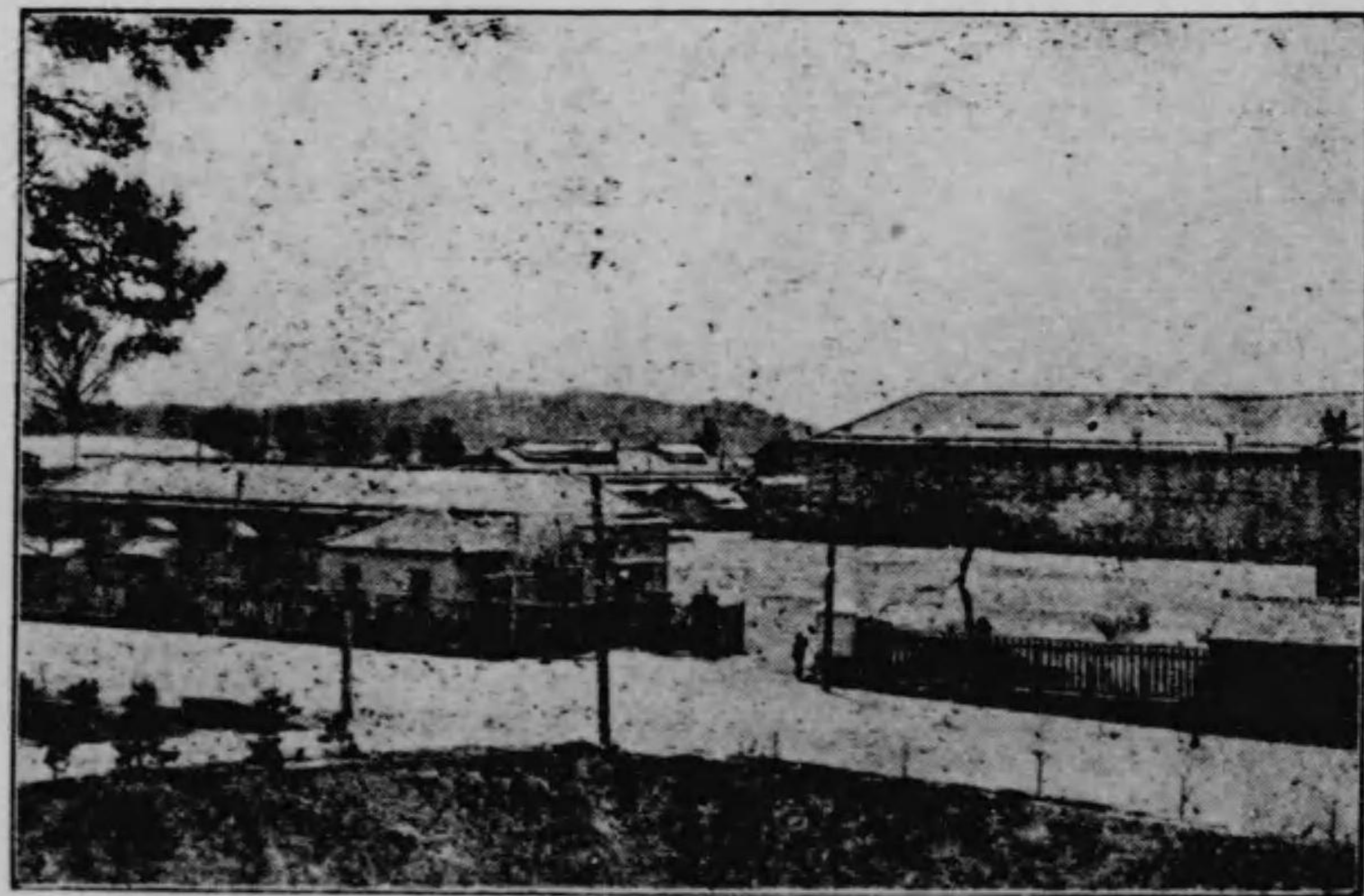
紀念館



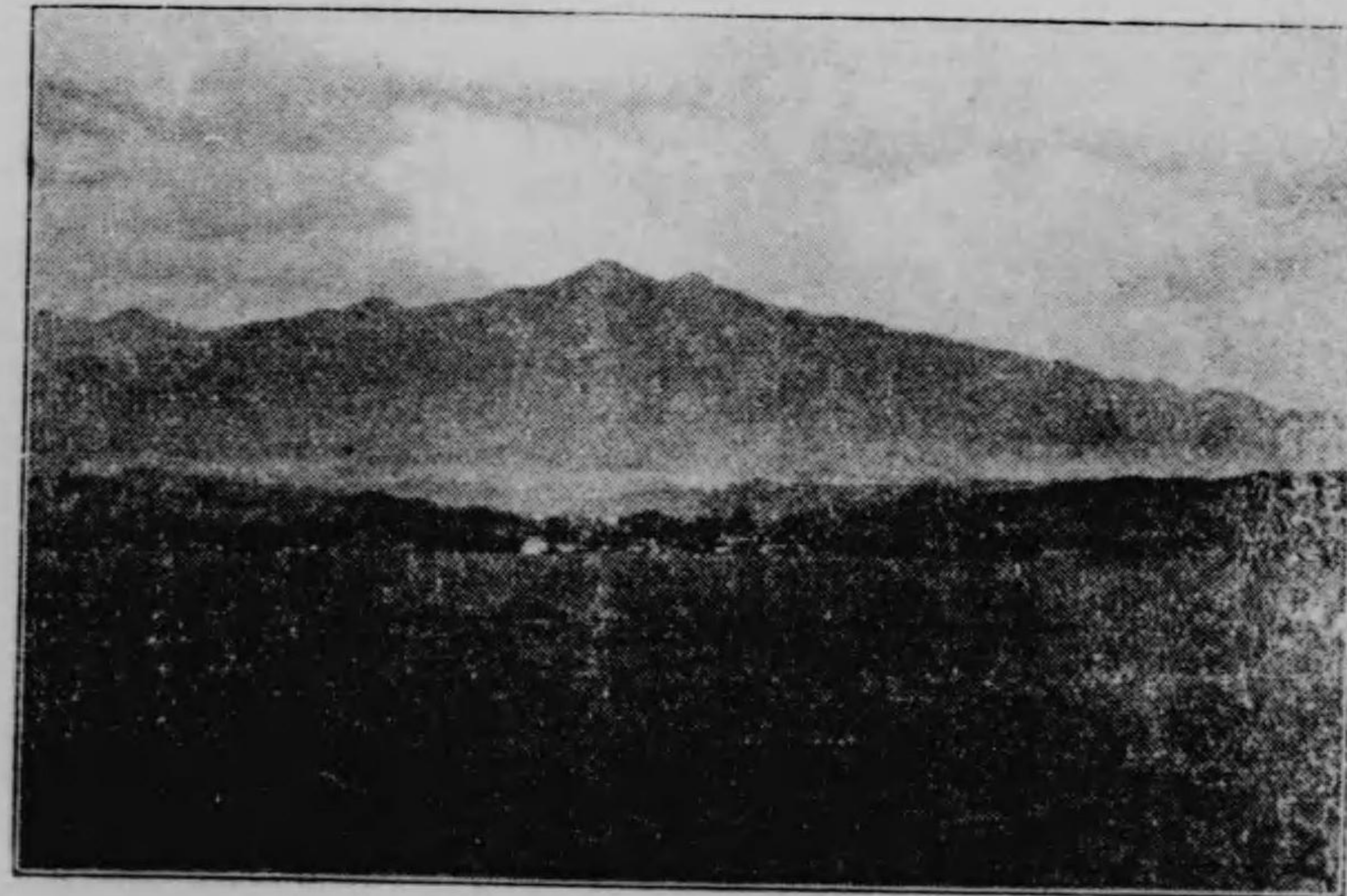
秋田大市町通り



秋公園内 湖月亭畔 藤棚



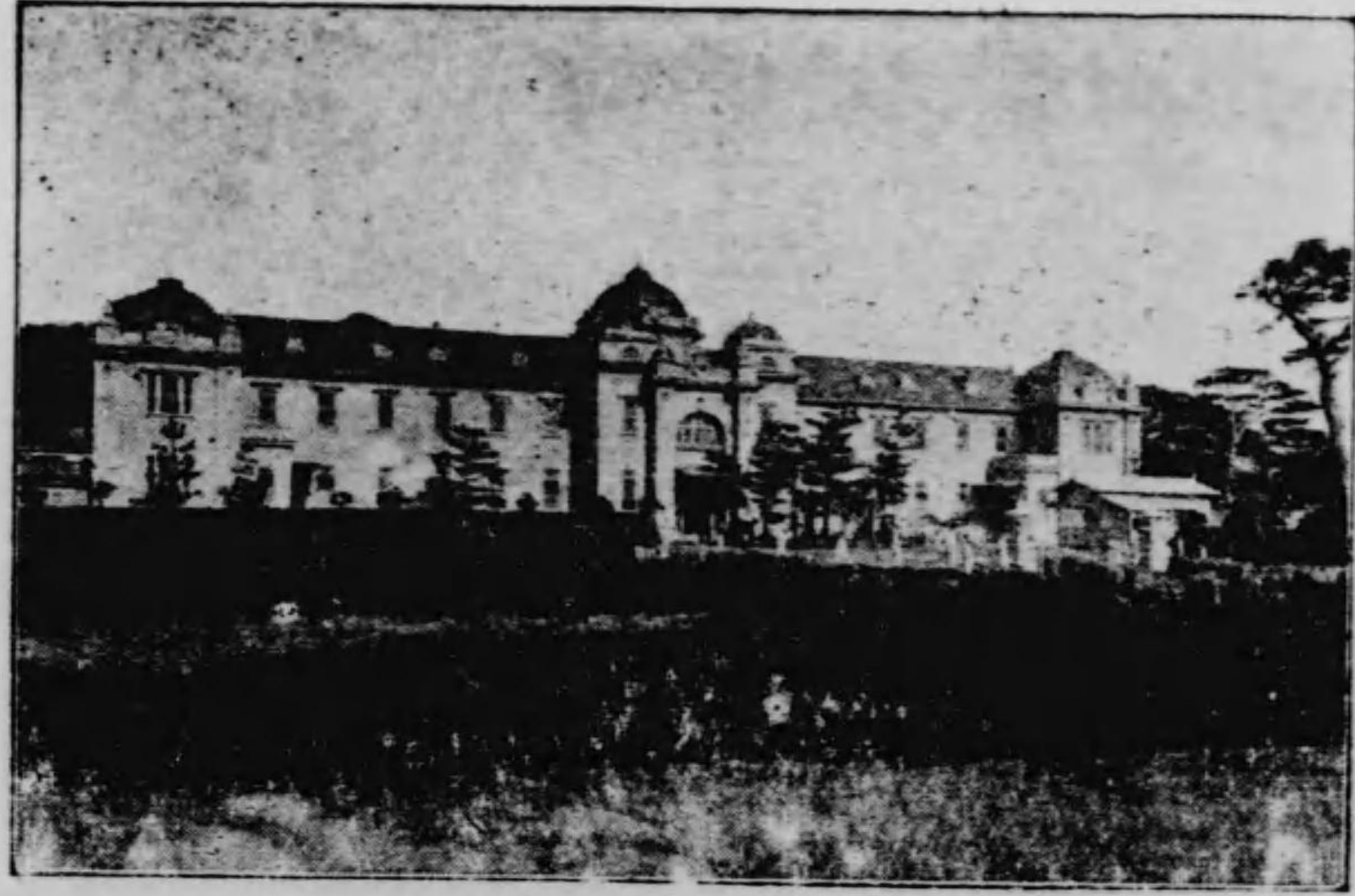
歩兵第七聯隊



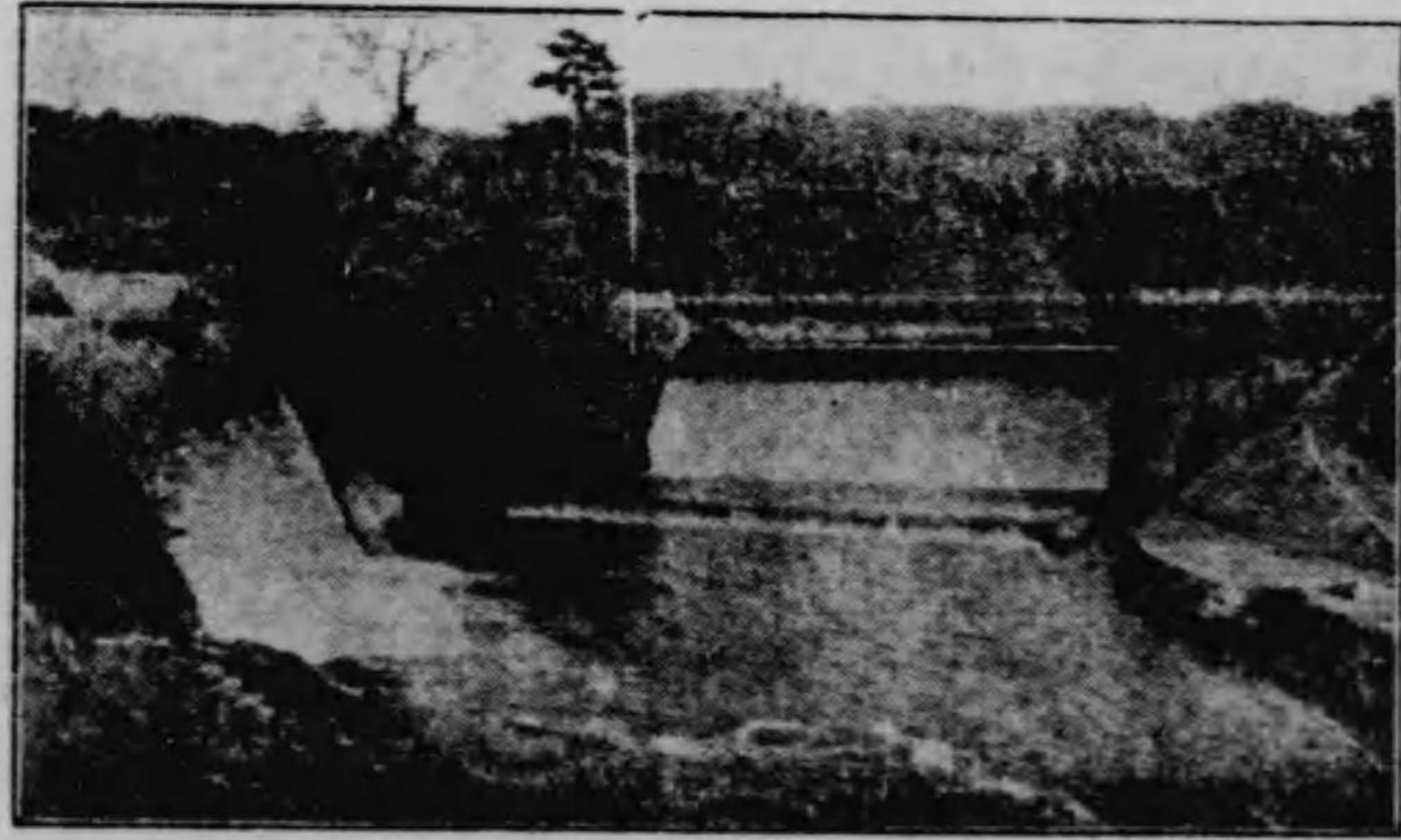
太平山遠望



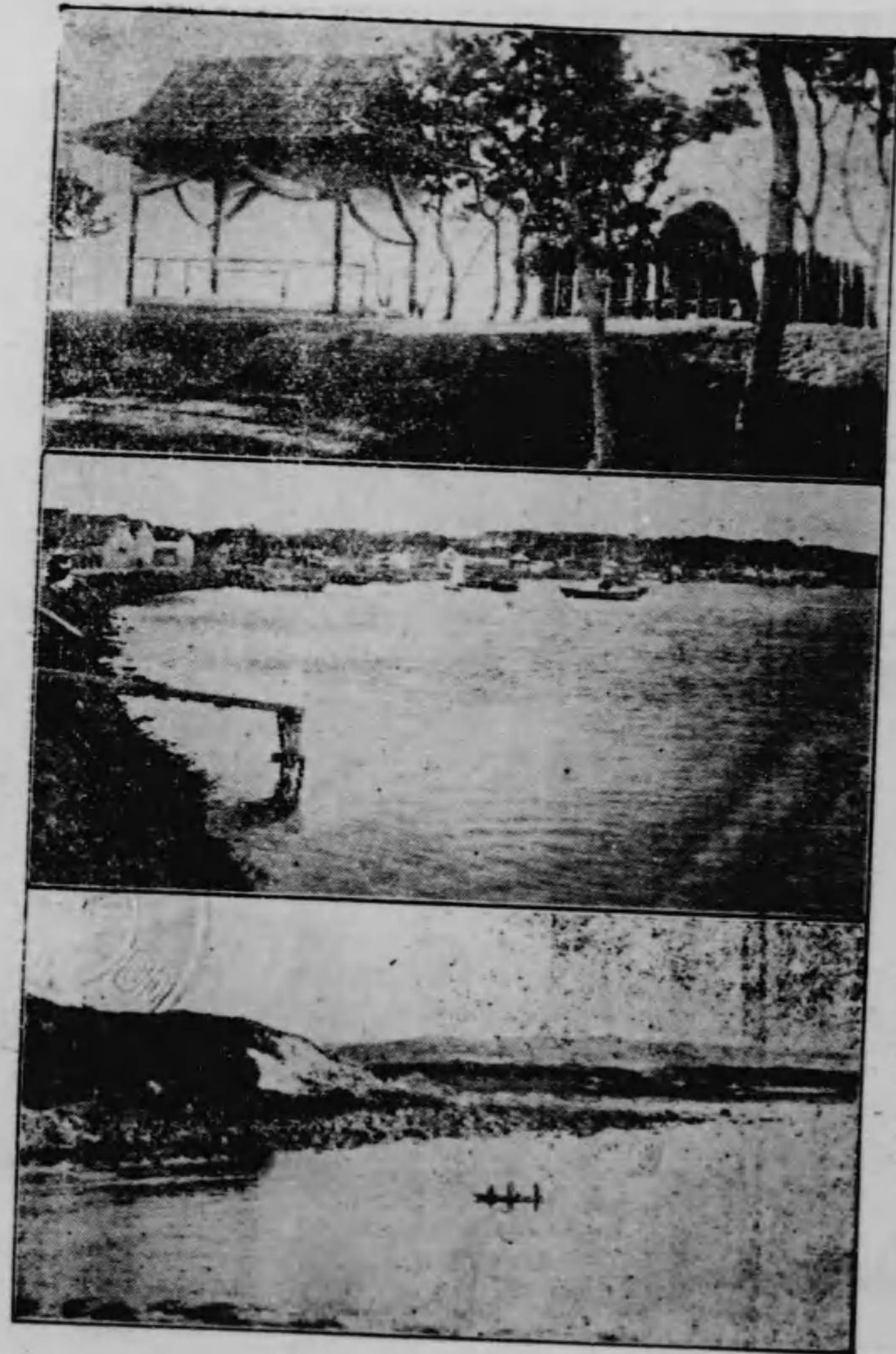
船川港全景



赤十字病院



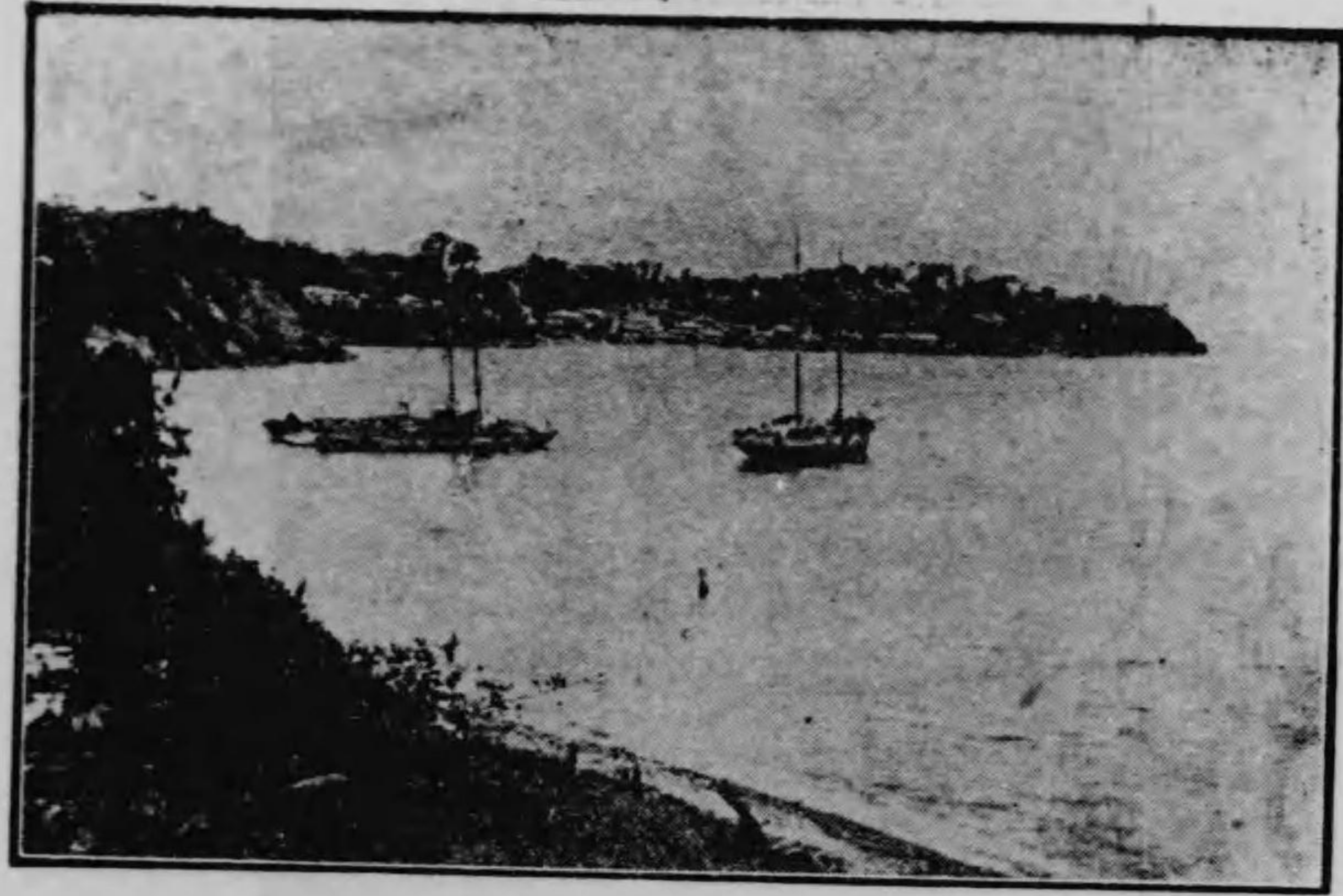
秋田水道源地堰堤



高清水公園

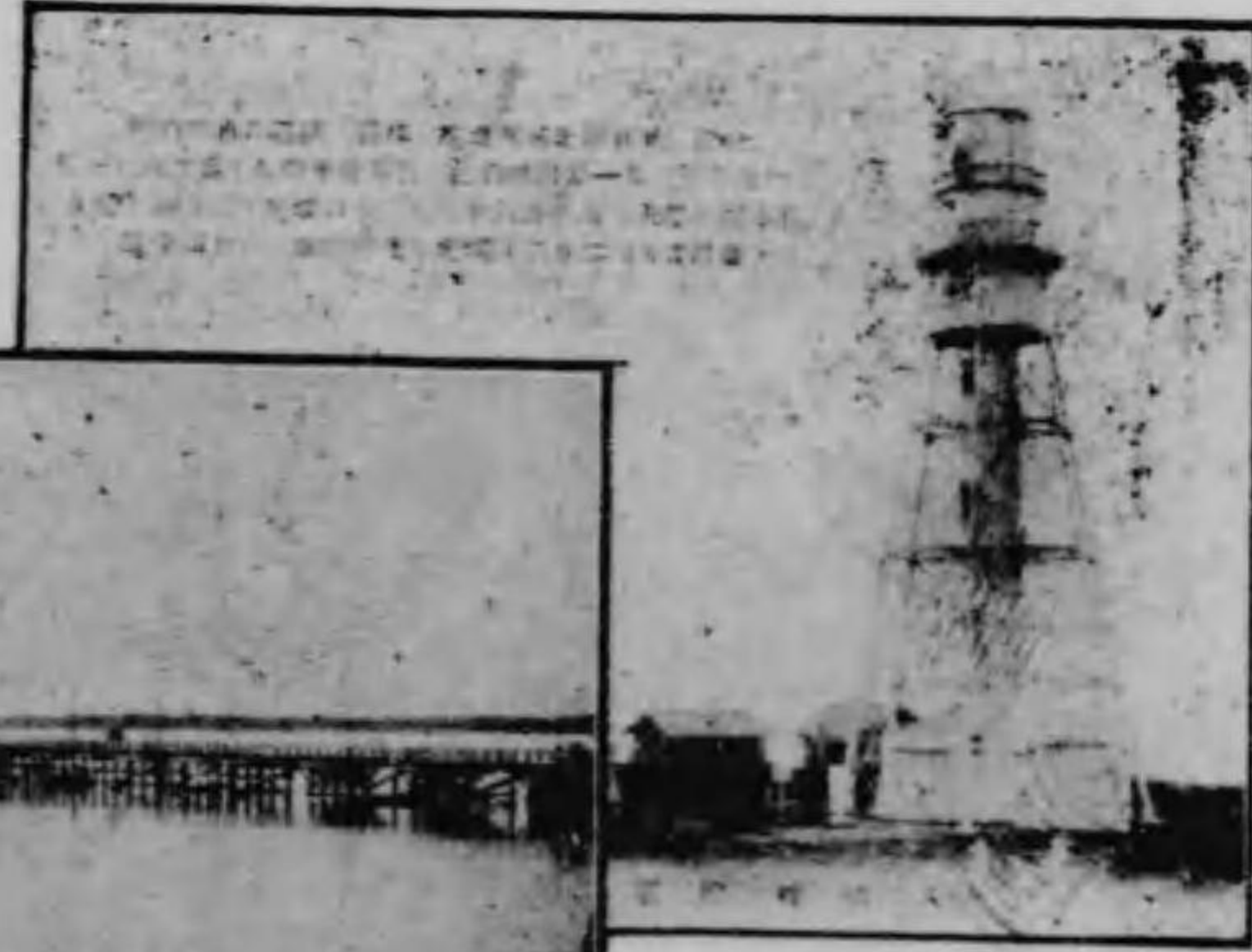
土崎港

金浦港



北浦港全景

八郎橋



入道岬燈臺



新刊 秋田案内

秋田旅覽の順路

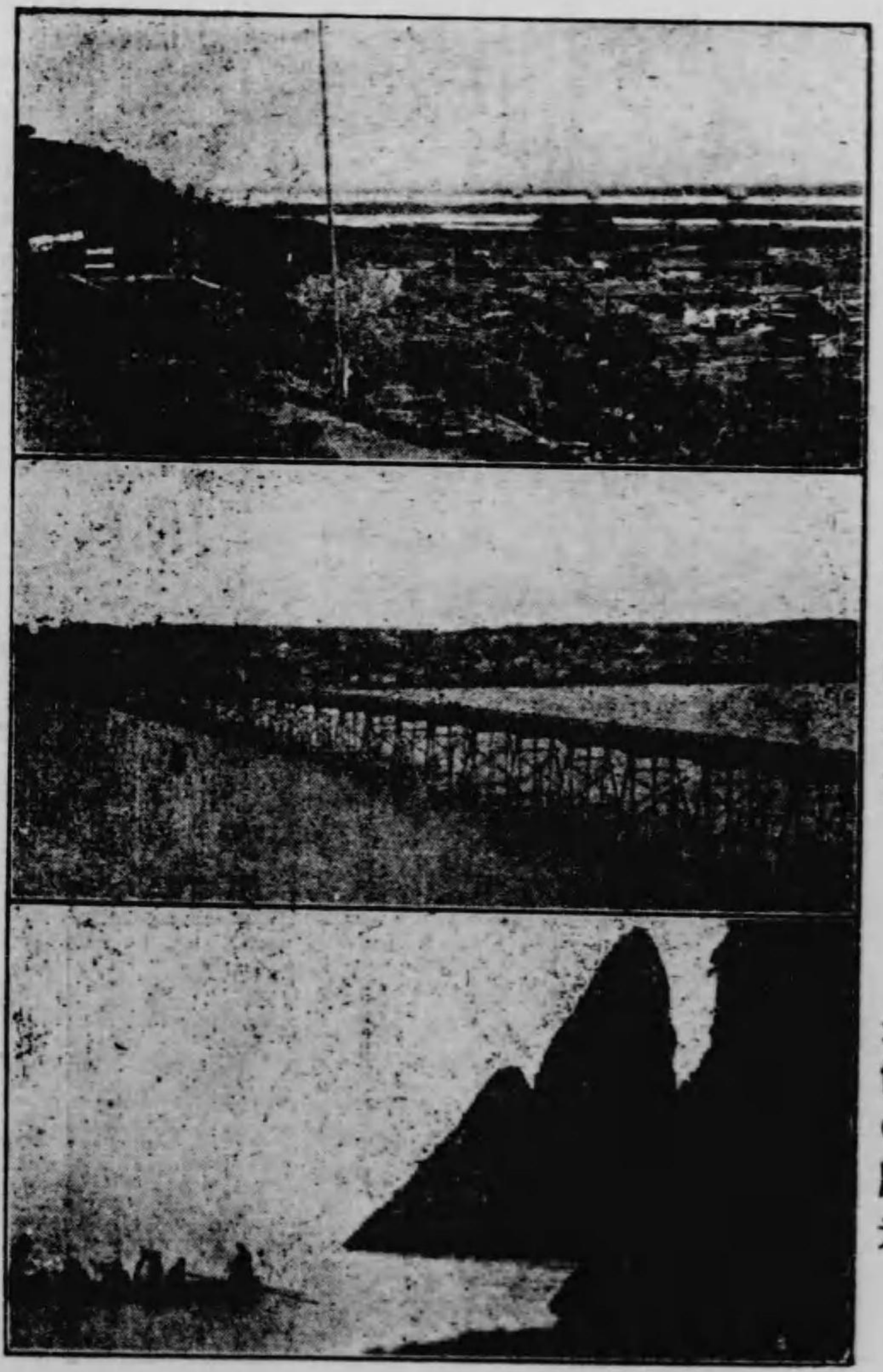
奥羽線沿道

秋田民報社編

秋田旅覽の順路 1

□縣北 青森縣境を越えて陣場驛に至れば最早秋田縣の北境なり驛より二十町を隔て、「大湯の澤温泉」あり皮膚病其他に効驗あり而して長木澤美林帶蘆鬱として此邊に及ぶ山道一里樹間を通り山深く入りて美林長木澤を視察するも可なり陣場より半時間を費さずして縣北第一の都邑「大館驛」に達す。

□大館町 縣北第一の都邑にて交通四達近く天惠の長木澤美林あり林業の發達著るしく周圍又鑛山の發展に伴ひ町勢の進達縣下其比を見ず現在戸數一千九百十五戸



能代公園

能代町全景

岩館の風光

人口一萬一千七百五十人を算す實に縣北唯一の商業地たり奥羽線大館驛を有する外小坂鐵道、秋田鐵道、花岡鐵道の停車場あり縣下何れの地に至るも五ヶの停車場を有する都邑存在せず單に大館町のみ之れあり以て其の繁榮の狀想見すべし中學校、區裁判所、小林區署、警察署等の公官衙以外製材會社の勃興近時殊に人目を驚かしつゝあり旅館の設備完備し花岡齋藤新齋藤等最も体裁良好なり名物としては曲物釣針以外明けがらすと稱する菓子あり。

□扇田町 大館驛より分岐する秋田鐵道に乗じて僅に三十分を以て扇田町に達す淺野製材會社、北日本炭礦會社等あり特産物としては菅笠あり二百年前より發達し來れるものなり本町は近時勃興し來れる諸礦山の影響を受けて町勢の發展著るしきを見る殊に秋田鐵道會社の如きは其の收益私設鐵道としては全國に於て第二位を占むるに至るは主として尾去澤礦山の物資輸送と七日市炭礦並に淺野製材會社の木材輸送するを以てなり近く有名なる大瀧溫泉あり。

□十二所の機業 扇田に近く十二町あり蠶糸業の發達著るしく機械製糸場を有し益々發展せんとしつゝあり又た染色の落ちざると地質の丈夫とに依り十二所地織木綿として聲價を博し居るは重に北秋田郡十二所町石井喜助氏經營の機業場にて織出されるものなり大正二年の同場生産高は約一萬反以上に及びたる由なるが同氏は機

業を開始してより既に二十年の星霜を積み益々發展の域に進みつゝあるか現今各地の同業者は競うて科學的染料を用ひつゝあるに反して同場は町の特産品として此迄で信用を得たる葉藍を用ひ居るが同草藍は十二所町附近東館村日詰等にて産し家内工業としての同町機織はいづれもこれを使用し居り昨今の相場には一反壹圓七八拾錢位にて同機業場には既に二十餘名の工女を役使し地織綿の外に花色、紺、淺黃等の裏地も織出し買入等にて同店で取扱ひたるものは年々五萬反を下らざる由にて平時相場は小賣六七拾錢より四五拾錢なりしが昨今染料騰貴に依り一反壹圓貳拾錢より八九拾錢の相場になり居ると又同氏は去る三年よりタオル製織を開始したるか續いて手拭浴衣地ハンケチ等の製作に従事し目下五臺の機械にて製出し居り此生産高四千反以上に上り販路は縣外へも移出せらるゝも重に下三郡にて鑛山其他の好況につれ益々需要増加し引いて同地方の機業熱盛んになり來りしと云ふ好評あり。

□十和田湖 天下稀見の絶勝地たる十和田湖遊覽の士女は大館驛より秋田鐵道に乗じて毛馬内驛に下車し夫れより人車若くは馬車にて二里「大湯溫泉」に旅塵を洗ひ夫れより觀光街道五里を太古ながらの森林帯を奥深く辿れば湖岸發佳に達すべし旅館十灣閣設備最も良好なり近く和井内養魚場あり歸路は大湯溫泉より毛馬内を経て「小坂鑛山」を視察し小坂鐵道に乗じて大館驛に至り奥羽線に乗替ふべし。

○花輪町 鹿角郡第一の都邑にて郡役所所在地たり近く「尾去澤鑛山」あり三里盛岡街道に沿うて「湯瀨温泉」あり本町の特産として近時聲價を擧げたるは紫組染、茜染なり而して酒と醬油とは主要産物にて六千石以上に達す淺利佐助氏の醬油は造石二千石以上に奥羽六縣中第三位を稱せらる其外「柳行李」木通蔓細工等を産す「毛馬内町」は花輪町に次く名邑にて小坂鑛山に近し。

○鷹巢町 北秋田郡役所、秋田農林學校の所在地にて新進の名邑なり之れより阿仁街道を五里にして炭鑛の豊富なるを稱されつゝある「七日市」を経て「米内澤町」に至り更に五里阿仁合町に達す阿仁鑛山視察せんとするものは鷹巢驛に下車するを便す。

○能代港町 縣下第二の都邑にて人口二萬五千戸戸數三千百戸を算す鐵道輸出一年約五百萬圓賃金毎月貳萬圓以上奥羽線第一と稱せらる郡役所、秋田工業講習所、區裁判所在り近く米代川を隔て、八盛鑛山あり有名なる秋田木材會社は此の地に在り即ち本町の發展は木材會社と八盛鑛山と有するを以しなり名物としては「春慶塗」東雲羊羹あり更に近年果樹園藝の發達著しく長十郎梨、馬鈴薯の産額年々増加し馬鈴薯の如きは遠く南洋、印度方面に輸送せられつつあり。

○秋田木材會社 本社は能代繁榮の中心にて資本金貳百萬圓を以て明治四十年三

月創立せられ木材業の外機械製作電氣、瓦斯、植林、牧畜、運送等を兼營し支店を東京、大阪、名古屋、青森、小樽、網走、猿拂、聲間、稚内に置き工場は能代、青森、大阪、根室、稚内になり社長井坂直幹氏は溫恭の士として風格衆の欣仰する所となり大正五年七月藍綬褒賞を授けられる同社の原料は主として秋田材を用ひ海運の狀況により北海道松を用ひ工場敷地三萬八千坪、馬力一千二百二十馬力、製材機械九十四臺職工男女五百餘人を使用し製材高年々三十萬石内外に達す兼營事業たる機械製作は製品いづれも世間の好評を博し又直營電氣事業は本店所在及び北海道根室町と稚内町等に實行して好成績を擧げ而して會社は其の基礎を永遠に確立するの目的を以て植林事業を大正元年秋より實行して造林地を山本郡八森村字眞瀨澤に相し實測反別八百十六町歩餘の地積に於て向十ヶ年の計畫にて創業以來三ヶ年間に於て百二十六町歩植付本數四十九萬一千本支出金四千八百八圓尙引續き施行の豫定なりとす

○沿線の都邑 鹿渡、森岳兩驛を経て「五城目驛」に達す「五城目町」は阿仁街道の要衝にて木材鐵瓶、酒の産物を以て知られ「大久保」「豊川」は石油土瀝青を以て有名にて近く一萬石噴油を以て世界的名聲を擧げたる「黒川あり」「追分驛」は「船川鐵道」の分岐點なり「黒川」油田を視察せんとするものは追分驛より下車するを便とす。

□船川港と北浦港 船川港は築港未だ半ばなるを以て未成品の觀あるが如しと雖も商港としての前途多事多望なりと云ふべし北浦港は漁港として將來の漁業界の運命を左右すべき好位置を占めつゝあり。

□土崎港町 本縣第三の市街にて現住戸數二千八百人口一萬八千を有す輸入一年貳百五十拾萬圓以上にて輸出五百七拾萬圓以上にて商業地として將來益々有望なり今や雄物川治水工事着手せられんとして従て同港の改良せらるべき時代來らば船川港と相俟ちて本縣海運の利權一に同港の占むる處となるや必せり郡役所、秋田水産試験場等あり其他鐵道院土崎工場、專賣局土崎販賣所、日本石油會社秋田製油所等を有す高清水公園の勝は其の近くにあり。

□黒川油田 鑛區面積四百四萬坪にて大正元年九月日本石油會社は先づ米國式網索堀に着手して好結果を収めたるを以て更にロータリー五號井の大噴油前十數坑の網堀井數坑のロータリー堀井より己にノ、一千石宛の日産ありしなり然るに五號井は海拔二百六十七尺の小岳に位置し大正三年五月三日開堀に着手し同月二十六日午前零時十五分深度二百二十八間一尺にて噴油し初め其勢ひ猛烈にて八吋鐵管内に挿入せる五吋鐵管の内外より滾々として噴出し刻々其の量を増加し奔流槽下の泥留に落下するや一大旋滑をなしつゝ、旺盛し見る／＼築堤の一部缺潰して小草生津土澤の

溪間を傳はり約三丈の油瀑を現出し更に小川となりて岳草を繞り曠野に出で田と云はず畑と云はず一面油の海を湛ふるに至れり當時の噴油量一分間九石にて是れを一晝夜に積算すれば一萬二千九百六十石洵に本邦空前の一大噴油とす當時應急策として溪間及び田面に一號より十一號に至る土タンクを篤造したるが此の面積五千七百三十六坪容量九萬八千五百石斯くて尙不足を告げたるを以て半永久的に十二號土タンクを築造したり面積は六千六百五坪此の容量二十八萬石とす一方に於ては其の噴油を制限するに決し五月二十九日坑夫十一名を以て決死隊を組織し八吋四方口のクレーシングヘットを坑口にて螺合し必要に應じ噴油を加減し得る裝置を施したり尙此他送油の設備として同油田より土崎の製油所に四吋の鐵管線一條ありしを更に四吋の鐵管線一條を急設し尙八吋のもの一線を増設したるものなり。

□秋田製油所 明治四十三年七月の創立にて土崎港にあり十六萬五千坪の敷地内に二千九百坪の建築宏壯を極め黒川油田より送油さるゝ鐵管は八吋線一條此の延長四萬二千尺四吋線一條延長四萬八千尺の二線によりて毎日送油されつゝあり近時設備を擴張し大正四年露國式連續蒸溜釜を設備して大に其の製油力を増加せり此の設備は東洋唯一の稱あり原油の處理量一日優に三千石と注せられ現在連續蒸溜釜は容量六百石物二基及び百五十石基の外に普通六百石四基三百石五十石二基合計十七基

を有し外に二基あり連続釜は燈油、輕油重油の製造に充てられ内輕油と機械油となすべき重油は普通釜によりて更に製油せらる原油貯藏タンク容量五千石内乃三萬石合計二十六基加熱用タンクは千八百石乃至五千石三基を備へ其他精製品貯藏タンク容量三百石乃至千五百石物二十基を有し合計七十を算す其の貯藏力五十萬石と注せらる。

秋田市の概況

秋田縣の主都秋田市は戸數六千三百人口三萬九千を有し土崎港町より汽車十分鐵道馬車三十分を以て達す市街の中央を貫流するは旭川と稱す佐竹藩の城下たりしが明治維新後即ち明治四年正月十三日秋田町と改稱せられ其年七月縣内を大小區に分ちし時秋田町は第一大區に屬し更に之れを三小區に劃せられたり明治十年郡區町村制編成法施行せらるゝや南秋田郡に屬せしが明治二十二年市町村制實施に際し秋田市となり六月一日より秋田市役所を開廳せり現時の市長は前代議士井上廣居氏なり年々の豫算約拾五萬圓内外を算す秋田縣廳の所在地にて鑛山學校、第十七聯隊、大林區署、裁判所、稅務署、運輸事務所、各種學校、赤十字病院等の官公衙あり、商工

團體の中堅たる秋田商業會議所は、大町二丁目に在り主要生産物は絹織物（秋田八丈畝織）五萬圓内外、綿織物三萬五千圓内外、金銀細工は拾五萬圓以上、銅鐵器拾參萬圓以上、製材百萬圓内外、醬油貳萬五千圓内外、清酒貳拾萬圓内外、麵類參萬圓内外、菓子壹萬五千圓、落摺貳千圓内外とす而して輸入貳萬八千噸内外にて輸出一萬五千噸内外市民の消費力は輸入超過の趨勢にあり

○千秋公園と川端美人 秋田市觀覽の第一は東北唯一の稱ある千秋公園の壯望を先きとすべし春は櫻花繚瀾奥羽線唯一の櫻の名勝たり而して花と雙對の秋田美人は旭川畔三丁目より五丁目に至る間御神燈の掲げらるゝ約四十軒餘大小藝妓一百五十人を下らす娼麗多藝風姿楚楚旅愁を一掃するに足る着類の贅澤なる東都に譲らず料理屋の優なるは俱樂部を第一とし志田屋、壽、松葉亭、龜清、魚金等、紅燈綠酒の間に醉興を恣にするに足る而して旅館の雙壁は石橋、小林兩館とす。

○由利街道 附近の海水浴場としては秋田市附近に新屋濱あり自動車を驅つて夏時遊興の士女織るが如し由利街道二十有餘里目下羽越鐵道工事中なるを以て兩三年後の開通を見れば交通不便遊覽容易ならざれども自動車、馬車の便あり將來海水浴場としては由利海岸一帯十有餘里最も好適地とせらるべし。

○本莊町 由利郡第一の都邑は本莊町にて戸數三千二十戸人口一萬一千を有す郡

衙所在地たり名物としては旭桑酒、芭蕉煎餅、諸越、竹細工等にて羽越線と横莊線との交叉點連絡の機を俟たずんば町勢の將來は豫想すべからず「龜田町」は「せんまい織」麵類を以て「矢島町」は酒を以て「象潟町」は古趾と海水浴とを以て有名なり「平澤町」は漁港として知らる。

□大曲町迄 秋田驛より上り列車に乗すれば沿道には境驛あり唐松神社を以て有名なると共に荒川鑛山を視察せんとするものは此處より山道二里をトロにて運搬せらるゝを便とす「刈和野町」は根本羽嶽先生の生誕地として知られ「神宮寺町」には「秋田種馬所」あり明治三十年七月の創設なり「花館村」には「陸羽支場」あり明治二十九年七月の創設にて山形、秋田、青森の三縣は其の管轄區たり「大曲町」は仙北郡の首都にて戸數一千五百戸人口一萬を有す郡衙の所在地たり、新進の商業地として益々發展の機運に向ひつゝあり而して附近「六郷町」は酒の産地として「金澤町」は古蹟地を以て有名なり。

□田澤湖 本縣三勝の一たる田澤湖觀覽に志ざすものは大曲驛に下車し角館街道を俾若くは馬車便を利用すべし「角館町」は山紫水明の地にて樺細工の産地たり近時田澤湖を中心として秋田林業會社の起るあり約三十有餘の諸鑛山の勃興は鬱然として仙北の大富源開拓の使命を全うすべく努めつゝあり。

□横手町迄 大曲驛より僅にして飯詰驛に達し之れより「六郷町」及び「角間川町」に通ず線中の名邑なり角間川町は富豪軒を並べ米穀の集散地として知らる横手町は戸數二千七百戸人口一萬六千以上を有し縣南唯一の要街に當り繁榮日と共に盛なり商工業の隆昌縣内匹敵するものなし陸羽線横莊線全通の時代は更に一大發展すべきや必せり織木綿の外に筆柿等の名産あり附近「淺舞町」は農と養蠶とを以て聞け縣南花の名所たり「増田町」は「釀造地」として知られ真人公園の勝あり而して近時吉乃鑛山の發展に伴ひ隆昌面目を一新せり「山内村」の蔬菜「醍醐村」の果樹殊に櫻桃また有名なり平鹿郡衙の所在地は横手町にて軍馬購買地として知られ本邦の軍馬購買地として岩手縣其首位を占め次ぎは本縣横手にて一年約參萬圓以上二百七十頭を越え從て駒積糶の如きも年約二萬圓内外の賣買あり。

□縣内一の染織業 横手の染織業は舊藩時代名産の一に數へられしものにて就中横手絞りは古來有名なり明治三十年頃より研究を重ねて徐々其發展を圖りし結果進歩迅速にて年産約五十萬反六拾萬圓以上を算す又捺染と稱するは特産にて年産三十萬反以上頗る好評あり。

□湯澤町 雄勝郡の首邑にて郡衙の所在地なり櫻花の名所愛宕山によりて知られ銘酒兩關、白菊等の清酒を以て東北の灘を稱せらる附近三關村には「三關風穴」あり

「川連村」には漆器あり而して松岡鑛山亦其の近きに存す雄勝蠶業學校を有し縣立原蠶種製造所あり本縣蠶業地の中堅を稱せらる「岩崎町」は醸造を以て聞ね「横堀町」は鯉魚の産出を以て「稻庭町」は饅頭を以て「西馬音内町」は佐藤信淵の生誕地たるを以て「小野村」は小野小町の生誕を以て共に有名なり。

□秋田木工會社 同會社は明治三十九年九月の創立にて雜木利用の新生面を開けるものにて初め駒形村沓澤熊之助氏の創設せるものなり當時本事業は本邦に於ける嚆矢にて苦心を費すこと多大たりしも屈せず事業を繼續し四十三年九月株式組織として設備を完成し曲木工藝品の製作を主とす會社は湯澤驛前にあり五十五馬力の動力機械を有し製材工場は丸鋸機二臺にて外に堅鋸一臺あり工作工場曲木工場の設備整ひ外に仕上工場には萬力臺七十五臺を有し尙塗漆工場、研磨工場、荷造場、鍛冶場等あり日産椅子三百脚の調製能力を有すると共に餘材を利用して各種曲木家具の製作を爲す海外輸出地としては新嘉坡を第一とし孟買カルカッター蘭貢坡南等に遠く南米に新販路を開拓するに至れり現專務社長宇都宮金之丞にて專務取締役は飯嶋張邦氏なり。

□温泉地 雄勝郡は温泉地として知られ所在頗る多し而して近時鑛山の勃興著るしく古き歴史を有する「院内」を始めとして松岡、田子内等其の發展囑望に値す。

帽子一式

洋品雜貨

秋田市下肴町



大嶋商會本店

電話七十八番

秋田市長町通



大嶋商會東店

電話四四五番

出店 秋田驛構内

電話二六五番

▲不動產抵當貸付



株式
會社

秋田農工銀行

秋田市大町二丁目

電話七番

一資本金壹百萬圓



株式
會社

秋田銀行

秋田市大町三丁目

電話一〇〇番 四三三番

振替口座東京一〇二番

一 資本金壹百萬圓



株式會社

第四十八銀行

秋田市茶町菊之丁

電話四八番

一 資本金貳千五百萬圓
一 諸積立金四百參拾六萬圓



株式會社

安田銀行秋田支店

秋田市本町四丁目

電話三番

當銀行ハ



合名
會社
池田銀行

秋田縣刈和野町

合名組織ニシテ社員ハ總テ無限責任ヲ負フ

銀行一般ノ業務確實懇切ニ取扱可申候

資本金六拾萬圓

内拂込額參拾萬圓

(元合名會社澤木銀行繼承)

秋田縣船川港町船川

株式會社
船川銀行

北浦支店 五城目支店

船越支店 大久保支店

一 資本金 五拾萬圓
 一 諸積立金 拾六萬五千圓

羽後
 角間川町



株式
 會社

平鹿銀行

電話十番

同六郷支店

電話十番

銀行一般ノ業務ハ確實便利ニ御取扱申候

秋田縣平鹿郡増田町

株式會社 増田銀行

電 畧 (マ)

明治四年
 五月設立



羽後横手大町
 合名會社

五業銀行

電信略語(五)電話番號(十番)
 郵便振替口座東京三二九六番

一 預金利子 御預入レノ當日
 一 定期預金 ヨリ相添ヘ可申候
 一 當座預金 百圓ニ付
 一 當座預金 日步壹錢
 一 當座預金 同壹錢壹厘
 特別當座預金 別當座預金
 當行ハ合名組織ニシテ社員ハ連帶無限責任ヲ有ス

羽後角
 間川町

合名會社 五業銀行角間川支店

(電信略號五)
 電話番號(五)



▲御預金ハ總テ當日ヨリ利子ヲ附シ可申候
▲送金ハ總テ無手数料ニテ取扱可申候

株式會社 **雄勝銀行**

▲銀行一般ノ業務確實懇切ニ取扱可申候

株式會社 **雄勝貯蓄銀行**

▲壹錢以上ハ何程ニテモ預ルベシ
▲貯蓄ハ獨立自活ノ光榮ヲ保タンタメナリ

……町澤湯郡勝雄……
……番三十三話電……

秋田縣雄勝郡湯澤町
合資會社 **湯澤銀行**

電略(ユサ)電話一三番
振替口座東京二三七二二

同縣同郡西馬音内町
同 **西馬音内支店**
(電畧ユニ)

資本金六拾萬圓



東京國債株式會社
秋田支店

秋田市本町四丁目
電話四四三番

資本金五拾萬圓



本店 東京市日本橋區本材河岸六九番地
株式會社 **東京國債銀行秋田支店**

支店 秋田市本町四丁目十五番地
電話四四三番
出張所 弘前 毛馬内 大湊
二ツ井 大藏

資本金百萬圓

本店

東京神田區仲猿樂町一七番地



株式會社

京和銀行

總代理店

秋田市茶町菊ノ丁二番地

創立明治卅三年三月

電話六一二番

各博覽會
共進會
金銀賞牌受領

改良銘酒
山櫻
釀造元

秋田市本町五丁目



秋田酒造株式會社

電話三七〇番

各種製材販賣

秋田縣北秋田郡長木澤村二ツ屋



合名
會社

藤田組長木澤製材所

夕才ル各種製織卸商

秋田縣北秋田郡十二所町

三石井廣治

發電略號(ヒ)又ハ(ヒロ)
振替口座東京二五七二六

◎支店出張所

大阪、東京、名古屋、青森、湊
小樽、猿拂、稚内、根室、秋田

◎電氣所

能代、根室、稚内

秋田縣能代港町



秋田木材株式會社

電畧「アモ」電話 事務所三番 工作部六二番
電氣部七〇番 整理部一四二番

◎工場

能代、秋田、大阪、青森、湊、
稚内、網走、根室

◎機械製作所

能代

◎曲木椅子其他家具類製作發賣

曲木工藝部
製材部

◎製材品廉價販賣
賃換御用命に應申候

秋田縣雄勝郡湯澤町停車場前



秋田木工業株式會社

電信略號「アモ」電話(六六)
振替貯金口座東京六四八九番

運輸部

東京出張所

京橋區南金六町七(新橋際)
電話新橋二七二六(二九)(七〇)

◎運送業を新に營み誠實と勉強を旨し
荷主各位の御便宜本位に相働き申候

杉製材各種
北海道杉丸太木羽



土木
建築

請負業

秋田市龜ノ丁虎ノ口新町

商標
◆

進藤挽材精米工場

電話二〇八番

場主 進藤作之助

土木
建築
請負業

秋田市西根小屋町

相澤重吉

電話七〇七番

土木 建築 請負 業

秋田市 城町

堀井 永助


電話 四四九番

土木 建築 請負 業

各種 製材 業

秋田市 龜ノ丁外張南新町十二番地

キ ア シ ヒ



秋葉商店

電話八番 電器(アア)
振替口座東京八四三七番

店主 高橋多惣治

諸材製板販賣
建築材料一式

秋田市外川尻

秋 齋藤製材工場

電話二一六番

場主 齋藤吉郎

一、信託業

二、仲立業

三、金錢並ニ物品貸附業

四、前各項ニ附屬スル事業

秋田市川反一丁目

秋田信託會社

黑澤久治郎

▼創業五十有餘年

製菓工場の設備完全にして製産能力の絶大なるは弊店の誇りとする所十馬力コルミツシユ式蒸氣機關は四時活動を休止する事なし

秋田市龜之丁西土手町

諸官衙第十七聯隊 御用

登録商標 中野屋

電話四三四番

▲石油鑿井槽材料

▲煉瓦土管製造販賣

海田町一丁目

秋田市龜之丁西土手町

日本石油
株式會社
用達

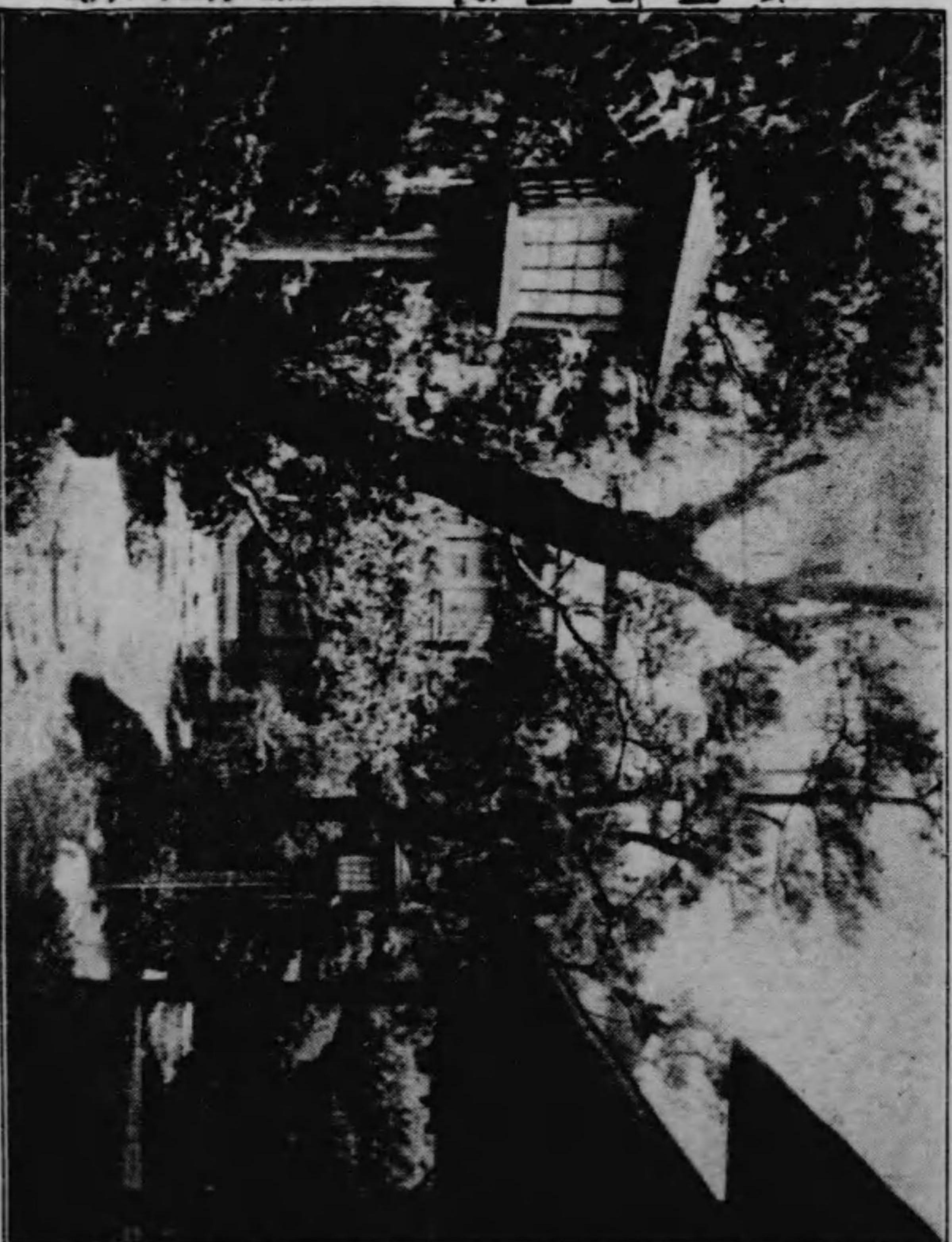
平田良藏

電話三五四番

秋田市外川尻

田中製材工場

電話二三四番



御料理 魚 金

秋田市川尻 電話二百十二番

▼秋田唯一のデパートメントストア式
 ▼東北無二の高等呉服太服
 ▼裏日本稀有の高等洋貨雜貨
 ▼東京に行かすして現代の流に後れず
 ▼地方に在りて優越精良の物品を購求し得
 關東北第一の公園に來觀せらるゝ各位は附
 近に位置を占むる弊店に是非御立寄あらん
 ことを請ふ

秋田市土手長町

新田目本店

電話(一三三)四一四
 振替 一三五三二



總説の卷

△地理上の秋田……………一

管轄……地勢……山岳……河川……湖沼……原野……山林……鑛山……陸路……海路……
 鐵道都邑……氣候……物産

△歴史上の秋田……………八

沿革……秋田縣廳の創設……縣長官

●現代の縣勢……………一〇

人口戸數……土地……縣の財政……郡の財政……市の財政……町村の財政……縣の財産……
 市町村の財産……公共團體の債務……選舉有權者……生産力……諸税の負擔……貯蓄金融

△本縣重要五問題の解決……………一六

船川築港……船川鐵道……船越沿岸鐵道……陸羽橫斷線……治水問題……雄物川治水工
 事の概要

△水道及び水力……………二二

水力……最近の水力電氣……秋田市の水道……縣下電燈瓦斷界

総説の巻

地理上の秋田

□管轄 秋田縣は大日本帝國東山道の北西に位し羽後國秋田市、南秋田、北秋田山本、河邊、由利、仙北、平鹿、雄勝の八郡及陸中國鹿角郡の一市九郡を以て成る。

□地勢 地勢は南北に長く東西に短かく東、仙北郡(岩手縣境)仙巖峠(東經百四十度四十一分)より西、由利郡(日本海沿岸)松が崎(東經百四十度二分)迄二十三里餘南、雄勝郡(山形縣境)院内峠(北緯三十八度五十八分)より北、北秋田郡(青森縣境)矢立峠(北緯四十四度二十三分)迄六十六里餘而して東北は駒が嶽、矢立峠、八森山等の峻嶺を以て岩手、青森兩縣に境し南は東安山、烏海山等の高峯を以て宮城、山形兩縣に接せり、斯くの如く東西北の三方は峯巒起伏山脈連亘し西の一方は日本海に面し沿岸線七十餘里を有し中央は森吉(北秋田)太平(南秋田)保呂羽(平鹿)等の諸山盤屈し男鹿山脈(南秋田)は八郎潟を隔て、海中に突出して半島を形つくり南方烏海

の岬と遙に相呼應して一大海灣をなせり。

□山岳 縣内に於ける著名の山岳は左の諸山にて各々祭神を有し古來種々の禁制あり之れに伴ふ因襲また久しきに及べり。

- ▲南秋田郡 太平山(山頂迄四〇〇)馬場目嶽(四、〇〇)寒風山(一、〇〇) 本山(一、一八)眞山(一、一〇)
- ▲北秋田郡 森吉嶽(三、〇〇)田代嶽(三、〇〇)清水嶽(四、一八)
- ▲山本郡 八森嶽(二、〇〇)柏毛嶽(三、〇〇)モヤ嶽(一、〇〇)
- ▲河邊郡 高尾山(一、〇五)岩谷山(一、二〇)
- ▲由利郡 烏海山(九、〇〇)稻村ヶ嶽(三、〇〇)
- ▲仙北郡 神宮寺嶽(一、〇〇)駒ヶ嶽(二、一五)大深嶽(三、〇〇) 藥師嶽(三、〇〇)眞晝嶽(一、二五)大佛嶽(二、〇〇)
- ▲平鹿郡 御嶽山(二、〇〇)保呂羽山(一、〇〇)
- ▲雄勝郡 虎毛嶽(五、一八)五ツヶ嶽(三、〇〇)山伏嶽(五、〇〇)
- ▲牛毛嶽(四、〇〇)小安嶽(一、一八)鑄ヶ嶽(一、二〇)泥湯嶽(六、三五)
- ▲川原毛山(三、二〇)八鹽山(一、一四)杉嶽(三、〇〇)東安山(一、一八)
- ▲鹿角郡 八鹽平(三、〇〇)五ノ宮嶽(三、〇〇)四角嶽(二、〇〇)

中嶽(二、〇〇)來満山(二、〇〇)

□河川 此等の山嶽より源流を發したる河川の多くは西北に流れて本流はいづれも日本海に注ぐ著名の三大川と支流とは左の如し。

雄物川(流域三八^里一三)源流東安山流末土崎港

- △支流 役内川▲高松川▲皆瀬川▲飯澤川(以上雄勝郡)▲旭川(平鹿郡) 鞠子川▲玉川▲檜木内川▲齋内川▲淀川(以上仙北郡) 境川▲岩見川(以上河邊郡)▲旭川▲太平川(以上南秋田郡)
- 米代川(流域三四^里)源流岩手縣二戸郡田山村根石山末流山本郡能代港

- △支流 熊澤川▲夜明嶋川▲大湯川▲毛馬内川(以上鹿角郡)▲犀川▲長木川
- ▲下内川▲山田川▲阿仁川▲小又川(以上北秋田郡)常盤川▲檜山川▲戸川▲淺内川(以上山本郡)

子吉川(流域一一^里二〇)源流烏海山流末本莊港

△支流 芋川▲石澤川(以上由利郡)

此他由利郡平澤町芹田に白雪川(五、〇〇)あり南秋田郡馬場目村に馬場目川(八、〇〇)あり。

□湖沼 湖沼の著名なるものは左の如く最も大なるものは十和田湖、八郎湖、田

澤湖とす。

八郎湖(周圍二〇里)十和田湖(周圍十二里)田澤湖(周圍二里三十三町餘)一ノ目湖(周圍一里)淺内沼(周圍一里四十間)北檜岡沼(周圍一里六十間)

□原野 本縣は其開拓未だ十分ならざるが故に従て廣茫たる平野高原少なからず此等は實に本縣將來を支配するものたるべきなり本縣が眞に振興の實を擧げ得る時代は此等の原野が最も有利に活用せられたる時たるを信せざるべからず。

▲河邊郡 大張野、小平臺、菅森臺、椿臺、戸島臺、御所野臺

▲南秋田郡 將軍野、北野

▲北秋田郡 大野臺

▲山本郡 本宮臺、母爺ノ臺、館ノ岱、大野、清水岱、上岱、難澤、中野原、大槻原、下悪戸野、四ッ屋野、大野臺原、十二ヶ村野、九郎左衛門臺、保龍原、金光寺野

▲由利郡 冬師臺野

▲仙北郡 若林野、戸伏野

▲鹿角郡 菩提野、内野

□山林 米代川及び御物川沿岸は針葉樹林帯にて青森縣境、中央山脉、岩手、山

形、宮城の三縣境は潤葉樹の薪炭林たり而して重なる用材は杉材にて北秋田郡長木澤、南秋田郡仁別澤、男鹿山等は其の最たるものなり潤葉樹林に至つては其の利用の事業今や大に新生面を拓かんとするに至れり

□鑛山 本縣は鑛山の豊富なるを以て定評あり其重なるものは鹿角郡小坂(金銀銅)同郡不老倉(同上)北秋田郡阿仁(同上)鹿角郡尾去澤(同上)仙北郡荒川及び日三市(同上)雄勝郡院内(銀)山本郡八盛(同上)等其他所在鑛山枚舉に遑あらず而して近時一萬石の噴油を以て世界的聲價を高めたる黒川石油は南秋田郡金足村に存在して其油脈の優良を以て目されつゝあるは南秋田郡、由利郡、山本郡、仙北郡地方なり其他土瀝青は南秋田郡の特産にて無煙炭は北秋田郡七日市村に鑛鑛及び炭層は鳥海山下にいづれも無盡の稱あれども探掘事業の未だ大に興らざるを遺憾とせしが最近に於て由利炭鑛會社組織せられ其他鳥海山を中心とせる由利の全土は鐵、炭、石油其他の鑛區試掘出願期次ぐの盛況を呈しつゝあり。

□陸路 秋田市を中心とし南方和田(河邊)大曲(仙北)横手(平鹿)湯澤(雄勝)を経て山形縣に入り福島東京に及び又北方土崎(南秋田)能代(山本)大館(北秋田)を経て青森縣に通じ北海道に及ぶものを國道とす、而して秋田より河邊郡新屋、由利郡本莊象潟を経て山形縣酒田、新潟縣新潟に通ずるを酒田街道又は越後街道と云ひ平鹿

郡横手より岩手縣黒澤尻に通ずるを平和街道と云ひ山本郡能代より青森縣鰻ガ澤に通ずるを大間越街道といひ北秋田郡大館より鹿角郡花輪を経て岩手縣に通ずるを盛岡街道と云ひ仙北郡大曲より角館を経て岩手に通ずるを生保内街道と云ひ何れも縣道の重なるものなり。

□海路。南秋田郡土崎、船川、山本郡能代、由利郡本莊(古雪)平澤、金浦、象潟より東北函館、小樽、樺太、浦潮斯德等に通ず又津輕海峽を過ぎ横濱神戸等に航するを東廻り線と云ひ西南酒田、新潟、伏木、敦賀等より山陰道に沿ひ下の關海峽を過ぎ内海を経て神戸、大阪等に達するを西廻り線といふ。

□鐵道。鐵道は福島、青森間の奥羽南北線に延長し秋田市は其中樞に位し福島より百八十六哩八鎖、青森より百五十五哩五鎖、南端は雄勝郡院内に始まり北端は北秋田郡陣場に止まり停車場二十六、山形福嶋を経て東京に至る三百三十五哩、二十二年間に達し又青森、仙臺をも迂回し得べし、又支線には山本郡能代、機織間の二哩三十五鎖、私設線には小坂鐵道會社の鹿角郡小坂北秋田郡大館間の十四哩と秋田鐵道會社の北秋田郡大館より扇田十二所を経て鹿角郡毛馬内、花輪に通せんとするありて現在は既に鹿角郡松木に達しつゝあり更に豫定線として實測調査終了せる羽越沿岸線は起工中にて大正十年全通の豫定にて一部秋田市道川間は八正八年十一月

開通の運びを見るべく又た陸羽横斷線横手黒澤尻間は其の一部起工せられ私設横莊鐵道は横手大森間十三哩本年八月を以て開通し更に盛曲線即ち大曲盛岡間の鐵道も實測調査を再び繼續せんとするあり本縣鐵道の前途頗る好望なるを見んとす。

□都邑。秋田市は縣の中央に位置を占め縣廳兵營等の官衙及び重なる學校等を有し縣治の本源一縣の大都會たり之れに次ぐは南秋田郡土崎港、北秋田郡大館町、鷹巢町、山本郡能代港、由利郡本莊町、仙北郡大曲町、平鹿郡横手町、雄勝郡湯澤町鹿角郡花輪町等にて共に郡役所及び警察署所在地たり但し北秋田郡役所は鷹巢町に在り大館町は警察署を有せり又河邊郡牛嶋町には郡役所を有すれども秋田警察署の派出所たり其他南秋田郡の船川港、河邊郡の新屋町和田村、仙北郡の角館町、六郷町、刈和野町、平鹿郡の角間川町増田町淺舞町、雄勝郡西馬音内町、由利郡の矢嶋町、鹿角郡平澤町象潟町、鹿角郡の毛馬内町小坂鑛山等いづれも著名なり。

□氣候。本縣は日本海の暖流を有するを以て岩手、青森兩縣に比すれば割合に氣候溫暖なり氣象區は北越地方と同じく第七區に位し雨雪の最多し風は四季共に感ぜざるなく殊に秋冬季に於ける西方又は北西より襲來するものは寒冷にして冬季は降雪と混じて吹雪を現す又二百廿日前後に暴風起り穀物を害すること多し温度は和適にて動植物の成長も良好なれど由利郡本莊以北の地は柑橘、無花果等の類結實せず

霜は雪に比して尠なく雪は十二月に降り三月に融消するを常とす。

□物産 縣下物産少なからず其重なるものは金、銀、銅、鉛、鐵、石油、米、豆麥、松材、繭糸、牛馬、清酒等にて山海河湖の産物饒多なると共に加工品としては秋田市の畝織、八丈縞、銀細工、鐵瓶、南部表、能代の春慶塗、大館、角館の樺細工本莊の桑酒、龜田の紫蘇織、横手の木綿絞り、湯澤の曲木細工、川連の漆器等は其の最たるものなり殊に名物として指を屈せらるゝは落、落摺、落の砂糖漬、畝織八丈縞、銀細工、春慶塗、樺細工、曲木細工、鱒等なり而し最近聲價を揚ぐるに至りしは鹿角の紫紺絞、茜染、大曲十二所等に於けるタオル製造にて八郎湖産の白魚鱒詰小魚の佃煮等いづれも縣外に輸出せらる。

— 歴史の上秋田 —

□沿革 本縣は上古北越地方と共に越しの國と稱し所謂東夷の跳梁地たりしが元明天皇の和銅五年越の國の開申によりて出羽國を置かれたり而して國府出羽柵は始め出羽郡(今の山形縣田川郡)に在りしが聖武天皇の神龜元年出羽の蝦夷叛せし際鎮將小野牛養來り鎮撫し又大野東人將軍として多賀城を築き鎮とせしも天平五年出羽

柵を秋田高清水岡に移し府治を行ひ淳仁天皇の天平寶字五年秋田城を築き府治の外に兵治を置きしが寶龜元年に國府を出羽郡に南遷し専ら兵治を行ひしが桓武天皇の延曆二十年大に蝦夷を討ち秋田城を廢して更に志波城を築ける後陽成天皇の元慶二年秋田城は蝦夷の焼く處となり國司興世出羽權守保則進戰して大敗す更に小野春風鎮守將軍となり東征して遂に全く平定するを得たり、斯くて前九年の役後康平六年清原武則功を以て鎮守府將軍となり威を奥羽に振ひしが武則の死後寛治五年源義家陸奥守兼鎮守府將軍に拜す然るに州の豪族清原氏の一族家衡武衡等叛し仙北郡金澤の柵に據りしかば義家弟義光(佐竹家の祖)と謀を定め金澤城を抜き二衡を誅す、後ち北條時代に安東氏を管領として津輕に居らしめ足利氏に至り更に秋田二郡を與へたり、安東家は貞任の二男高星丸の安東太郎と稱せしに起り後ち徳川家康の命により安東を秋田と改めしが關ヶ原の役に名代を出せし咎により常州に遷され佐竹義宣は秋田に遷封せらる實に慶長七年なり爾來義宣封内に割據せる群雄を一掃し今の南北秋田、山本、河邊、仙北、平鹿、雄勝の七郡を管し三百年昌平の基を開けり、外に由利郡には六郷家、岩城家、生駒家等の諸藩散在せしが明治の初年皆各其の藩籍を奉還するに至る、又鹿角郡は舊盛岡藩に屬せしが明治四年廢藩置縣に際し秋田縣に合せらる、而して明治元年出羽を分割し羽前羽後の兩國を置かれ羽後國に屬する

は秋田、河邊、仙北、平鹿、山本、由利、飽海の八郡たりしが明治四年十一月秋田縣を置かる、時は飽海郡は山形縣に屬し陸中國鹿角郡は秋田縣に編入せられ同時に秋田郡は南北二郡に分割せられ更に市制實施せらるゝに際し秋田市は南秋田郡より分立し現在一市九郡となれり。

□秋田縣廳の創設 明治五年一月秋田郡秋田長町九十二番地に開廳せられしが明治十三年四月十九日南秋田郡秋田土手長町に新築移轉し以て今日に至れり。

□縣長官 置縣以來長官の交迭二十三人曰はく小笠原幹、村上光雄、嶋義勇、杉孫七郎、國司仙吉、石田英吉、赤川戀助、青山貞、岩崎小次郎、鈴木大亮、廣瀬進一、平山靖彦、岩男三郎、武田千代三郎、志波三九郎、椿泰一郎、岡喜七郎、床次竹次郎、清野長太郎、下岡忠治、森正隆、秦豊助、阪本三郎、小島源三郎、川口彦治の諸氏なりとす

現代の縣勢

□町村數 一市九郡に於ける町村數は現在二百三十九にて内組合三あり町村は四十二村數百九十七を有し之れを各郡別とすれば南秋田郡には三十五ヶ町村、北秋田

郡には三十二ヶ町村、山本郡には二十六ヶ町村、河邊郡には十五ヶ町村、鹿角郡には十ヶ町村、由利郡には三十一ヶ町村、仙北郡には四十ヶ町村、平鹿郡には二十五ヶ町村、雄勝郡には二十五ヶ町村を有す。

□人口戸數 大正六年度末の現在戸數は十三萬八千八百九十戸にて人口百萬二千四百七十七人、一戸平均六人九分九厘、面積一方里に對し一千三百二十二人當りとなる而して人口増加率は十ヶ年平均にて千に對し十二人五分五厘の割合とす。

□土地 最近の調査による土地總計八十一萬六千四百六十六町步餘にて内民有地四十四萬一千七百九十七町步其内譯田地十萬六千一百九十九段（耕地整理の結果増加せる分多きも茲に算入せず）畑三萬四千五百二十七町步、宅地八千四百五十七町步、山林九萬三千四百七十一町步、原野九萬八千二百四十四町步其他六千四百九十五町步官有地總計四十七萬四千三百四十九町步内譯田地三町步、畑三十二町步、宅地二町二段、山林四十一萬百七十町步、原野千七百二十六町步其他六萬二千四百四十四町步なりとす。

□縣の財政 府縣制施行前即ち明治二十二年は僅に五十萬圓の豫算を計上するに過ぎざりしが三十五年に至りては一躍百十五萬圓に上り三十八年度に於ては日露戰役に際し緊縮を旨とせる結果七十四萬圓に至れるも大正九年度に於ては更に百四十

四萬圓に向上せられ大正二年には整理緊縮の結果百貳拾九萬圓に下り同三年度には百二十三萬圓に減じ同年度には御大典紀念事業及第二道路改修計畫等を實施する爲め百二十八萬圓を計上し同五年度には船川築港工事費其他の増加に伴ひ百五拾萬圓を計上し大正七年度に於ては雄物川改修工事費分擔金の關係上二百二十六萬圓に達したり而して其財源を擧ぐれば左の如し。

▲地租割七十三萬四千圓▲營業稅附加稅三萬圓▲鑛業稅附加稅一萬三千圓▲所得附加稅三萬三千圓▲營業稅三萬一千圓▲雜種稅十四萬五千圓▲戶數割二十九萬三千圓▲國庫補助金二十一萬三千圓▲縣債五十二萬圓二千圓

□郡の財政 郡制施行以來明治二十七八年度頃迄は一ケ年の經費僅に二三萬圓の間を昇降するに過ぎざりしが同三十六年度に於ては十三萬圓となり大正二年度に於ては十六萬圓の多きに上り同三年度に於ては前年凶作の結果可及節約を加へたる爲め一萬圓を減し十四萬圓に下れるも同五年度に於ては再び十六萬圓に増加し大正七年度には更に増加し十八萬圓となれり。

□市の財政 市制實施當時に在りては一ケ年の經費僅に一萬圓を出でざりしが市勢の發展に伴ひ累年増加し明治二十九年に於ては兵營敷地購入寄附の爲め十三萬圓を要し同四十年に於ては十萬圓に上れり最近大正七年度は十萬圓に上れり。

□町村の財政 町村制實施當時は二十四萬圓を出でざりしが明治三十一年は九十三萬三十六年には百六十萬圓の多きに至り大正二年に更に二百七萬圓に増加し大正六年度には二百三十八萬圓を計上するに至れり。

□縣の財産 大正六年四月一日現在財産の内容を擧ぐれば左の如し
▲普通財産二百七萬七千圓▲公用財産百二十一萬六千圓▲各種の基金▲明治慈惠基金十萬六千圓▲大正慈惠基金五萬五千圓▲大正賑恤基金一萬三千四百圓▲罹災救助基金七十九萬七千圓▲小學校教員恩給基金七萬一千圓▲縣立學校基本財産積立金四萬二千圓▲小學校教員加俸資金八萬五千圓▲教育資金十萬三千圓▲救濟事業資金八萬圓。

□郡の財産 大正六年三月三十一日現在に於ける財産各種總額は十三萬九千圓なりとす。
□市町村の財産 大正六年三月末日現在の財産總計四百三萬七千圓にて特定目的の爲めに設備するもの九十四萬五千圓なりとす。
□公共團體の債務 最近に於ける縣債其他の債務は左の如し

▲縣債二十三萬二千圓 償還期大正十年度)▶市債四十三萬四百二十五圓(償還期大正二十三年度)▲町村債九萬九千六百三十三圓(償還期大正十四年)

□選挙有権者 一百万の人口を有する本縣の衆議院議員選挙有権者は二万人以上にて縣會議員選挙有権者は三萬七千八百人以上に過ぎず。

□生産力 最近の調査によれば本縣一個年の生産總価格は八千七百七十萬圓（大正五年）にて現住人口一人平均九十圓三十六錢に當る其の内容を擧ぐれば左の如し

▲農産三千六十四萬圓（内産米價格二千五百九十萬圓）▲蠶糸類二百五十四萬圓（内産繭價格百二十八萬圓）▲畜産百三十七萬圓（内産馬價格四十三萬八千圓）▲林産九百七十三萬圓（内國有林價格百二十九萬圓）▲鑛産三千六百九十八萬圓（内石油三百六十二萬圓）▲水産百四十二萬圓（内鱒價格六萬三千圓）▲工産五百二萬圓（内酒類價格二百六十七萬圓）

□諸税の負擔 縣民の諸税負擔總額は大正四年決算額四百九十三萬八千圓にて現住戸數一戸割當三十五圓九十九錢現住人口一人負擔額五圓十四錢となり大正五年の生産額に對比すれば五パーセント六三に當る其の内容は左の如し

▲直接國稅百九十九萬八千圓 ▲縣稅百十五萬圓（大正七年度は百二十八萬二千圓）▲市稅七萬二千圓（大正六年度は八萬三千圓）▲町村稅百七十一萬七千圓（大正六年度は百七十五萬七千圓）

□貯蓄及び金融 奥羽六縣は大体に於て其狀態を同うし隨て資産の階級も上中下

の三流に區別するを得べきも獨り本縣は貧富の懸隔甚だしく所謂中産者なるもの少く下流者は多く鑛山製材其の他の勞役に服するが故に赤貧洗ふが如きもの割合に少なきを幸ひとすべし而して大正六年末の調査による銀行貯蓄は普通銀行九百二十七萬一千九百七十七圓農工銀行六十七萬二千七百三十圓郵便貯金百七十二萬二千七百六十三圓其他中央より地方民の零細なる貯金を吸收すべく最多の銀行支店代理店の數あり其の額少なくとも百萬圓内外を計上せられつゝあり而して金融界の鍵を握りて一般經濟界を狀勢を左右しつゝある主なる銀行は左の如し

▲株式會社秋田銀行 ▲同四十八銀行 ▲同船川銀行 ▲同仙北銀行 ▲同平鹿銀行 ▲同増田銀行 ▲同植田銀行 ▲同雄勝銀行 ▲同雄勝貯蓄銀行 ▲同秋田農工銀行 ▲合名會社能代銀行 ▲同池田銀行 ▲同五業銀行 ▲同湯澤銀行 ▲株式會社安田銀行支店

此他に東京に於ける銀行支店としては東京國債京和銀行共榮銀行等あり而して縣内銀行の資本金總額四百三萬五千圓にて拂込濟三百七十七萬三千七百六十三圓積立總額百二十一萬一千三百七十五圓なりとす、其他會社信用組合等に於ける出資拂込七百萬圓以上に達す。

— 本縣重要五問題の解決 —

□船川築港。北日本に於ける港灣の數少なからずと雖も少しく風波の起るあらんか荷役困難にして貨物忽ち停滯し或は避難に多數の日子を空費し而して冬期半歳は全く航行を杜絶する等一般商業界及び生産消費者の受くる損害多大にして實に想像の外にあり殊に帝國は軍事上の關係と北海道樺太及び朝鮮の開拓并びに露領浦潮及び沿海州との貿易上北日本海沿岸に良港を得るの必要緊切なるを以て吾が縣船川築港問題は朝野の夙に唱和せるところにして遂に明治四十四年より起工繼續するの運びに達せり、船川港は男鹿半島に於ける一大港灣にして東、生花崎より西、根の崎に至る一里半に跨り東南東に向つて展開し男鹿三山を負ひて日本海特有の北西風を屏遮し土砂を流出する河川なく潮流の速度も亦微弱にて漂砂を入るゝの虞なく海底又比較的深濶にして年中概ね平穩なるを以て船舶を入るるに適し殊に冬期の好泊地たり現に風波の起れる際は航行の船艦遠く來りて難を此處に避くるを常とす、天然の形質此の如くなるのみならず露領浦潮との間其の距離最近く加ふるに低額の費用を以て一大良港となし得べきを以て之れを修築して海陸の連絡を通ずるに知ては露

國との關係は固より奥羽交通の形勢一轉し四方の貨客蔚然として茲に集注し來らんとは識者を俟たずして明らかなり、築港後に於ける貨物の集散果して幾何に達するか既往の事實に基き確然明瞭なるもののみを推算するも尙且つ五十萬噸三千萬圓の多きに達す若し夫れ今後經濟界の活躍に伴ふ集散貨物の膨脹を豫想せば優に前記の數量を超過するに至るべし是れ本縣が夙に本港の修築と背後鐵道の敷設とを唱導したる所以にて政府も茲に見る所あり土崎港を包容せしめて之れを指定し背後船川鐵道の敷設も亦着手せらるるに至れり、而して本港の修築に付ては約六百萬圓の費用を要し直ちに其の全部を完備するは頗る至難の業なるを以て向後港市の發達に伴ひ漸次經營を進むるの方針を執り先づ其の一部を修築せんとし明治四十四年度以後三ヶ年の繼續事業として工事に着手せり、工事の概要は先づ三百萬圓を以て埋築工事防波堤工事、船入場工事を施し普通灣となし更に大なる要港と爲さんが爲め三百萬圓を以て第二防波堤工事、浚渫工事、繫船設備工事、陸上設備工事、第二埋築工事を以て之れを大成するにあり、斯くて船川鐵道の完備と伴ひ海陸を聯絡し土崎港を接近せしめ商港としての面目を發揮せしめんとす。

□船川鐵道。船川鐵道は奥羽線追分驛より分岐し南秋田郡天王、船越、脇本の諸村を経て船川港に至る延長十五哩餘にて茶白山の墜道及八郎湖口の架橋の外概ね平

易に施工せられ大正四年十二月一日既に羽立驛を開通し翌年末に埋立地に全通するに至れり本鐵道は船川築港と唇齒輔車の關係を有し兩々相俟つて奥羽地方開發の大關門たるのみならず亦以て北日本海の樞軸となり軍事、商事の上に重要な關係を有するものとす。

□羽越沿岸鐵道

羽越沿岸線は新潟縣新發田より鶴岡酒田本莊を経て秋田に至り奥羽線に聯絡するものにて秋田市迄の延長百五十哩七分にて此の全通により京阪青森間は東北線に比し百五十哩を減じ更に信州名古屋等に連絡するを得べし大正四年鐵道技師最上氏主任として來縣實測調査を修了し大正五年度より秋田市を起點として工事に着手せられつつあり本線にして一度開通するに至らば鳥海山麓の鐵礦森林帶及び西海岸各地に包藏せらるゝ無盡の豊庫爲めに容易に拓開せられ縣利に資する所蓋し尠少なからざるべきなり。

□陸羽横斷線

陸羽横斷線に付きては計劃線二あり一は横手驛より黒澤尻を経て北上川を横斷し大船渡に出づるもの一は大曲驛より盛岡に達するものにて其の二線の何れたるを問はず東奥羽と西奥羽とを連結し東北地方の開發上最も必要のものとし本縣は之れが速成を切望するや久しかりしが五年二月其の一たる横手黒澤尻間の經便鐵道案は意外にも貴衆兩院を通過し愈々大正五年度より工事に着手さるゝこと

となりたり本線總經費は七百三十二萬五千圓にて五年度は測量費として約五萬圓を支出さるべし其哩數三十七哩五十鎖にして一哩約十九萬圓を費さるべき工事の至難なるは船川鐵道の一哩僅に三萬圓を要したるに比較すべくもあらざれども其の利益亦大なるを豫想すれば本縣の爲めに眞に慶賀に堪へすと云ふべきなり。

▲沿道の鑛山 横斷線沿道には仙人鐵山、網取銅山、水澤銅山、赤石銅山、松川銅山、鷲ノ巢金山等を始め十數の鑛山錯在しつゝあるを以て本鐵道の開通によりて此等の利源容易に開發せらるるや必せり。

□治水問題 本縣の重要問題として如上瀆灣鐵道の外に三大河川の治水問題の尙前途に横はるゝあり縣民は極力之れが速成を切望する所ありしが御物川治水工事は第一期の確定工事中に編入せられ大正八年度より着手せらるべき豫定たりしが其の年次の火災に基づく損害と土崎港灣との關係上一日も速に起工するを得策として大正五年一月臨時縣會を招集し縣費約百九十二萬圓を之れが爲めに支出するの提案を附議せしが其の年度割に異議あり結極六年度割の修正案を齎らして知事其他の委員上京して當局と接衝し之れを五年度として六年度十五萬圓七年度五十萬圓八年度五十萬圓九年度五十萬圓十年度二十五萬圓支出に決して愈々大正六年度より着手するの運びに至れり御物川治水工事は本流を更に運河によりて新屋濱に流入せしめ

土崎港をして土砂の流出を防止せしめ河岸地方の水害を少なからしめんとするにあり之れによりて多大の利益を得るは秋田市と土崎港なるべく殊に土崎港は其の築港

工事を新たにすると共に海港としての面目を保全するを得べし。

□雄物川治水工事の概要

七百八十萬圓の鉅費を要する雄物川治水工事の概要を

記さんに治水設計の尤も重要な點は築堤にもあらず開門にもあらずして只一の新川掘鑿にあり此の新川すら成らば今後の雄物川たる決して汎濫を見ることなかる可しとは當局の治水に對する根本的解決法なり従つて工事費の大部分も此の掘鑿に投せらるべき筈にして他の有ゆる工事は殆んど其の附帶なりとも稱し不可なきが如し然らば新川は如何にといへば其の延長約十八町、幅員二百間にして水深約十四尺乃至九尺を保たしむる筈場所は新屋町の北方に當り町内を横斷し掘鑿するに至るべし治水施工面は河邊郡川添村椿川より土崎港に至る約五里の延長なるも新川掘鑿の爲め設けらるゝ雄物川開門下より西方は銚子口の突堤築造を除くの外餘り注目すべき工事なき筈なり、然し椿川下流は主として其の右岸に堤防を築き之れにて如何なる洪水の場合にも絶對秋田市河邊部への浸水を防止し得らるといへり、堤防の高さは未だ決せざるも十八尺より二十數尺に及ぶといふ此の割出しは明治四十三年の大洪水に雄物川橋の量水器二十二尺八寸五分を示し平水より高きこと十五尺なりしなれ

ば専ら當時を標準とし更らに若干の増水あるべきものを見込築堤するよし此の結果は川幅も三百間となり兩岸殊に川添、仁井田、四ツ小屋等に於て民家田地及び畠地の賣收せらるゝもの若干戸數十町に達すべく今後十年の後には全く桑滄の變に打たれざるを期すべしといへり此の工事たる只だ巨資を要するといふのみにして極めて易々たるものなれど其新川掘鑿の爲め設けらるる開門より若干の水量を流下せしむべきやは頗ぶる問題にして土崎の生命は殆んど此に在りといふも不可なき程重大なるものなるよし用地は測量の完了次第買收の筈なれど十二月以降は降雪にて不便なれば大部分の買收は八年四月以降なるべしと、第一に着手せらるるは新川にして八年秋より掘鑿機二臺だけ運轉し得らる見込なるよし此の機は用地の地表にある障礙物を排するものにて軌道を敷設し運轉するとの事なりき此の如くにて同工事の眞に活動期とも稱すべきは大正八年後にして七八年は只其の準備時代と名づくるを相當なりといへり。

水道及び水力

附、電燈會社の現状

□水力

本縣の水力は電氣の動力として夙に各鑛山に利用せられ居るの外從來之

れを用ふるもの少なりしが近年漸く利用するの氣勢を呈し明治四十年秋田電氣會社の設置となり之れが水源は由利郡上郷村にある烏海山麓小瀧にて本莊町及び秋田市に電燈を供給することとなりしを初めとして續いて増田電燈會社の設立せらるるあり更に河原田電氣會社、矢嶋電氣會社創立せられ外に認可を得たる鹿角郡に於ける秋田水力電氣會社のある等漸次之れが利用に注意するに至れるは一進境と稱すべきも猶未だ顧みられざる水力尠からず就中田澤湖の如きは海拔九百尺周圍三里地層の陥落に依りて成りし凹窪にて水深百餘尺あり其水位を十尺に低下すること容易にして水量は多大の電力を起し其餘水を以て二千餘町歩の耕地を優に灌漑することを得べし要するに本縣は到る所水力に富み企業各種に利用するを得べく本縣の一大富源なり其の著名なるもの左の如し

仙北郡田澤湖、雄勝郡成瀬川、平鹿郡旭川、河邊郡岩見三内川及船岡川、由利郡白雪川、北秋田郡阿仁川、鹿角郡宮川、山本郡藤琴川、南秋田郡馬場目川、
 □最近の水力電氣 歐洲戰亂以來鑛山の開發と工業の勃興に伴ひ各地にて電氣事業が盛んに計畫され來れるが本縣の如きも水利の豊富に伴ひ二三年來水力電氣を企劃するもの夥しくなり其状況を最近に徴すれば既に使用を認可し或は工事の完成せるものは二萬五千馬力なるも、工事中若しくは起工の手續き中に屬するものは一萬

五千馬力にして合計すれば四萬馬力に達せり然してこれが事業所は全縣に亘りて約四十個所にて此以外に七年五月末迄の出願中のものは如上の倍力の八萬七千馬力にして尙今日迄續々出願ありて調査に没頭せざるべからざる状態にあり然るに逓信省が最近本縣の電力を調査發表せる處によれば全縣の河川にしてこれを利用し得るもの約百個所にて濁水時にありての出力九萬馬力を得更に平水時とせば約二十萬馬力を得るに容易なりとせり若し夫れ既往の使用認可工事完成のもの若しくは起工手續き中のものを合せる四萬馬力を控除せば尙は平水時の出力に於て本縣の電力餘裕は實に十六萬馬力を有するの數字を示し前途之が企劃又頗る望を囑して可なるが如しと雖も事業者の稱する馬力は實際調査の末其幾分を減するは常に尙は事業者中水利權を得るが或は一時的利得を欲して事業の開發進展を顧みざるものありとすれば縣國の爲め甚だ杞憂すべく將た警戒すべき事なり、そは別問題として斯の如き本縣の水電勃興を三年前即ち大正五年の調査せる總馬力二萬三千に比すれば殆んど倍加し若し出願中のものの半分が許可されたりとせば約四倍の激増を見るに至るべし而して既往の四萬馬力の使用分布を見るに鑛山側は其九割を占め、一般民間の電力電燈會社は漸く一割に及び、之を都市に需むれば鹿角郡は最も多きは云ふ迄も無く小坂を主とし各鑛山の計畫するものあるに依り、而して未だ工事に着手せざるも

既許可の分にして馬力の最も多きは雄勝郡皆瀬川の平水時出力四千と鹿角郡米代川（宮川村）の千三百なるが皆瀬川は電力のみと云ふも米代川は完成の上は大館、能代を初め火力に依りつゝある下三郡の電燈會社に之を供給し惹いては其統一を圖るの機運に至り随つて需要者も亦幸福なるべし。

□秋田市の水道　由來秋田市民の常用する飲用水は井水及び市中を貫流する旭川の河水なりしが河水は舊藩林制の頽廢と共に水量一層減少して時に涸渴することあり又井水に至りては全市を通じて一千有餘の内水質稍佳良にして飲料に適當すべきもの僅に百六十一個に過ぎず故を以て水道敷設計書を企て縣も亦之れを補助せんとするの舉に出でたりしも竟に機熟せず荏苒遷延したりしも偶々奥羽線の敷設と歩兵十六旅團の設置以來之れが施設を早やからしむるに至れり縣は明治三十八年より毎年五萬圓宛三ヶ年間補助金を下附し日本勸業銀行亦三十九萬圓餘の貸與を契約するに至れり總工費五十萬圓餘を以て三ヶ年の繼續事業とし國庫の補助を仰かず獨力水道敷設を企て内務省の認可を得て始めて其の工事に着手せり然るに明治三十七年に至り戦局に際し加ふるに諸物價の昂騰に依り且つ秋田市區域擴張の個所に延長すべき配水管等を増大せる等の結果明治四十年に至り之れを五年度に延期變更し豫算額も亦六十六萬九千五百圓に増額を要するに至れりこの如き秋田市は萬難を排し獨力

國費の力を假らず之れを執行したるも爾來水害頻發し水源地及び水道線路破損等の災禍に遭過し復舊工事等の爲め工費徒に膨大し負擔に堪へざるを以て不得止國庫に補助を請ひ九萬二千圓の補助を得たるも四十年再び非常の慘害を蒙りたりしのみならず從來の設計に欠如する所あるを發見したる結果其復舊工費十萬圓の多額に上りたる等に依り市民の負擔は殆ど其の極度に達し一戸平均五圓九十六錢六厘に當り最早この必要なる復舊工費を負擔するの餘力なきを以て茲に再び國庫の増額補助を出願したり政府に於ても特に秋田市の衷情を諒とし四十三年六月二十日附を以て金七萬圓の補助を下付せられ完成の實を擧ぐるを得たり諸經費前後を通じて實に七十六萬二千八百餘圓内國補助十六萬千圓なり。

▲縣下電燈瓦斯界　縣下現在に於ける電燈及び瓦斯供給の状態は左の如し

- | | |
|-----------|----------|
| 秋田瓦斯株式會社 | 秋田市茶町菊の丁 |
| 秋田電氣株式會社 | 秋田市上中城町 |
| 秋田木材會社電氣部 | 山本郡能代港町 |
| 大館電氣株式會社 | 北秋田郡大館町 |
| 河原田水力電氣會社 | 仙北郡角館町 |
| 増田水力電氣會社 | 平鹿郡増田町 |

五城目電氣株式會社	(火力)	南秋田郡五城目町
北浦電氣株式會社	(火力)	南秋田郡北浦町
鹿角電氣會社	(火力)	鹿角郡花輪町
小坂電氣會社	(火力)	鹿角郡小坂町
矢嶋電氣會社	(水力)	由利郡矢嶋町
船川電氣株式會社	(火力)	南秋田郡船川町
秋田水力電氣會社	(水力)	鹿角郡柴平村
皆瀬川水力電氣會社	(水力)	雄勝郡湯澤町

◎各種板及角類
◎製材精米工場

商標



商

店

秋田市外字川口境
電話二百二十二番

於奧羽六縣品評會受賞



銘酒 宮男 の 鶴山

秋田縣北浦町

醸造元 佐藤新英

サクシヨン瓦斯
コーラル瓦斯
石油

發動機 各種

丸六精米機及各種精米機木工機械
其他諸機械製造

秋田市登町



南鐵工場

場主 南辨治郎

● 土木建築請負業 ●
● 煉瓦土管製造販賣 ●

南秋田郡川尻村新川



瀨谷健藏

電話五一四番

南秋田郡川尻村新川 第一工場
同 郡寺内村 第二工場
河邊郡仁井田村 第三工場

△運送業も誠實取扱可申候

土木建築請負

秋田市四十間堀町

若松正太郎

明治卅二年創立

- ◎ 木材各種
- ◎ 製材販賣

秋田縣土崎港町

③ 前田製材工場

電話三十七番

場主 前田治平

室内暖爐

屋根 銅亜鉛引
スレート

秋田市大町一丁目

山郷鋳力店

電話四四七番

靴、馬具、毛皮、太鼓
 雪駄、鼻緒、下駄表
 爪掛皮細工一切

秋田市花立町

八代仁左衛門

電話三四七番

△蒸氣汽罐、石油及瓦斯發動機製造及製菓用汽罐
 機械、製材用改良單式改良鋸機械、精米機製造
 並附屬品販賣

秋田市上鍛冶町



小永光鐵工場

電略(シケ)又(ハ)シ

院道鐵
 定指御

旅館

秋田驛前

關根屋

電話六三番

優良なる藥品

確實なる化粧品は何處?

吾人は直に赤いくすりや

なりと斷言すべし

(秋田市横町)

秋田縣土崎港町相染

味噌 醬油
酢製造販賣
文 松田文治郎

△大日本製糖株式會社
△各製糖會社
△日本石油株式會社
△日本製粉株式會社

特約販賣店

羽後土崎港町

砂糖 石油
麥粉問屋
六 播磨商店

電話五二番 電略(ハリマ)

國產 金銀細工品商

營業種目 金銀盃茶器
煙管簪類
小林專之助
秋田市下着町

秋田市馬口勞町

精米業 米穀肥料商
と 登利屋市太郎

電話四五六番

鍋釜諸機械鑄物製造販賣

登錄商標

鍋屋



宮越鑄物工場

秋田市外川尻村

秋田市上通町

銘酒金時發賣元
洋酒罐詰各種



刈田支店

電話申込中

第一回秋田縣菓子品評會一等賞金牌
帝國銘産競進會名譽金綬牌

秋田諸越原料元祖
菓子種製造業

長門屋渡部商店

秋田市豊嶋町

枳割業

早川徳治

秋田市馬口勞町

※何程にても御注文に應ず

秋田國產金銀細工美術品製造販賣

營業 純金銀保險附金銀盃、花瓶、香爐、置物、湯
種目 沸、急須、コップ、煙管、時計鎖、箸、平打
動力設置 箸、指輪、玉箸

金賞堂

澁谷金治

電話 七十四番
振替口座東京四〇〇五一番

秋田市川反三丁目橋角

アイデール精米機販賣代理店

秋田市檜山牛島橋通町

米穀問屋
精米業



信太商店

電話 五三八番
同 停車場前出張所
電話 二〇五番
振替東京三八八一三番

國產織物製造販賣

秋田市外川尻

佐藤機業場

場主 佐藤房太郎

米穀精米業
雜穀類販賣

秋田市保戸野表訪諏町

清水式
アイデル式

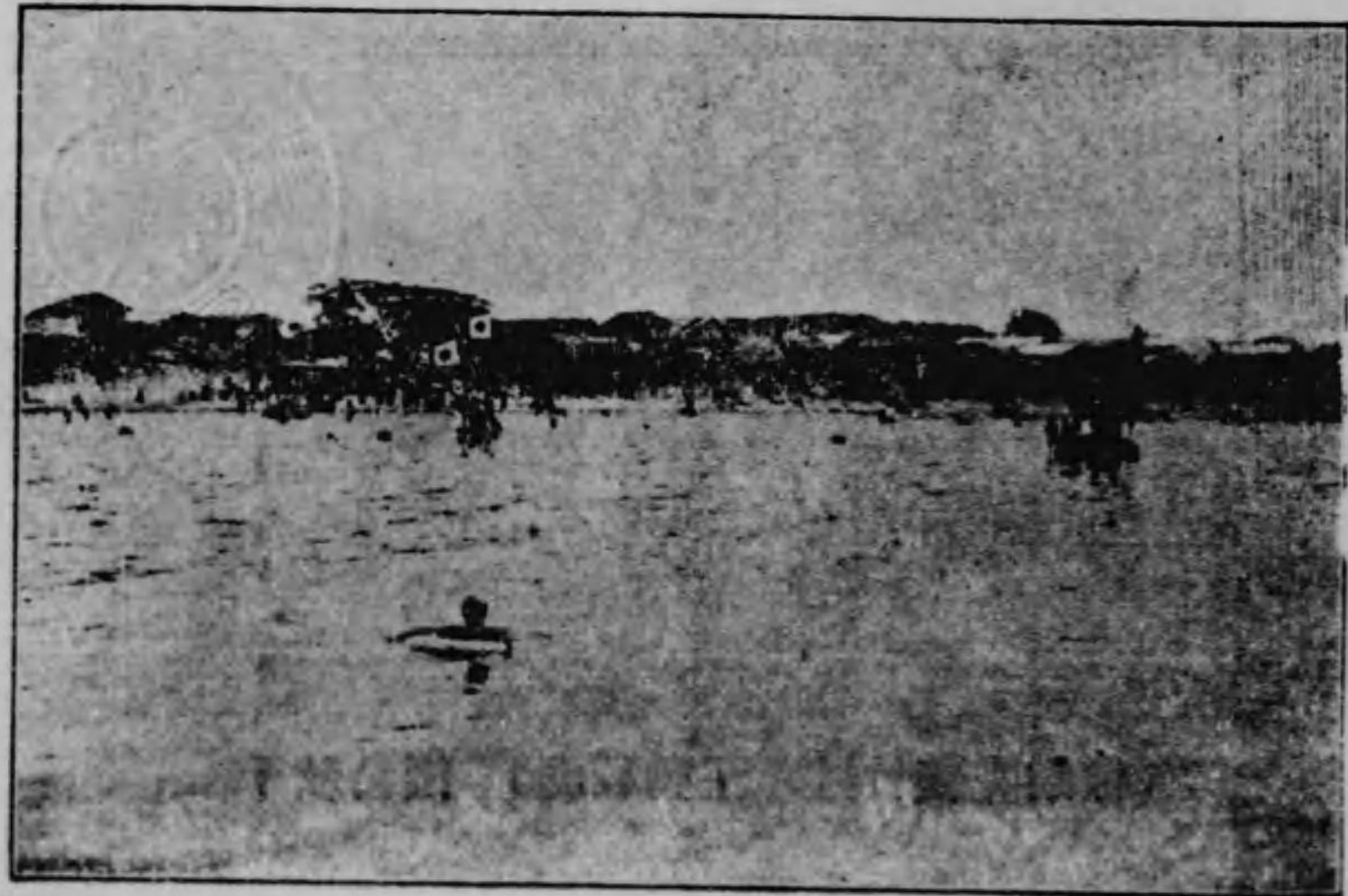


船山精米所

電話架設中



本莊町 朝市の景



象潟海水浴

創業六十年前

酒銘



國

醸造元

橋

本

富

治

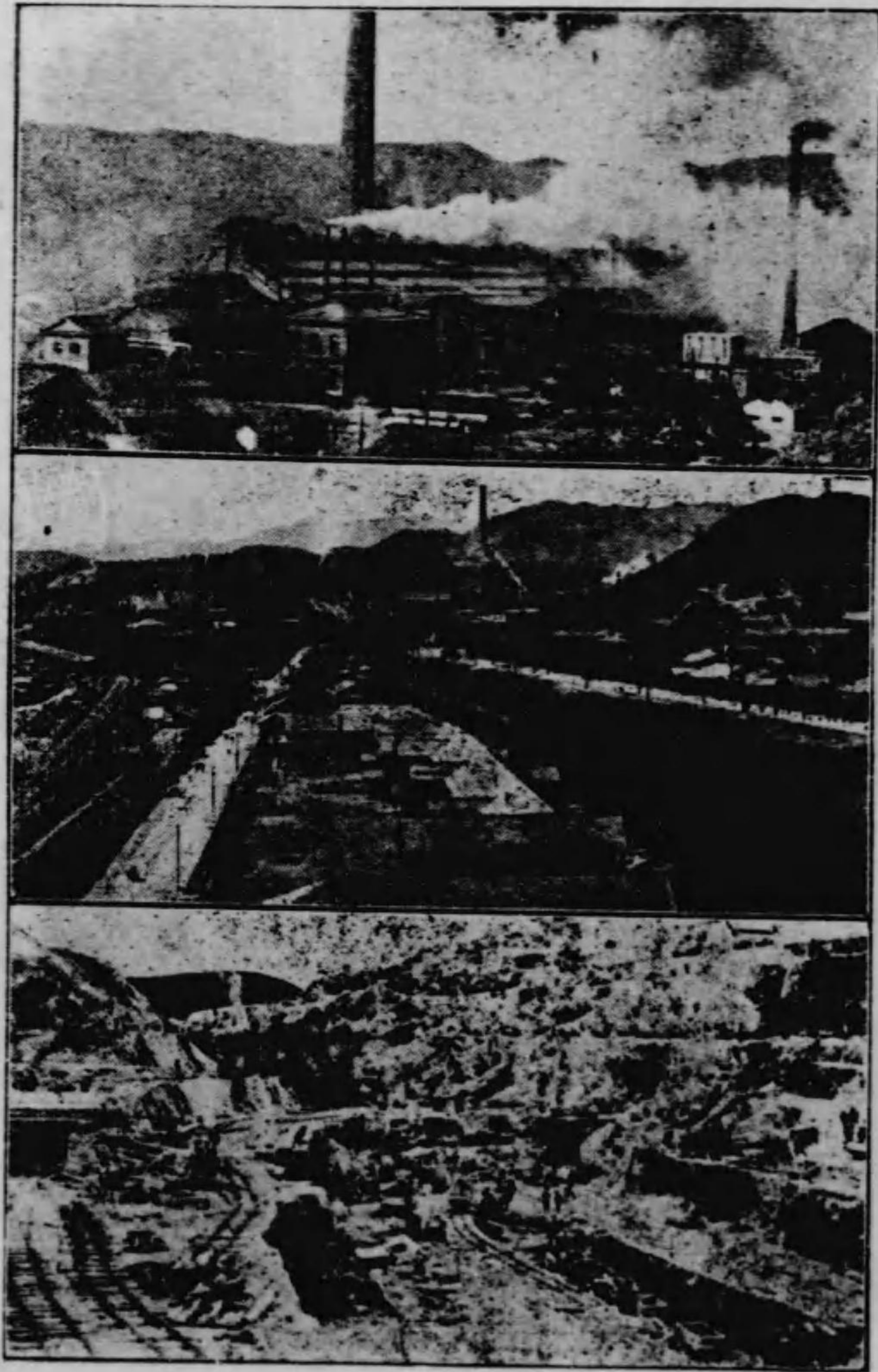
秋田市外旭川村手形

營業種目

落ラム子、落印サイダー、
旗印サイダー、矢留サイダー、
グレプス子ブル

製造元 落ラムネ會社

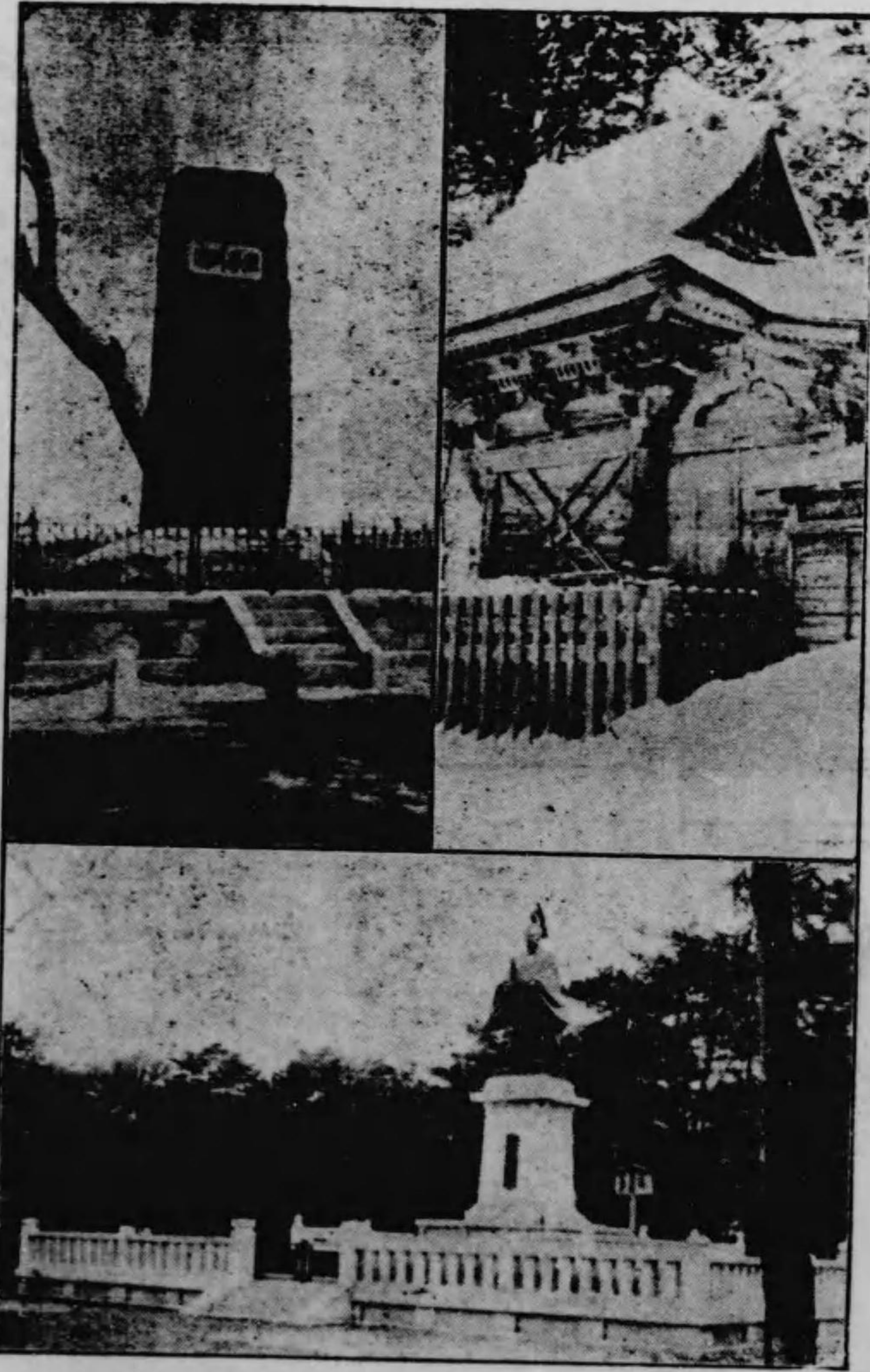
秋田市馬口勢町



小坂製煉所

小坂鑛山全景

小坂露天堀



仙北郡刈和野公園 根本羽嶽先生の碑

仙北郡大曲町 古四王社(特別保護建築物)

(像銅堯義竹佐 王勳辰戊) 園公秋千

長木澤ト口運材



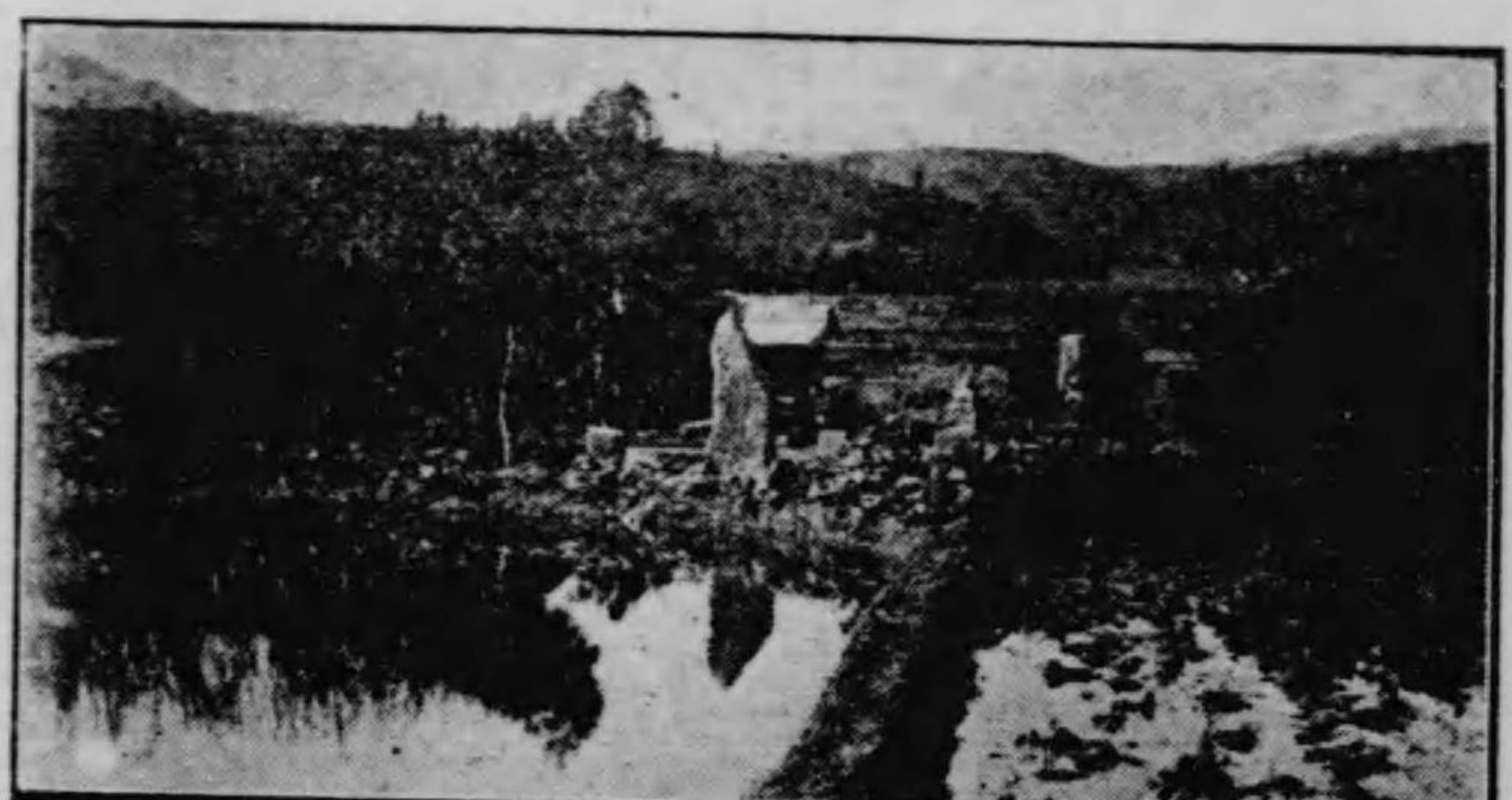
大瀧温泉



大館浄應寺の櫻



芍薬塚

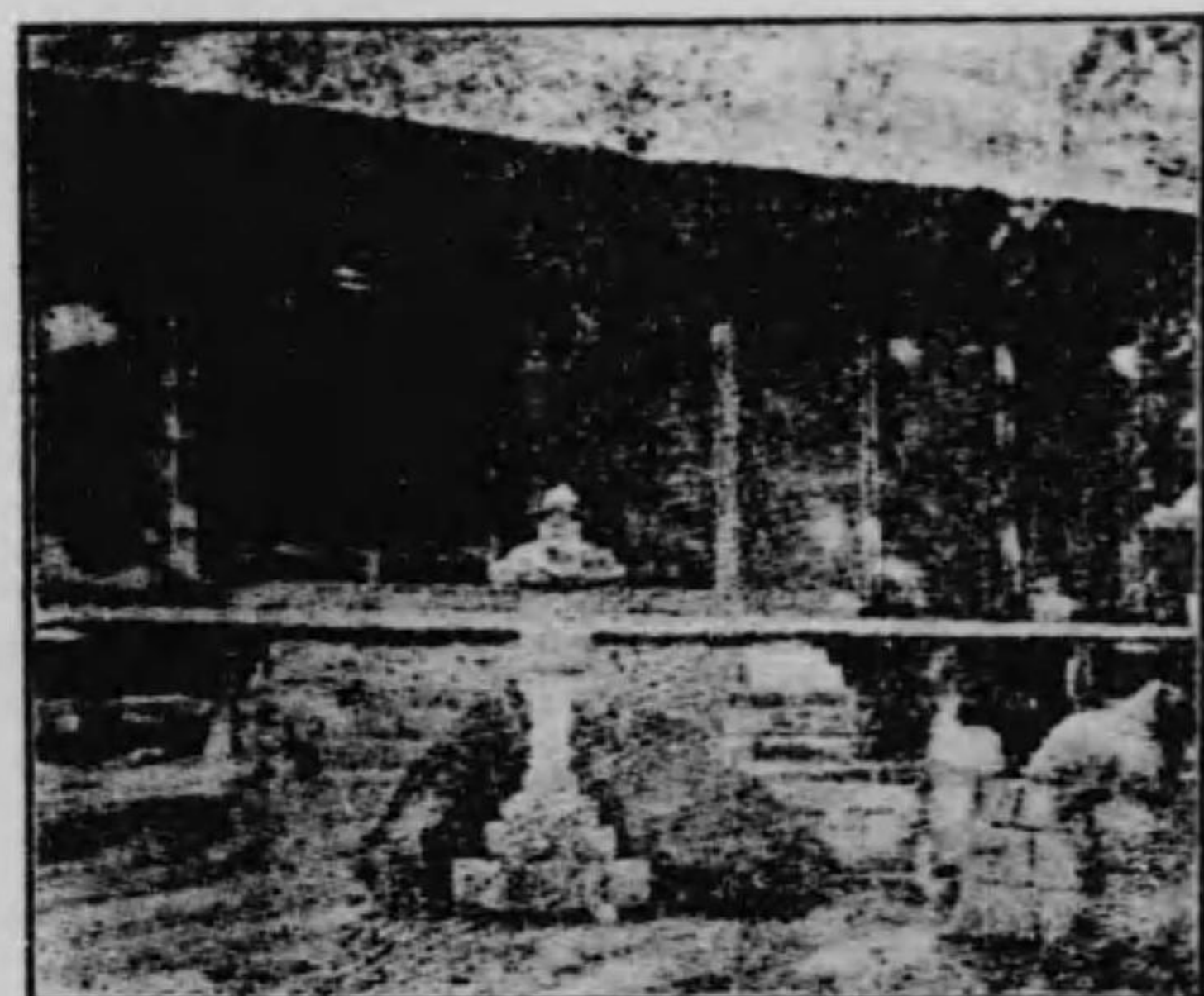


錦木塚



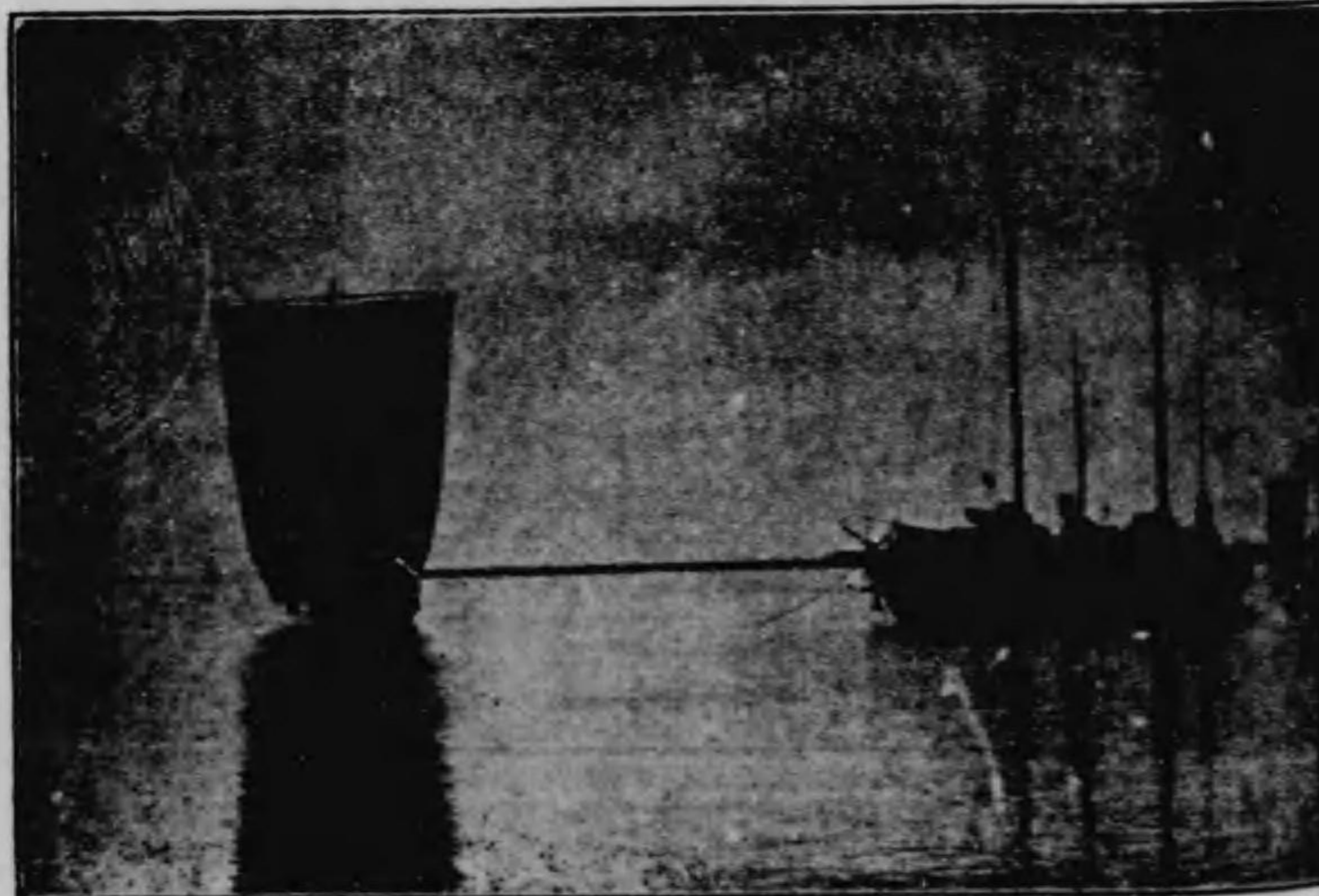
丁乃塚





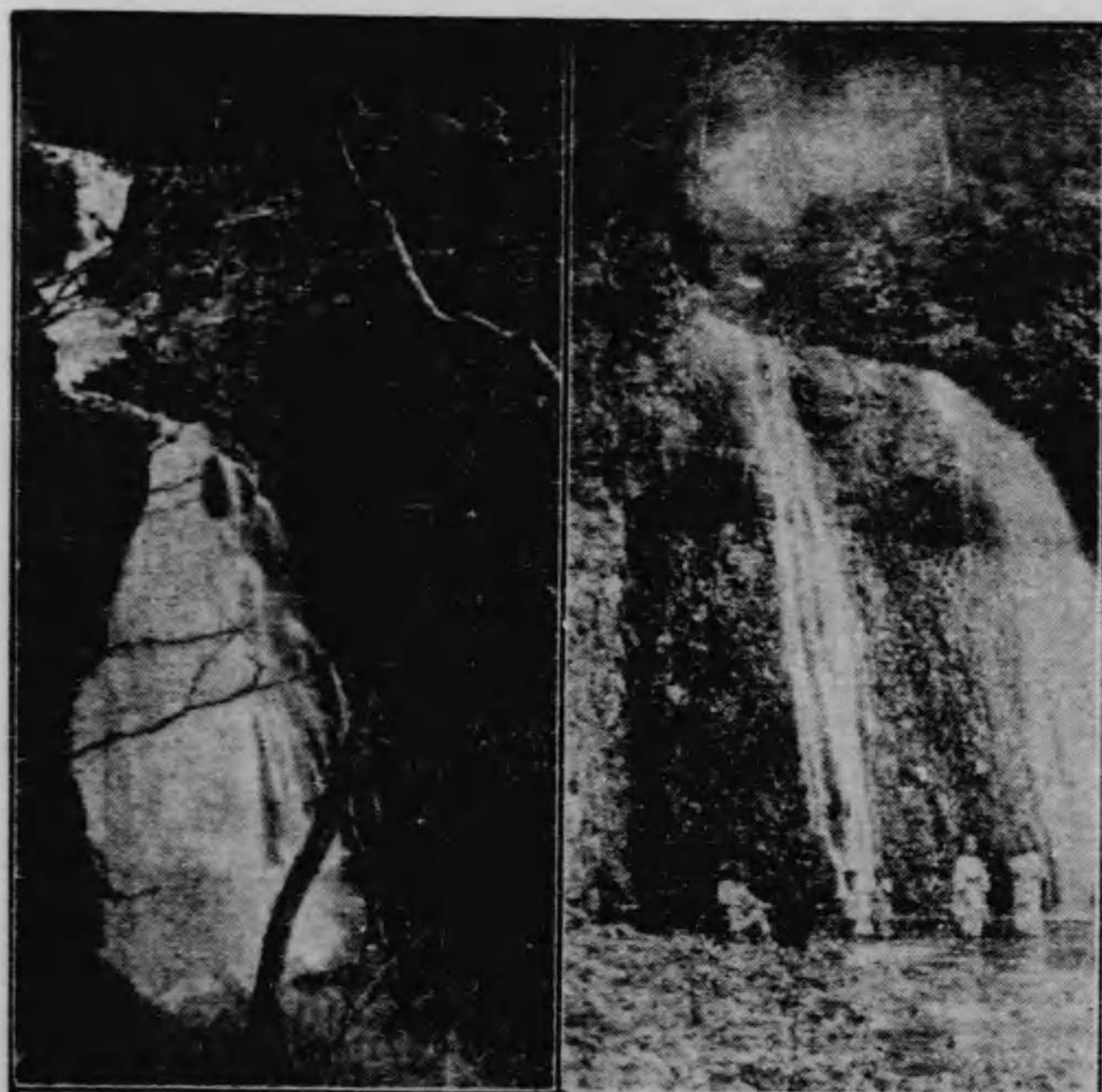
堂日大 郡角鹿

塔重三 園公橋八

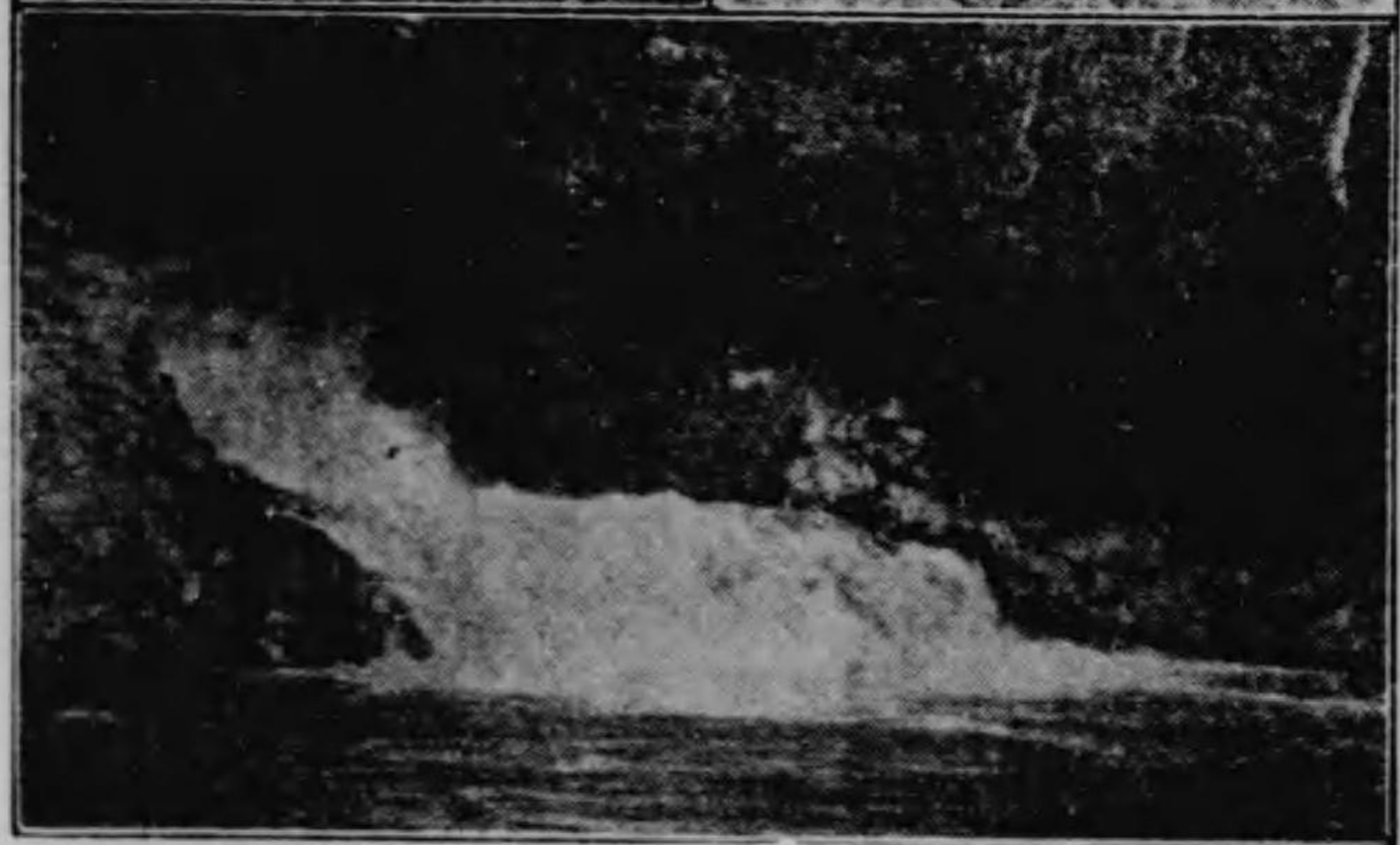


景の川吉子

山本郡椿中濱 白 龍

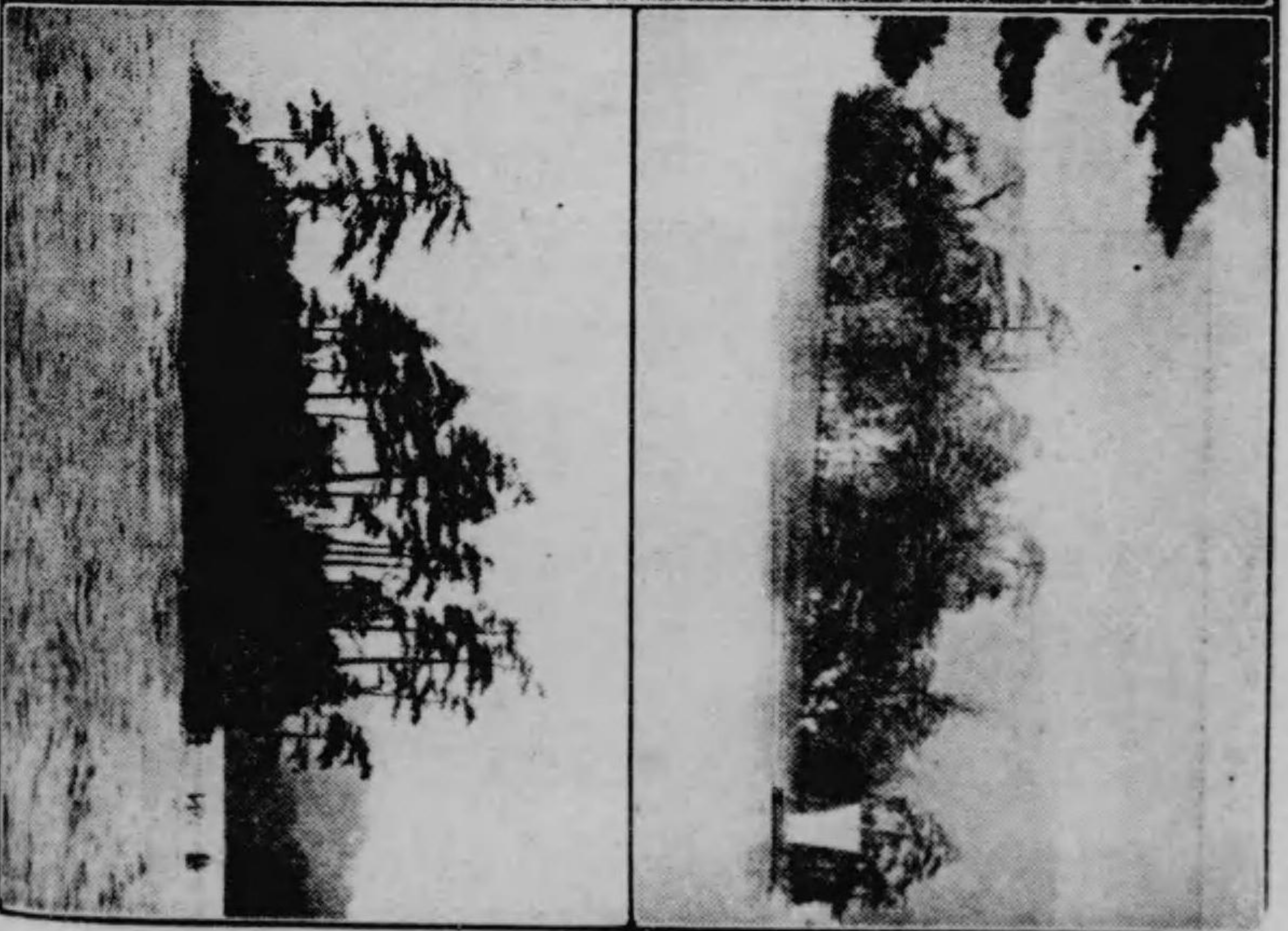


鳥海山中 はつたいの瀑布



瀧 中 村 湯 大

十和田湖 六方石



蟹島 恵比壽島

産業の秋田

産業と人

△農業の秋田

現在の概要……特産整理……園藝……米産と雑穀……肥料……農産物産額……農機……
果實の收穫……蕎麥類と牡丹……農工具……有翼なる開墾事業

二

△畜業の秋田

畜産の發達……畜産獎勵計画……産肉産乳……畜産の秋田……家畜飼養の現況……鹿茸……
産牛及羊豚……家禽

一八

△林業の秋田

森林……製材……油割……薪木の利用……林野……地産物

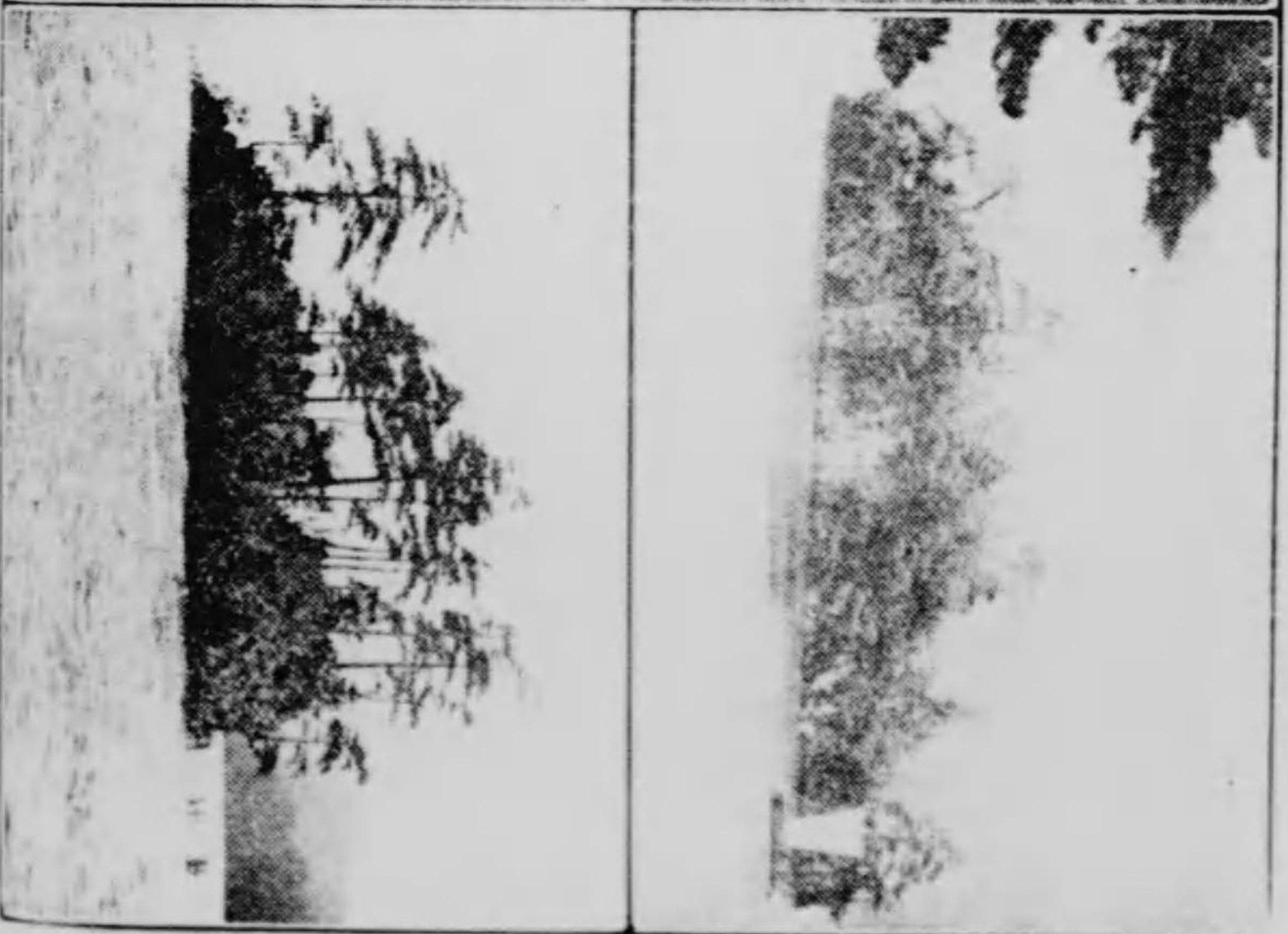
三

△嶺山の秋田

鑛床の分布……鑛産額……石油事業の發達……本縣油河の概況……黒石以上の油弁……
本縣製油産出額……石炭……土産物……農産物産額の所在地……嶺山の概況……小坂……

二六

十和田湖 六方石



雄鳥 惠比壽鳥

産業の秋田

|| 産業と人 ||

△農業の秋田.....二

現在の概要.....耕地整理.....開墾.....米産と検査.....肥料.....農産物産額.....果樹.....
果實の收穫.....蔬菜類と花丹.....薬工品.....有望なる開墾事業

△蠶業の秋田.....一八

蠶業の發達.....蠶業奨励計畫.....産繭産糸.....畜産の秋田.....家禽飼養の現況.....産馬.....
産牛及羊豚.....家禽

△林業の秋田.....三

森林.....製材.....漆樹.....雑木の利用.....林野.....雑産物

△鑛山の秋田.....二六

鑛床の分布.....鑛産額.....石油事業の發展.....本縣油田の概観.....萬石以上の油井.....
本縣製油産出額.....石炭.....土瀝青.....重要鑛山の所在地.....鑛山の概況.....小坂.....

松岡……尾去澤……荒川……阿仁……奈良……不老倉……八盛……吉乃……院内……花岡……田子内

△水産の秋田……………四四

水産の概況……水産試験場事業……漁撈試験……製造試験……養殖試験……調査統計及講習講話……十和湖の養魚……湖漁の煮乾……留意すべき出稼漁業

△工業の秋田……………五〇

工業の大勢……織物……有望なる清酒……金銀細工……銅器鐵器……漆器……樟細工……木通藁細工……竹細工……曲木細工其他……釣針……工産雑類

△商業の秋田……………五五

現在の大勢……會社……港灣輸出入額……鐵道輸出入……産業組合……秋田物産館

産業の秋田

□産業と人 縣下九十萬余の人間は如何なる業務に従事し居るべきかは産業状態を觀察するに就ての先決問題たり今左に統計的に類別すれば

- ▲農業 四四五、三五三 農作業、園藝業、養蠶業、林業及狩獵業、牧畜業を含む
- ▲漁業 一一、二八五
- ▲工業 六六、三五一 採鑛及冶金、金屬に係る製造、竹木類製造、建築其他
- ▲商業 五八、二〇六 物品販賣、旅宿及飲食店、其他
- ▲公務及自由業 二二三、五五三 ▲日雇及労働者 六九、四七〇
- ▲交通業 六、〇八六 ▲雜業 二六、三八七
- ▲無職及職業未詳 二六五、八七一 ▲口 九七〇、六〇八
- 合計 戸數 一三八、八九〇

其他兼業戸數五九、七六七にて兼業人口二六六、六二八ありとす。

松岡……尾去澤……荒川……阿仁……奈良……不考會……八盛……吉乃……院内……花岡……田子内

△水産の秋田

水産の概況……水産試験場事業……漁撈試験……製造試験……養殖試験……調査統計及講習講話……十和湖の養魚……湖漁の煮乾……留意すべき出稼漁業

△工業の秋田

工業の大勢……織物……有望なる清酒……金銀細工……銅器鍛器……漆器……樟細工……木通藁細工……竹細工……曲木細工其他……釣針……工産雑類

△商業の秋田

現在の大勢……會社……港灣輸出入額……鐵道輸出入……産業組合……秋田物産譜

産業の秋田

□産業と人 縣下九十萬余の人間は如何なる業務に従事し居るべきかは産業状態を觀察するに就ての先決問題たり今左に統計的に類別すれば

- ▲農業 四四五、三五三 農作業、園藝業、養蠶業、林業及狩獵業、牧畜業を含む
- ▲漁業 一一、二八五
- ▲工業 六六、三五一 採鑛及冶金、金屬に係る製造、竹木類製造、建築其他
- ▲商業 五八、二〇六 物品販賣、旅宿及飲食店、其他
- ▲公務及自由業 一三三、五五三 ▲日雇及労働者 六九、四七〇
- ▲交通業 六、〇八六 ▲雑業 二六、三八七
- ▲無職及職業未詳 二六五、八七一 ▲口 人 九七〇、六〇八
- 合計 戸數 一三八、八九〇

其他兼業戸數五九、七六七にて兼業人口二六六、六二八ありとす。

農業の秋田

□現在の概要。 農業は本縣産業の要素を占め働きある人員の大部分は農業本位の生活を営みつゝあり全縣下戸數十三萬八千餘にて其内約七萬七百戸は農專業家なり其の人員實に四十四萬五千餘を越ゆ而して耕地大約十三萬五千七百町歩にて民有地の三分一弱に當り縣面積の十分一強に當る耕作地は一戸當り一町八七なりとす茲に最も注意すべき現象は年次自作農の減少することにて現在に於ては自作地六萬五千五百六十町餘にて小作地は七萬六十七町餘なり。

□耕地整理。 本縣の田地は全部にて約十萬町歩なるが去る明治三十四年武田知事時代に於て初めて耕地整理の二十年計畫を立て右十萬町歩の中三分の二即ち約六萬町歩をば一ヶ年平均三千町歩宛整理をなし工事を完了せんとせらるに起因せり然るに其後組合の設立、工事の設計其他諸般の都合によりて漸次遷延し又現況に鑑みて二十ヶ年計畫即ち向ふ十二ヶ年後の大正十八年にて果して完了を告げ當初豫定の如き結果を見得るや如何は疑問とされ居れり否向ふ二十ヶ年後三十ヶ年後ならでは到底完了せざるべしと云ふものさへあれり卓上の案議は暫らく措き全郡に亘りて七年九

月現在の實況を調査するに先づ其機關たる耕地整理組合及び同地區は全縣を通じて百六十九ヶ地區にして郡別せば仙北最も多くして五十ヶ地區、次は由利の三十五ヶ地區、南秋田の二十四ヶ地區降りて平鹿の十五、鹿角の十四、北秋の十三、山本の十ヶ地區等にて河邊の六雄勝の二ヶ地區は其最も振はざるものとす是を各郡工事の現況に見るに左の如くなるが縣を通じて完了せるもの或は完了に近きものを含みて四十二ヶ地區、工事中のものは百六ヶ地區、工事未着手のものは僅に十八ヶ地區なるが、工事完了の面積は約三千五百町歩、工事中に屬するものは約一萬三千四百町歩にして此の工事着手前面積は約千三百十五町歩なりしなり。

郡名	完了	工事中	未着手	計
仙北	一三	三四	三	五〇
由利	一一	二二	二	五三
南秋	六	一五	三	二四
平鹿	三	七	五	一五
鹿角	三	一	〇	一四
北秋	四	四	五	一三
山本	四	六	〇	一〇

河邊	一	五	〇
雄勝	〇	二	〇
計	四五	一〇六	一八
			一六九

次に地区の耕地面積を整理の前後に徴せんに仙北は整理前は約五千三百町歩が後に於て五千七百町歩、由利は約五千三百五十町歩が五千七百九十町歩に、南秋は約二千百町歩が二千二百五十町歩に、平鹿は約一千九百五十町歩が二千百町歩に、鹿角は二百四十町歩が二百八十町歩に北秋は二百町歩が二百三十町歩に、山本は四百三十町歩が六百二十町歩に、河邊は二千三百七十町歩が二千六百町歩に、雄勝は三百町歩が三百五十町歩に孰れも田地が殖ゆるの設計なり若し夫れ是れを全縣に通じては整理前の總面積一萬八千町歩が約二萬町歩となり即ち二千町歩が其の整理により曠を削られ溝を矯められ田となりて耕地の殖わたる譯にて隨つて其の收穫が數年後に於て從來の記録に一變化を與ふる事となるべし而して本縣は馬産地なるを利用すべく農耕上に用ひ乾田馬耕を奨励し一方には農業經營上至大の關係を有する水源涵養を必要とし明治四十三年之れが調査機關を設け更に植樹獎勵規定等を設けて徐ろに其の經營に資せんとしつつあり。

□開墾 本縣の田畑は僅に總面積の一割強に過ぎずして草萊榛々たる原野は到る

處に點在し湖畔若くは河岸の不毛地少からず之れを開拓するに於ては多大の生産地を得るに至るべきを以て縣當局も夙に縣費を支出して其の適地の調査を行ひ又希望者の需に應じ技術上の補助をも爲しつつあり而して其の適地約一萬町歩以上と稱せられ現在に於ては八郎湖畔及び米代河岸の地は最適地と目せられ既に數千町歩の開墾に着手中のものあり其他仙北郡、鹿角郡等にも適地少なからず企業家の奮起と資本家の投資等と相俟つべくんば幾多の耕地期年ならずして増加すべきを信せざるべからず。

□米産と検査 米穀は本縣主要の物産にて耕地約十三萬六千町歩内水田約十萬二千町歩産額平均百五十万石以上に達す隨て其の收穫の豊凶價格の高下は縣經濟の消長に關するや大なり然るに産米の多くは乾燥調製其の宜しきを得ざる爲め貯蔵久しきに耐へず往々腐蝕して本來の眞價を減殺するものあるを以て一面堆肥乾田及び稻架實施規則を制定して培養上根本的改善を促がすと同時に輸出検査規則を制定して管外輸出する米穀を検査し乾燥粒形調製に依りて品位を定め容量俵裝も亦一定の標準に據らしめたる結果容量正確俵裝堅固に調製乾燥も亦全きを得て到る處好評を博し毎歳の輸出高五十萬石以上に及ぶ而して其取引は一々現品に依るの勞を省き一片の書束を以て検査等級に依り圓滑に授受せられ信用益々厚きを加へ逐年北海道京阪

其他の地方に販路を擴め東京市場に於ては毎次豫想外の好成绩を占むるに至れり又各郡に地主會なるものありて産米の改良に留意し縣は生産米を検査し兩々相俟ちて生産米の改善を企圖しつつあり。

▲検査所數 検査支所七 輸出米検査所七 産米検査出張所二二〇

□肥料 本縣に於ける田地の主なる肥料は山野の雜草を原料とし之れに厩肥を混じたる所謂堆肥にて之れ實に本縣農作の命脉とも言ふべく其手數簡易にして且つ經濟に加ふるに營養分に富める農家必須の肥料なり秋田の米作は一反歩平均一石七斗の少量にて而かも價格の廉なる之れを他府縣より見れば米作は全く利益なきが如くなるも決して否らず其の原因は肥料として最廉價なる堆肥なるを以て其損得相償ふを知らざるべからず然れども堆肥の成分中磷酸少なきを以て肥料として決して十分なりと稱するを得ず本縣が一反歩一石七斗以上の秋收を得んと欲せば尙他に相當の金肥を加用せざべからず而して本縣に於ける消費高年々十二萬圓内外なり。

□農産物産額 大正六年に於ける本縣管内の食用特用農産物（茲にては米及麥の産額を除く）の作付別反は三萬三千二百二十六町一反歩にして此收穫價格六百五萬四千五百五十二圓即ち一反歩に對する所得額十八圓二十二錢なりこれを食用及特用に細別すれば食用農産物の作付反別は三萬二千四百十二町六反歩此價格五百八十八萬

七千八百五十八圓にして一反歩につき十八圓十六錢の所得なり、特用農産物の作付反別は八百十三町五反歩にて此價格十六萬六千二百九十四圓にして即ち一反歩につき二十圓四十四錢の所得に當れり食用農産物中重なるものの作付反別及價格左の如し

種類	作付反別	價格
大豆	一二、八三九町	一、二三一、九三八円
小豆	二、六八九	二〇六、八七七
豌豆	三〇四	三七、六八六
粟	二、九九五	二九七、四〇六
稗	二八二	一八、〇二〇
蕎麥	一、七七九	一二二、四二四
玉蜀黍	一八三	一九、一四九
甘藷	〇七一	一五、九八七
馬鈴薯	二、七四二	五一五、五八八
大角豆	四〇一	五四、二四二
胡麻	一四六	一四、二〇二
落麻	五一	二一、〇四〇

青芋	一二一	一八一、四九三
生百合	一二	一八、五八三
漬菜	八一	二一六、〇二三
甘藍	三一〇	一〇一、五七六
大根	三、一〇〇	一三七、五一〇
蕪菁	三〇八	八四、五〇〇
胡蘿蔔	八九	四五、八二〇
葱	二六九	一五七、四〇九
牛蒡	三三六	二〇七、三四三
股瓜	六二〇	二四九、一一七
南瓜	二三八	八四、四三〇
西瓜	一四三	九一、七四七
甜瓜	二〇〇	八六、七七六
茄子	八三八	四三八、二五二

次に特用農産物中重なるもの、作付反別及價格左の如し

種類	作付反別	價格
大菜種	三七一町	三三、一六三円
大麻	二六九	七〇、七〇六
葉藍	一七	二三、八二七
蘭草	二一	二一、七七六

以上の中米産額の三千十六萬四千二百十二圓に亞ぐは大豆、大根の各百二十三萬圓馬鈴薯の五十一萬圓、茄子の四十三萬圓等主要なるものにしてこれを大正五年に比し著しく價格の増加せるは一般物價の騰貴に基づく影響なりとす
尙重なる農産物の收穫高及一反步當り平均收量を掲ぐれば左の如し

種類	收穫高	一段步收穫高
大豆	八一、七一〇石	六三六
小豆	一二、八一	四七六
粟	一九、八四〇	六六二
蕎麥	一三、二二四	六〇七
馬鈴薯	四、六九八、六六八匁	一七一匁
青芋	六三五、一七三	一九四

漬菜	二、四八七、六六三	三〇六
甘藍	一、〇九一、八六九	三〇三
大根	一五、四一一、九五三	四九六
葱	六三五、一〇三	二三六
牛蒡	八一三、一三三	二六一
胡瓜	一、七一六、一三二	二七七
茄子	二、一八六、八四九	二六一

□果樹 本縣は氣候概して寒冷なるも夏時は暑熱熾烈にて而も適度の濕氣を含むが故に果樹の生育に好適し鹿角、平鹿二郡の如きは夙に苹果を以て聞ね京阪地方に輸出して好評を博するに至れり仙北、平鹿、山本諸郡の梨も亦著々好成绩を収めつつあり由利郡本莊方面に於ても近時梨の栽培盛んなり其他葡萄に櫻桃に一般園藝思想の普及を來し各地競うて改良植栽に従ふの趨向あり將來農家の副業として頗る有望の事業たるは一般の認むる所となり山本郡の如きは園藝學校の設立を唱道しつつあり現在の果物年額約六十萬圓以上に達す其中最も多額なるは苹果なりとす元來本縣の特産たる茸果は明治九年本縣より特に柿及梨と共に其の苗木を各郡に配付したるに始まり最も早く發達したるは鹿角郡にて其後一時中絶の有様なりしも明治十

九年花輪町佐藤陽之助なるもの盛岡地方より苹果苗四百本を購入栽培したるに結果良好にて大に見るべきものあり其後幾多の變遷を経て今日の隆盛を見るに至れるなり。

□果實の收穫 大正六年に於ける本縣管内の果實は總作付反別に於て二千五百十六町五反歩なるが此收穫價格八十萬二千二百九十四圓に上り平均一反歩につき三十一圓九十二錢にて前年の一反歩當り二十一圓二十九錢に比し十圓六十三錢を増加せるが主として物價の騰貴に基づく影響なりとす、これを總價格により區別すれば苹果の二十二萬九千三百四十二圓は最も多く日本梨の二十萬二千二百二十八圓これに次栗の七萬九千十圓、生柿の七萬五千七百八十二圓、梅の五萬二千四百七十五圓、葡萄の四萬九千七百九十一圓は相伯仲し椀椗、桃、櫻桃、李等は何れも一萬圓以上の産額ありたり。

以上の樹種別及産額は左の如し

	收穫量	價格
梅	三、四九七	五二、四七五
桃	一三六、七八八	三二、六〇六
櫻桃	一六、九一九	一一、八五六

日本梨	八二四、四二二	二〇二、一二八
西洋梨	四五、六二三	一八、五〇五
生柿	四八、七六五	二七五、七八二
干柿	一一、〇四七	六、一五二
苹果	七四七、二七二	二二九、三四二
葡萄	一六九、八九五	四九、七九一
栗	五、五五一	七九、〇一〇
榎 梓	四六、七一五	一三、〇七八
無花果	七、〇三六	三、八七一
林檎(在來種)	一一、六一八	二、六九二
胡桃	一五、四三九	四、三五一
杏	一七、六三六	四、二二九
李	六六、八二一	一一、〇三六
すぐり	一九、七五四	四、五九五
なつめ	一、八四八	五五五
柚	三〇〇	二四〇

郡市別	作付反別
北秋田	五百四十六町六反歩
平鹿	三百九十九町九
南秋田	三百六十町三
鹿角	三百三十町
雄勝	二百四十町七
山本	二百三十六町六
仙北	百四十六町七
由利	百三十町
河邊	九十八町八

(右の中梅及び栗は石數なり)
 更に産額を郡市別とし作付反別を比較すれば北秋田最も廣強にして五百四十六町六反歩、平鹿の三百九十九町九反歩、南秋田の三百六十町三反歩、鹿角の三百三十町歩等之に次ぎ他は何れも三百町歩以下にして各郡中河邊の九十八町八反歩は最下位にて左の數字を示せるが調査上の關係により本反別のみを調査したるものと見積り反別を併せ調査せるものとあるが便宜通計せるものなり。

秋田市 二十六町九

次に各都市に於ける收穫價格を比較すれば平鹿は十五萬八千四百三十九圓にて其第一位を占め北秋の十二萬千七百九十九圓、仙北の十一萬〇三十九圓之に次、他は何れも十萬圓以下にて雄勝の八萬七千八百十二圓、山本の八萬一千七百七十二圓、鹿角の七萬五千六百三十一圓、由利の七萬一千八百五十一圓、南秋の五萬九千六百十三圓、河邊、秋田市は最も少くして共に一萬八千百餘圓、總計約實に八十萬三千三百圓にて例年に比し約五割増しの好收穫を納め隣縣宮城のそれに比し二倍強を示せり

□蔬菜類と花卉 本縣の蔬菜は多く在來種のみにて其種類一定せざりしが近年來畑作の利用方法頻りに研究せられて各郡に於ける蔬菜改善の著るしく山本郡の西洋蔬菜の如きは東京地方に輸出しつづある程の進歩を來せり重なる蔬菜は漬菜、甘藍葱、馬鈴薯、蘿蔔、午勞、里芋、蕪菁、甘藷、茄子、南瓜、西瓜、甜瓜、玉葱等に於て年産約二百萬圓を越ゆべし、花卉栽培獎勵の爲め明治四十三年秋田市進藤久馬翁をして之れが模範園を擔當せしめ西洋種及び日本種の草花を栽培せしめしが爾後花卉愛好の風一般に馴致され近くは新屋町大嶋氏松壽園を設立して花卉の温床栽培に成功して冬期秋田市場に芳芬の香を漂はさしめつつあり。

□薬工品 本縣農家の副業として薬工品の製造額は決して僅少なりと云ふを得ず

現時の製造戸數は約二萬三千三百七十戸にて年産三十六萬四千二百九十八圓重なる需用地は北海道なり原料を選択し製品の統一を圖り之れが生產品は共同販賣の方法を用ひて縣外輸出を圖らば年産約百萬圓以上に達するや容易なり。

□有望なる開墾事業 本縣に於て現在開墾し得らる土地の見積りは約三萬町歩あるといはれてゐる尤も此調査も確的になつたもので無く殆んど地圖の上から見たのみに過ぎないからイザ實際開墾といふ場合になると收支の計算が取れなかつたり或は適當なる水源を見出し得なかつたりして着手すること不可能になるかも知れない従つて三萬町歩と稱するも適地を調査し見ると二萬町歩になるか一萬町歩になるか夫れとも上りて四萬町歩になるか明瞭ならぬ事を遺憾とするけれども此近年縣の趨勢は著しく開墾業に目を注ぎ來り共同若くは個人の名を以て今まで一顧だに拂はれなかつた原野を拓ぎ田地なり畑地なり兔に角作物を植付せんとするもの續出し其取運びを爲す人の多いことは縣の生産業に取り甚だ欣快に堪へない試に各郡に於ける開墾地の完成し又は工事着手中及び調査中の分を一束して見ると。

▲雄勝 東成瀬村四十町(調査済未着手)

▲平鹿 福田村百四十町(完成)其附近二十町(未完)陸合村三十町(畧は完成)館合村三十町(同上)

▲仙北 大澤郷村百五十町(調査中)神保村七百町(四十町完成)碓川村百町

(調査中)

▲由利 上濱村五十町(畧は完成)

▲南秋 大久村百五十町(完成)天王村百町(調査中)北浦町四十五町(五分竣功)

▲山本 森岳四十町(完成)藤琴數ヶ村五百町(百五十町完成)鶴形百町(同)富根村百十町(調査中)東雲村九十町(一部完成)

▲北秋 上大野村五十町(完成)七座村三十町(着手中)前田村九十町(調査終了)米内澤外四ヶ町村二千町(調査中)仁井田村二十町(調査中)下沿村五十町(不日調査)

▲鹿角 七瀧二百町(調査済)柴平二百町(着手不明)曙村三十町(調査済)

此等の地區は既に開墾とし竣成したるものあれば又着手中のものもあるから正確に何町歩完成といふ數字を示すに困難を感ずるけれど之を當局に就て聞いて見ると大凡そ工事に着手する歩合は調査済みの六七分通りを常例とするから他の三四分は草臥損の骨折儲けとなる理けてある然し假りに以上の地區全部を開墾せられたとしても尙ほ四千町歩未滿に過ぎないから之を机上調査にせよ適地三万町歩の豫定に比し僅かに一割二分のみだから縣の開墾事業は前途未だ遑遠なりと謂はねばならぬ、而

して此開墾に要する一反當りの費用如何といへば約五十圓前後なれど稀に其以上に達するのである例せば上濱村の如き其土地が耕作地田地に乏しいといふので關係有志か多大の奮發をなし反百圓までの出金を辭せずとの意氣込であつたけれど實際八十圓で完成してゐるなど其一例である、尤も此地區は烏海山の裾根にあるから開墾に特殊の工事をせねばならなかつた爲め其平均額の記録を破つたのだ、之と同時に一面には又五十圓の二分の一前後で竣成する場所もある彼の八郎湖嶋の如きも其一と認め得らるゝ、此地區は大久保、飯田川、鹿渡、天王に亘り約一千町歩の廣袤で中央面にある丘阜を崩壊し運搬さへすると工事竣成といふ簡單なる所であるから經費の支出も之に準じてゐる、元來此湖岸は開墾適地中の適地といはれ前記數ヶ村に亘る一千町歩を共同し開拓しようとしつゝあるけれど何分部落の感情が一致せぬので摺つた揉んだをなし今尙は着手すること出来なくなつてゐるけれど大久保のみは早くも單獨着手をなして既に完成してゐる、勿論湖岸は官有地の故を以て内務省の許可を得る手數あつた所今回之を地方長官に委任されたから出願に對する指令も従前に比し速かなることを得てあらう要するに開墾は地勢、土壤其他何れも適當なりと認むるも水源にして充分ならぬと如何の努力を以てしても遂に豫定の工事を上げ開墾の目的を達すること出来ない故に水源調査は斯業を解決する上に於て最善の

注意を拂はねはならぬか然し水源は到る所有るやうて容易に無いものである、縣南は主として雄物川、成瀬川、縣北は溜池を根源とするは殆んど其例になつてゐるから深く地形を知らぬ人の目からすると何等の仔細ないやうなれども縣南は此二川を需用するに對し下流の關係町村から必ず水利權といふ大刀を眞向に振り翳して故障を唱ふるのて之を解決するまでに多くの日數を要する、然るに縣北になると溜池の利用には何人も苦情をいはぬも開墾さるゝ原野に對し秣場採取權ありといひ部落民の甲乙か起ちて騒ぎ出すと恰も蟻の巢の如く雷同して容易に着手するを得ない、此一事業は本縣の南北か生産業に對する歸趨の如何に相違あるかを知識すべき面白き現象なりといはねはならぬと同時に開墾事業も亦意外の故障によりて迅速に進捗する能はざるを遺憾とするなり。

蠶業の秋田

□蠶業の發達 本縣の養蠶及び生絲は今を距る一百三十年前即ち安永九年藩主佐竹義敦の時に方り奥州伊達の人石川瀧右衛門來りて開發奨掖に勉めたるに創まり一時盛況を呈し殊に明治の初年一時伊國に蠶種を直輸し其の一年輸出八萬四千圓に上

るの盛況を見るに至りしが爾來漸次全國に涉り粗製濫造の弊を生じ加ふるに佛人「バストール」氏の微粒子病驅除豫防の方法を發見せるに依り輸出の途殆ど絶ゆるに至るや業勢頓に大頓挫を來して當局の奨励も其効を奏せざりしが近時漸く自覺的に進歩し來り現在に於ける桑園反別五千四百八十七町歩余にて桑収穫約五百四十七萬三千貫價格四十八萬六千六百六十圓餘この他に本縣は天然生の山桑到る處にあり就中北秋田郡、山本郡、南秋田郡、河邊郡、由利郡の六郡最も多しとす初期の養蠶經營者は多く之れを利用して斯業啓發に資せり。

□蠶業奨励計畫 本縣は天與の養蠶地として發展の餘地綽々盡きざるが故に其の發展を企圖するに於ては縣下の産繭十萬石以上とする敢て難きにあらざるなり之れが爲め明治三十九年より稚蠶共同飼育所を各郡市を通じて百八十ヶ所に設立して改善の實を擧げんことを企て更に製絲屑物傳習所及び殺蛹乾繭場の設置繭生絲の共同販賣を奨励して斯業の發展に資せんとしつつあり而して郡の經營に係る講習所は現在に於ては北秋田、南秋田、河邊、平鹿の四ヶ所に在るの外郡立學校としては雄勝郡と北秋田とに各々一校宛を有せり而して本縣蠶業の現狀は土地勞力氣候等各種の方面より觀察し現在三萬石の産繭をして大正七年以降十個年を期し七萬石に増加せしむるの蠶業奨励計畫を樹て各種の機關相聯絡して其目的を達成するに努めつつあ

り之れが爲め原蠶種製造所を湯澤町に設置し七年度より事業を開始せり。

□産繭産絲 大正六年度に於ける全縣の掃立數は二萬七千九百九十七枚にて收繭量三萬六百四十一石價格二百四萬三千七百七十七圓而して産絲八千七百六十二貫價六拾萬圓其他眞綿類七萬圓以上なり。

畜産の秋田 家禽飼養の現況

□産馬 本縣に於ける馬匹の總數は約六萬三千餘頭にて外國種約四百八十頭餘雜種二萬七千六百六十頭餘一年の産駒は約一萬二千頭を超へ古來馬匹の産地として夙に駿逸を出すを以て名あり蓋人皇四十二代文武天皇の朝に胚胎し爾來幾多の星霜を經過し現今の素質を形成せるものにて到る處葎草に富み放牧の適地亦少なからず現時放牧地として用ふる面積約六萬町歩にして將來耕牧林の區劃を立て林野の整理を行ふ時は猶その面積を増加すべし而してこれ等の生産地は各郡に分布せらるるも就中仙北、北秋田、由利の三郡は古來より良駒を産出し又雄勝、平鹿、仙北の三郡は育成地としてその名高し而して本縣の産馬は鞍馬に適合すべき性格を備ふるもの多きを以て政府は切に鞍馬の生産を以て産馬獎勵の方針となし本縣も亦この趣旨に

則り明治三十二年以降毎年約一萬五千圓を投じて「バクニー」「アングロノルマン」「ベルシユロン」種等を外國より輸入し又内地産の洋種及雜種を購入して之れを貸付し以て斯業の改良に資し逐年その成績を發現せり而も從來産馬の販路は軍馬補充部馬政局山形、新潟、長野、富山等なりしが近年關東地方及廣島、岡山、熊本等の諸縣に鞍馬或は種馬として販路を開らくに至れり、特に軍馬の購買は明治十二年以來繼續する所にて就中平鹿郡、横手町は購買地として最も古く且つ盛にして毎回の出場頭數五百頭乃至一千頭に達す加之明治四十年以來管内二歳駒驛場に於て幼駒の購買を開設せられしより産馬改良の效果著るし一層鞍馬の聲價を高めつつあり。

□産牛及羊豚 本縣古來産馬は農家一般の副業として普く之れが飼育をなせるも畜牛は單に鑛山附近及び山間の坂路峻險にして馬匹の使用に適せざる地方に限り主として貨物運搬の爲めに之れを飼養したるに過ぎず輓近生活の状態の變遷は牛乳及牛肉の需用を増加し加ふるに飼養者の利益馬よりも比較的多きが爲め逐年之れを飼養する者多きを加ふるの傾向あり而してその種類は「ホルスタイン」及雜種最も多く短角種之れに次ぎ「エアシャ」「ブラウン牛」「シンメンタール」の系統に屬するもの未だ少し就中骨格性能の優秀なるものは「ホルスタイン」種系統に屬するもの多きを占む現在牛の産地として數ふべきは鹿角郡一圓及南秋田、河邊、仙北、雄勝各

郡の一部なりとす縣は將來產牛改良の基礎を確立すると同時に牧野の嶮夷と飼料供給の難易に稽へ地區を限りて奨励し又當業者に對しては飼養管理は勿論搾乳及製乳の方法を實地的に指導し酪乳製造の普及を圖らんとし明治四十三年南秋田郡寺内村將軍野に地を卜し種畜場を設置し年々種牡牛を購入し以て種類の改善を圖りつつありしが縣經濟の狀態より大正五年度より種畜場を民營に移すことせり現在牛の總數は一万餘頭にて生産數は年次二千五百頭より三千頭の間であり、羊豚飼養は未だ縣下に普及せず頭數一千頭を超えず一年の生産約八百頭に出でざるを遺憾とす。

□家禽。 家禽の飼養は農家の副業として極めて有利の事業なるを以て本縣にては明治二十五年前後に於て一時世の流行に伴ひ各所に多數の飼育を試みるものありしが當時は一般に飼育上の智識に乏しく加ふるに其種類の選擇を誤まり且飼養者の多くは機械的に出でたるより概ね失敗に歸したりしが日露戰役後當局の奨励と相俟て縣下一般に家禽飼養の傾向を呈したり種類鶏及び鶯類にて年産五十七万圓を算す。

林産の秋田

□森林。

日本三大美林の一として古來其名を知られたる秋田の森林は面積約九十

万町歩林木の蓄程一億數千万尺（内杉材六千万尺）其の多くは國有に屬し民有林の蓄積は僅に二千万餘尺に過ぎず而して所謂秋田杉の分布は概ね北半部に限られ南半部の多くは濶葉樹林なり北部に於ける針葉樹林中著名なるは米代川沿岸地方に於けるものにて其上流鹿角、仙北郡界の附近は白檜を以て山頂を埋め下流北秋田郡十二所町の對岸に至りては老杉鬱鬱千數百町歩の廣きに亘り有名なる長木澤の國有林は長木川の水源に在りて九千餘町歩の單純林を形成し材色艷美品質優秀を以て世に知らる毎年の斫伐額は十二万五千尺の多きを算し大館驛より鐵道を敷設し奥羽線に連絡せり其他北秋田郡に於ける下内川、岩瀬川、早口川、犀川、小阿仁川、日景川及び山本郡に於ける藤琴等の流域に於ても亦蔚然たる杉の純林、白檜林、杉羅漢柏混淆林若くは杉羅漢柏混淆林を形成し殊に男鹿山國有林の如きは樹幹錯立の狀壯觀を極め材質優美を以て名あり又南部に於ける針葉樹林は仙北郡田澤湖の附近、岩手縣界河邊郡岩見川の水源南秋田郡旭川の上流等に於ける杉の純林、杉羅漢柏混淆林及杉羅漢柏混淆林にて濶葉樹林は由利郡子吉川の上流烏海山、雄物川の上流宮城、岩手縣界等に於ける雜木林（多少羅漢柏を交ゆ）及び中央山脈地方即ち鹿角、仙北郡界より河邊、南秋田郡界に亘れる十萬町歩の雜木林を始め隨處に鬱蒼たる林相を呈し北部に於ても又地勢其他の關係より濶葉樹林を有するものあり即ち十和田湖附近に

於ける大湯國有林を始めとし北秋田郡岩瀬川、早口川及び山本郡藤琴川の上流の如き遠く縣界に亘りて一大蓄積を有せり、而して林産の年額約九百万圓を下らず前途益々増加の盛況を呈しつつあり。

□製材 秋田杉の需用年と共に多きを加へ製材を業とするも東洋の一と稱せらるる秋田木材株式會社を始め各處に起れり秋田木材會社本支店及び淺野製材所に於ける一箇年の原料需用高は五十四万尺を算し官營製材所に於ける一ヶ年の使用高十五万尺を加ふれば實に六十九万尺に達す其他數十餘ヶ所の私營製材所に於て使用する高も亦少なからず林産年額中最も多きを占むるものは挽材にして丸太角材之れに次く製材所の重なるものは米代河畔に於ける秋田木材株式會社能代挽材工場、淺野製材所其他御雄物河畔に幾多の挽材工場あり最近大正六年度に於ける林産物の産額實に九百七十万圓以上に達す(國有林を含む)

□漆樹 本縣の漆樹は其由來する處久し舊記によれば元祿年間の頃より大に漆樹の栽培を奨励せしが當時は主として點燈用たる蠟の採取にあり然るに蠟の需用年々増加し濫採の結果大に其の供給を減じたるより嚴重なる取締法を設けたり然れども苗木養成に依りて植栽奨励の方法を講せざりし爲め需用に對する供給年々不足を告げ文化の初年には欠乏其極に達したり當時雄勝郡川連村の肝煎關喜内なるもの斯業

の發展に就き時の郡奉行に献策する所あり遂に藩の經營を促がし産物方なる勸業役所を設け之れが苗木の養成及植栽奨励等の方法を示し同人自ら其の苗木を養成して雄勝、仙北、平鹿地方に無代分配せり藩に於ても又其の苗木を徴して仙北其他遠隔の地方に配付し盛に奨励せり文政の頃より二代目喜内は父の志を繼ぎ一層の熱心と精勵とにより大に産額を増し嘉永年間に至り從來の嚴格なる取締を解き他藩の者と雖も漆樹取輸出を許すに至れり本縣に眞木漆と稱する良質なる漆の存在するは同人及藩吏等が藩命を奉じて弘化年間羽前國置賜郡米澤地方に赴き老農植木四郎兵衛氏に就き眞木漆の栽培法及其の取扱方等の傳習を受け得る所あり歸來之れが苗木を仕立て、藩内に配付したるに始まるといふ然るに十數年前より濫伐の結果漸く不振の状態に在るを遺憾とし本縣に於ては明治四十年頃より漆及び樺、白楊、栗、胡桃、厚朴等の特殊樹木繁殖せしむるの企劃を立て苗木を雄勝郡稻庭町及北秋田郡七日市に設置し苗木を各郡に配付せしを以て數年の後には之れ等の林相を見るに至るべし

□雜木の利用 本縣は由來杉の美林を以て名聲宇内に噴々たるのみならず百万町以上の大森林中最多量の蓄積は實に山毛櫨を主とせる雜木濶葉樹にて之れを工藝的用途に利用する時は其森林収益を開發する勝けて算ふべからず森林中には山毛櫨の外ミヅナラ、ホホノキ、トチ、イタヤ、シホヂ、センノキ、サハグルミ、クヤキ、

クルミ、サクラ、カツラ、ドロ等を多く産し燃材及工藝用材として海外輸出の望みあり雄勝郡に於ては従來僅に漆器の素地に利用しつつありしが秋田木工會社を組織し曲木細工品を製出し又鹿角、山本、仙北、雄勝の各部に轆轤細工を開始するに至れり最近に於て由利郡烏海山麓の山毛櫨帶を利用すべく林業會社の企劃あり更に仙北郡生保内には既に大規模の林業會社ありて醋酸其他の製造に着手しつつあり。此等雜木は歐洲に於ける利用法に鑑み裝飾用として各種工藝用材とせんには本縣産業經濟の發展に資益する處多大なるべきも縣民は尙未だ此點に深く意を致さざるを遺憾とせざるべからず。

□林野雜産物 全國三大美林の一を有し且つ森林國として自他共に認めつつある本縣の製材(挽材、丸角材、板)は年々實に三百万圓以上を産出し随つて林野の雜産物も亦巨額を示し逐年其の産出高を増加し來れるが縣の最近調査になれる大正四年中の産額を見るに總計九十五万五千六百圓にして製材産額の三分の一に達して居るが中に最も産額の多きは木炭にして約一千〇七十五万貫にして此價六十一万圓に上り林野雜産物總額の約六割五分強を占めて居る次は雜木林の柴及び牧草にして二十六万四千圓を産出するは實に林野事情に通曉せざるもの、意想外とする處なるべく此外は對外國産物、造林用種子、樹實樹皮、蔓莖類の五種に分類され居るが對外的

國産物は其産額僅かに四千五百圓にて(俗にフシカネの原料)たる五倍子は百斤にて二十圓、椎茸は五千四百斤にて約三千八百五十圓、松脂は一万四千四百斤にて六百三十圓なるが五倍子は需要極めて少く又松脂は價格頗る安きも椎茸の如きは林産物製造の指導獎勵如何によりては近き將來に於て容易に産額を増進せしむる事を得べし次に造林用種子は主として杉にて二十七石此價一千七百圓なるが其他は扁柏、松、落葉松、樺其他にて總額一千九百圓主なるも逐年向上を示しつつあり、樹實は栗のみにて三千四百十石を收穫し椎茸と大差なくして其價格實に一万四千八百七十圓に上り居るは輕視すべからざるものと云ふべし更に樹皮にては杉皮を主とし十七万七千四百坪を得て此價格三万四千三百圓に上り、檜皮竹皮は共に極僅少にて前者は二百三十坪内外後者は二百九十貫匁にて共に價格は六十圓を算するのみにて總額栗實にも及ばず、次に蔓及び莖類にありては藤、木通蔓、羊齒等にて藤蔓は重に草履裏用となりて八百圓、木通蔓は殆んど蔓細工用に占められ近來需要頓に増加せると青森縣に比すべくも非らずして未だ三千圓の産額にあり羊齒の如きは六千圓を産するも需用極めて少ければ本縣の如きは問題とならざるべし、これに反して松茸の産額は一千餘圓なるが初茸、なめら、きん茸其他の茸類或は紫蕨、松葉、玫瑰、茱萸、藥草等の收穫を調査計算せば全縣の林野雜産物の總額優に一百万圓以上に上るべし

鑛山の秋田

□鑛床の分布。本縣の鑛床は分布頗る豊富にして地積の約三割を占むる石英粗面岩、英閃安山岩其他の火山岩は殆ど鑛業用地たるの觀あり其鑛種は金、銀、銅、鉛を主として金屬鑛物の産實に天下に冠絶す就中小坂鑛山は其設備に於て又産額に於て東洋の巨擘と稱せらる又第三紀層には石油土瀝青を包藏し且つ石炭即ち無烟炭を産し温泉地方には硫黄を産す鑛産の種類は金、銀、銅、鉛、亞鉛、硫黄、滿俺、石炭、石油、土瀝青等にて金、銀、銅、鉛は中央山脉に沿へる鹿角、北秋田、仙北、雄勝に多く石油脈は南秋田、河邊、由利の海岸を通過し一脈岐れて仙北郡角館方面に達す鐵は烏海山仙人峠附近に石炭は北秋田、山本に砂金は北秋田方面に多し本年七月一日現在を以て仙臺鑛務署の調査にかゝる本縣各郡の試掘及び採掘鑛區は左表の如く試掘合計四億四千九百三十三万七千二百坪、採掘合計四千〇二十万三千五百坪にして即ち試掘の一割弱を示し其の鑛區數は試掘九百三十六個所、採掘は百二十一個所にして試掘の八分弱なるも日を追ふて採掘の件増加し行くの傾向にあり尤も本表採掘の數字は稼業中のものゝみにて休業のものを除きたるも更らに休業中の鑛

區は百二十九個所にて千九百四十万二千三百七十三坪にしてこれ等をも合し全縣に於ける試掘、採掘の總鑛區は一千八百八十六個所、坪數實に五億八百九十三万九千七百九十坪を算せり。

郡名	鑛區數	坪數
山本(試掘)	一三五	八五、〇七一、八〇八
鹿角(同)	二八〇	一、五九七、八三七
北秋(同)	一七二	三〇、九八六、五九四
南秋(同)	二一五	六、九二四、四七四
仙北(同)	一九二	七一、七八五、〇八八
河邊(同)	六〇〇	一二、四五三、一四二
由利(同)	一三八	七八、〇八七、六五二
由利(同)	一三八	六、七四六、二〇一
由利(同)	一三八	四七、七四〇、七六一
由利(同)	一三八	七、四九八、七〇四
由利(同)	一三八	三六、四六三、七三四
由利(同)	一三八	六六、三三五、九六〇
由利(同)	一三八	四五三九、五二〇〇

平鹿	同	一二	六、五〇八、七〇〇
雄勝	同	一三〇	八一一、八〇五
合計	同	六三六	一六、三五六、八〇五
		一二一	三、六二八、六三二
			四四九、三三七、一〇二
			四〇〇、三〇〇、三一五

大正六年に於ける本縣各鑛山の鑛産額を見るに金にありては小坂（松岡、田子内、花岡、大荒澤、卯根倉、大森合併製鍊）の百九十八貫六百二十二匁は最多額にして之に次ぐは甚だしき距離ある尾去澤、小真木の四貫二百十三匁、八盛吉乃の二貫三百十四匁、阿仁の一貫三百十匁、荒川日三市の九百五十一匁にして總計二百七貫四百六十匁を示せり、銀は小坂の六千八百九十七貫六十四匁を最多とし八盛、吉乃の一千六百二十貫八十匁之に次ぎ他は甚だしく下りて阿仁の四百三十二貫四百三十二匁、小去澤、小真木の三百五十八貫八百二十四匁、荒川日三市の二百八十六貫七十八匁、太良の百十三貫七百六十九匁にして總計九千七百十六貫二百八十匁なり、次に銅にありては小坂の二千二百六十七千二百三十三斤の多量に及び之に次ぐは尾去澤、小真木の四百三十七万三千五百六十八斤、荒川、日三市の二百三十七万六千九百九十八斤、吉乃の二百十万六千五百五十二斤、阿仁の百十八万五千四百六十九斤にして總量實

に三千二百六十四万三千三百二十一斤を算す而して之を東北六縣の鑛産額に比較すれば左の如し

山形	八貫八二	六七二、七七一	三、一四七、七九〇斤
青森	四三、四〇	三、二六四、三七	六、二六九、四四六
福島	一六、七九	九三三、二二	二、四〇九、八五三
岩手	六八、二六	五三二、二〇	三、六七〇、五六〇
宮城	一三、五七	七八六、八八	一四一、八三八
秋田	二〇七、四一	九、七一六、二八	三二、六四三、三二一

右によれば金は他の五縣合計にてさへ百五十貫目なる故本縣は夫れよりも五十七貫多く銀は他の五縣合計六千八百八十九貫にて本縣よりも三千五百餘貫少く銅は同じく合計一千五百六十三萬斤にて本縣は遙に一千七百萬斤の多きを示せり而して本縣とは其徑庭甚だしきも五縣の最多量の産額を出すは金に於ては岩手縣銀銅は共に青森縣なりとす。

石油事業の發展

世界的聲價高し

黒川一萬石の噴油ありし以來秋田の石油事業は世界的の聲價を縦にするに至れり元來本縣の石油脈は南秋田、山本、河邊、由利、仙北の各部に亘りて存在し其の區域甚だ廣し其の掘鑿に付ては維新前より種々の計畫ありて今日に及べるものなるが其後巨智部博士の實査に依れば油脈豊富にして其質亦良好なるを以て明治三十四年本縣に於て秋田石油調査會なるものを組織し資金を醗集して調査に従事し縣は之れに對して一切の器械を貸付し調査を進行したりしが四十一年に至り其の事業を日本石油株式會社及び實田石油會社に委託し若くは相計り試掘を爲さしむることせり其主なるものは南秋田郡旭川村、金足村、寺内村及び由利郡院内村にて年産約三百萬圓以上なるべしと稱す、而して明治四十年に於て探掘坪數百七十萬九千坪試掘坪數九十四萬四千坪なりしが黒川一萬石噴油以來縣人の石油熱昂騰し大正五年一月現在に於て探掘百九十九萬六千坪試掘八千三百九十三萬二千坪に増加し最近に於ては各種石油會社の續出するあり前途大に矚目するに足るも依然として其の價なるものは日本石油、實田の二社なりとす。

□本縣油田の概観 本縣に於ける石油稼行地は其の後漸次擴大され之れを五年度に比し一二新方面の鑿井に着手を見るに至れり例せば出羽、帝國兩石油の如き之れにして其の成功如何は尙ほ未知數に屬するも其所謂油田開發の主なるものが専ら山本郡にあるの一事は特に注意すべき現象なりとす、然し現在の中心地點をいへば依然南秋一郡にして黒川、豊川の兩村が斯業界の覇權を握り従つて此の方面に於ては最早占有すべき寸餘の鑿區だに無きの盛況を告げつゝ、あれり其の稼業地左の如し

日本石油 南秋 旭川、外旭川、黒川、浦山、上虻川、岩瀬、豊川、船川、増川 ▲山本 富根、澤目

秋田石油鑿業 ▲南秋 道川、保多量(以上上新城村)

中外石油 ▲南秋 豊川、形(豊川村)

小倉石油 ▲南秋 豊川 ▲山本 淺内

中野興業 ▲南秋 豊川

帝國石油 ▲南秋 船橋(豊川村)

秋田鑿油 ▲南秋 道川(上新城村)

村淺鑿業 ▲南秋 富津内

瀨嶋鑿業 ▲南秋 豊川(中外の共同鑿區)

- 久原 鑛業 ▲河邊 和田
- 出羽 石油 ▲山本 小荒澤(上岩川村)
- 倉島 松男 ▲山本 藤琴
- 大日本石油 ▲北秋 落合
- 寶田 石油 ▲由利 兩善寺(平澤)金山(小友)

此の外稼行の目的を以て目下機械器具を運搬しつゝあるは日本石油の由利郡西瀧澤村なり以上の地に於て六年下半年期に鑿井を着手せるは倉嶋氏の藤琴、帝國の船橋、出羽の小荒澤にて何れも鋼索掘りなり中に大日本石油の落合のみ手掘りなるに至りてはそぞろ明治初年の石油を油揚油に代用したる當時の滑稽を思ひ出さざるべからず尙ほ此の稼行地に於て目下廢坑とせるは寶田の兩善寺、久原の和田等なるが今後更らに何れの方面に着手すべきや未だ明かならず然らば前記五郡に亘る各油田内に如何程の出油量ありや其概算を掲ぐれば

▲日本石油日産二千五百石 ▲中外同三百石 ▲小倉同三百石乃至四百石 ▲中野同二百石 ▲瀬嶋同十石内外(上總掘)
 合計一日三千四百石前後にして之れを七年上半年期の本縣石油産額概算四十五萬石に對し今後日産量に大減額を來さざるものとし算定せば此の下半年は六十萬石に上る

べく即ち一年百萬石となる割合につき縣下の油田は急劇に開發せられたるものと謂つべし、然し之れを先進地たる越後の百六十萬石に比すれば前途尙は遼遠なりと稱すべし。

□萬石以上の油井 本縣に於ける石油事業は南秋を起點として由利、河邊に及びたるも今や更に山本、北秋の二郡に延び特に本年の如き此方面に新鑿井を試みるもの二三あるやを耳にしつゝあれは今後此等油田の開發されたる場合果して如何程の出油を見るや未だ豫測すること能はされと現在の状態によれば其中心地は漸く黒川を去りて槻の木方面に移轉するもの、如く従つて成功井とせらるゝ多くは殆んど此附近に限られたるかの觀あり此の如きは先進地たる越後に於ける事實の既に之を語る所にして單り本縣のみに止まらざるか故將來何れの地方か中心たるべきや頗る興味ある問題たらすんはあらず今過去とならんとする黒川油田に於て之を獨占する日本石油の萬石以上を出したる油井を掲ぐれば左の如し

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| ロ式五號 | 四九八 <small>千石</small> | ロ式八號 | 二八六 <small>千石</small> |
| 同 一七號 | 二四九 | 綱 一號 | 一一五 |
| ロ式二三號 | 八二 | ロ式三六號 | 八一 |
| 同 一一號 | 六七 | 同 一五號 | 六五 |

同 二一號	五三	同 一三號	四八
同 二二號	四三	同 二七號	四一
同 四一號	四〇	同 三二號	三九
同 二八號	三九	同 一號	三八
同 三五號	三八	同 一四號	三五
同 一〇號	二六	網 三號	二二
網 五號	二四	ロ式一九號	二三
ロ式四號	二一	同 三六號	二一
同 四一號	一〇	同 二五號	一〇
同 一四號	一七	網 九號	一七
ロ式四六號	一七	ロ式四號	一五
同 二〇號	一四	同 二號	一四
同 四二號	一三		

ロ式五號井は道が我國の新記録を作れるだけありて其油量卓然群を抜けり日本石油が今日の大をなせる實に此油井の力與かりて多きものなりとや今前記萬石を出せる他の油井と共に廢坑となりて蔓草の茂れる中に空しく往年の面影を止むるのみ因に

新潟に於て尤も多く出油せるは瀧谷の八萬三千石なりしといへば本縣の油田はより以上好望と稱するに足るなり。

○本縣製油産出額 本縣に於ける昨年中の原油産額は別項の如く八十七萬四千五百石なるが此内各種製品に使用したる高は六十五萬二千五百五十石にして其内譯を見れば左の如し

燈 油	五萬九千七百八十一石
輕 油	五萬四千六百七十七石
機 油	五萬一千百三十八石
重 油	三十一萬四千九百九十八石
ヒ ツ チ	三百十三萬九千九百四十四斤
アスファルト	九千九百九十三石
アスファルトム	五萬五千五百八十六斤
アスファトマルサ	四千二百七十九石

右の如くなるが之れを前年度の製品に比較するときは燈油に於て四萬七千六十六石即ち半量近くに減少したるは需用の關係に基きたるは勿論にして之れに反し輕油機械油等は著しく激増し前年度は輕油一萬三千八百十二石機械油一萬三千二百六十二

石に過ぎざりしを以て何れも四倍餘に達したると知るべし之れ輕油機械油の工業上需用の劇増と市價の騰貴によりたるものに外ならざるなり。

□石炭。 豊筑及常磐の石炭産地と其成生を同うする地層は本縣全面積の四割以上に及ぶ而かも開坑の氣勢揚らざるは一般金屬鑛熱石油熱の盛なると石炭の露頭少なきが爲め世人の之れを知らざるに因る然れども現に開掘しつゝある北秋田郡七日市及び森吉炭山の如きは固定炭素の量三割内外より七割以上に及び氣發分は四分より二割を超ゆ又灰分は一割内外より五割に達するも一般に硫黃分少く萬分の三より千分の五を示し且骸炭粘結せずして灰色淡褐色又は赤褐色なり最新の學理を應用し低利の資本を利用し經營宜しきを得ば將來囑目すべき有望の事業たるを信す近時扇田炭鑛會社の設立以來平鹿、由利の兩郡に會社續出せんとするあり。

□土瀝青(アスファルト) 本邦に於て土瀝青を産するは獨り本縣のみ日本唯一の名ある素より當然とす而して其所在地は南秋田郡豊川村及大久停車場附近を中心として山本部、由利郡に亘り且つ其の所在地表より深からざるを以て探掘最容易なり唯探鑛の土砂草根との夾雜を含めるものあるを以て之れを精製して塗料及び舗料に供用す現時の探掘額は二萬圓内外なり、
□重要鑛山の所在地 今左に如上鑛山の所在地并びに鑛種の概要を掲ぐべし

小坂鑛山	(鹿角郡小坂村)	金、銀、銅、鉛
尾去澤鑛山	(鹿角郡尾去澤村)	金、銀、銅、鉛、亞鉛鑛、鉛鑛
小眞木鑛山		銅鑛
四角鑛山	(鹿角郡柴平村)	銅鑛
不老倉鑛山	(鹿角郡柴平村、大湯村)	銅、銅鑛
士深井鑛山	(鹿角郡錦木村)	銀鑛、銅鑛
鴉鑛山	(鹿角郡七瀧村)	銀、銅、亞鉛
阿仁鑛山	(北秋田郡阿仁合町荒瀨村)	銀、銅
赤倉鑛山	(北秋田郡山瀨村)	硫黃
花岡鑛山	(北秋田郡花岡村釋迦内村)	金、銀、銅
立又鑛山	(北秋田郡西館村)	銀、銅鑛
鳥坂鑛山	(北秋田郡荒瀨村)	石炭塊炭
太良鑛山	(山本部藤琴村)	銀、鉛、亞鉛、銀銅鑛
水澤鑛山	(山本部澤目村)	金、銀、銅、金銀銅鑛
八盛鑛山	(山本部八森村)	金、銀、銅
旭川鑛區	(南秋田郡旭川村)	石油
黒川鑛區	(南秋田郡金足村、豊川村)	石油

真形尻鑛區	(南秋田郡豊川村)	土瀝瀝、原油
槻木土瀝山	(南秋田郡豊川村)	土瀝青、原油
荒川鑛山	(仙北郡荒川村)	銅、銅鑛
杉澤鑛山	(仙北郡土川村)	金、銀、銅
松葉鑛山	(仙北郡檜木内村)	亞鉛鑛
駒木澤鑛山	(仙北郡檜木内村)	銅鑛
日三市鑛山	(仙北郡雲澤村、中川村)	金、銀、銅
坊澤鑛山	(仙北郡雲澤村、中川村)	金、金鑛
川口鑛山	(仙北郡長信田村)	銅鑛
院内鑛山	(雄勝郡院内町)	金、銀、鑛
田子内鑛山	(雄勝郡東成瀬村)	金、銀
吉乃鑛山	(雄勝郡西瀬村)	金、銀、銅
川原毛鑛山	(雄勝郡須川村)	硫黃
松岡鑛山	(雄勝郡山田村、西馬音内町)	金、銀、銅

鑛山の概況

□小坂鑛山 本山は文久元年の發見に係り慶應二年南部藩の稼行となりしも中途廢山し明治三年再興せられて官營となり同十年再び南部氏の借受くる所となりしも十三年夏政府に之れを返還し十七年秋現藤田組の有に歸したるものなり爾來銳意事業の改善を圖り明治三十三年には銀山として經營し貧劣なる銅鑛の自熔法を大成し同三十四五年兩年間に於て其の作業上の大工事を完成したる以來鑛産額劇増するに至れり現在職員三百人以上坑夫六千人以上を収容し一ヶ月需用物資三十萬圓内外に達し小坂町は鑛山を中心として諸般の設備完成し人口一萬八千人水道病院俱樂部劇場等の完備は勿論坑夫救恤事業等殆ど模範的の稱あり

□松岡鑛山 雄勝郡に在り慶長年間の發見に係れりと傳ふるも舊記の徴すべきなし然れども最も繁盛を極めたるは寛文年間なるべく元祿年間より佐藤信景の經營する所となりしが文政年間廢山となれ明治十九年佐藤理入なる者業を繼ぎ三十九年十一月藤田組の所有に歸せり坑夫三百以上を役し前途有望なり。

□尾去澤鑛山 本山の發見は遠く和銅年間にあり初め金鑛の採掘を主とし後銅山

となり世の變遷に伴ひ或は民業となり或は南部藩の稼行となり連綿今日に及び鑛煙を絶わす益鑛量無盡の寶庫と稱せられ明治二十七年十二月甫めて三菱合資會社の有に歸したり現在職員二百人内外坑二千七百人以上を收容し産額の前途計るべからず水道購買組合其他の事業完備せるは小坂と相譲らず模範的鑛山と稱せられつつあり

○荒川鑛山 元祿十三年の發見にて元文三年佐竹藩の稼行となり寛保三年に及び明治八年工部省の直轄となり九年十月瀬川安五郎氏の有に歸し二十九年五月三菱會社の所有となりたり現在職員百名内外坑夫二千八百人内外を使役し一ヶ月の物資需用數十萬圓に達す設備完成前途益々有望なり。

○日立三市支山 天正年間の發見に係り明治十三年瀬川氏の有に歸し二十九年五月現鑛業者の有となり荒川鑛山の支山たり。

○阿仁鑛山 寛文十年大坂の商人高岡某の發見に係り元祿十五年に至り佐竹藩の經營となり明治四年秋田縣の管掌となり八年工部省の直轄となりしが明治十八年古河氏の有となりて今日に及ぶ。

○太良支山 文永元年金堀金治の發見以來連綿稼行萬臺三年迄三百九十七年間は舊記の徵すべきものなきも寛永元年哥川庄兵衛稼行し文化十四年佐竹侯の直營となり明治十八年古河氏の有となり。

阿仁鑛山の支山たり。

○不老倉鑛山 明和元年の發見に係り同二年南部藩の稼行となり寛政六年に及ぶ爾來同藩の御留山と稱して採堀を禁じ明治維新の際に及び明治二十年十二月古河氏の有に歸し事業漸く緒に就き同三十七年に三菱合資會社の所屬畑地鑛山を買収して併せ稼行し大に業務を擴張したり大正二年所屬製煉所を廢し鐵索を小坂に通じ製煉を擧げて小坂鑛山に托し目下は採鑛専門の銅鑛となれり人口五千諸般の設備完成す

○八盛鑛山 明治三十九年武田恭作氏の經營に係りしが其後事情ありて休山せしも大正四年に至り氏は新に大日本鑛業株式會社を創立して其の經營に移し再び採鑛に着手せり。

○吉乃鑛山 雄勝郡西成瀬村に在り八盛鑛山の支山として前途最も有望なるを稱せらる。

○院内鑛山 慶長十一年村山宗兵衛の發見に係り文化十四年秋田藩の稼行に歸し天保年間に及び其後幾多の變遷を経て明治十七年十二月古河市兵衛の所有に歸し三十八年古河合名會社之れを繼承し今日に及び 明治天皇明治十四年東北御巡幸に際し御臨幸の光榮を賜はり「御幸坑」と稱するは其の紀念とせる名稱なり。

○花岡鑛山 北秋田郡花岡に在り藤田組の經營に係り小坂の支山として採鑛量無

る八ヶ月間各郡に亘る沖合一圓に於て繼續試験を行ひ以て漁獲收支の經濟を確めんとす、鰯鮪旋網試験前年度に繼續し四月より七月に至る期間南秋田郡土崎より由利郡平澤沖合及び山本郡沖合漁場に試験を施行し以て本網の如き運用漁具の啓發を促さんとす、底刺し網試験前年度の繼續事業にして八月より十一月に至る期間各郡に亘り漁場を試験し簡易なる漁場として之れが適否を試験せんとす。

一、深海漁業調査試験
一、海洋觀測

本年度の新事業にして深海漁場の併拓と之れが新漁具の調査試験をすにありて一本釣り延べ繩刺し網を使用し併せて海洋横斷觀測と縱斷觀測とを一定時（横斷觀測は毎月一回二ヶ所縱斷觀測）は年二回に施行し漁業の基本たらしめんとす、調査試験施行期間は四月より十二月に至る迄及び翌年三月の十ヶ月間とし男鹿半嶋以南の沖合未知の漁場たりとす、鯛桂繩試験民間鯛地曳網改善の目的により副漁具として桂繩の使用を試験するにありて四月より六月に至る期間山本郡濱口村に於て前年度に繼續施行す。

製造試験 カラスミ製造試験八郎潟漁獵の鰵卵利用の目的により前年度長崎製に模し試験せし結果に徴し將來本縣の特産たらしむべき見込あるにより之が試験を

五六月南秋田郡船越町に繼續施行し併せて傳習をなざんとす、竹輪製造前年度に繼續し經濟的之れが試験を十二月より翌年三月に至る期間南秋田郡南磯村に施行し併せて傳習せんとす、鯖節製造試験新たな計畫の事業にして縣下鯖漁の發達に伴ひ之れが利用方法として鯖節及び鯖生利節試験を六七月の期間に於て施行し之れが適否を確めんとす。

養殖試験 蛙人工孵化放流前年度に繼續し花館の孵化場に於て十一月より翌年度に亘り七十萬の蛙卵を收容し雄物川に孵化放流せんとす、姫鱒孵化試験前年度に繼續し十二月より翌年に亘り一ノ目潟及び栗山池の二ヶ所に試験を施行すべし、虹鱒孵化試験八柳魚場養成の虹鱒より本年五月之れが採卵をなし十和湖和井内養魚場に囑託孵化飼育せんと欲す、鰻兒移殖前年度に繼續し五六月の交に於て鰻兒を宮城縣より購入し八郎湖及び適當の池沼に放養し湖沼の移殖を圖らんとす、鯉兒配布繼續事業にして八柳養魚場にて一寸以上の稚兒十萬尾を養成し配布規定により民間に有價配布し養魚事業を奨励誘掖す、淺海利用試験鮑蕃殖上成長試験を南秋田郡南磯村に施行し淺海利用の目的により輪採蕃殖と生産力増進を圖らんとす。

調査統計及び講習講話 一、鰯及び鯖鮪の三種につき主務省綜合轄の下に各縣と當該期節連絡調査を施行す、二、淺海利用藻類調査を六月より七月までの間に於て施

行せんとす、三製造の奨励すべき事業の基本調査をなす、四水産統計を（七年中の漁獲）八年一月より三月までの間に於て行ひ斯業試験と併せて奨励の基礎たらしめんとす、五月より三月までの冬期間と其事業期間に於て各郡漁村及び八郎潟各村に漁撈製養殖の講習講話をなし尙公私団体の申請により講習講話をなす、六民間事業者の申請に應じ漁船漁具の設計と製造及養殖指導をなすべし。

□十和田湖の養魚 十和田湖は鹿角郡の北部にありて青森縣に界し周圍凡そ十二里本縣第二の大湖にて奇石怪岩各所に屹立し山容水態稀見の絶勝たり風光既に一世に喧傳し「和井内鱒」の名聲之れと共に高きに至りしも古來魚族を産せず千有餘年利用の道なく空く放抛せられたりしが同郡毛馬内町の篤志家和井内貞行氏夙に之が明治十七年以來年々鯉、鮒、公魚等を放流し明治三十四年に至り姫鱒（カバチツボ）の成績良好なるを認め傳習生を日光養殖場及水産講習所等に派し尋て鱒卵を日光養殖場及北海道より購入放流し苦辛經營連年放流の結果愈好成绩を得三十八年初めて人工孵化場を湖邊に設け爾來益々事業を擴張し今や和井内養殖場の名天下に喧稱せられ年々漁獲高二萬尾卵子の分與額千萬粒に上るの天下無比の好養殖場なり近來外國人の此地に來り遊ぶもの甚だ多く鱒の需要並に卵子の販路日に日に愈々盛なるに至

れり
□湖魚の養乾 八郎湖産の小魚類は生魚として市場に販賣さるゝものゝ外に佃煮

として縣内はもとより縣外に多量を輸出され現在にては殆んど縣内名物として歡迎され随つて需用も増加し又産額七八萬圓にも上りつゝありと云ふが同湖産小魚の中公魚と白魚とは更に之を養乾として輸出すること數年前より縣外の注文によりて初められたるが近來は頓に激増し來りて佃煮と共に此種水製造の爲め品不足を告げ随つて高價を示すより當地にては容易に食膳にのほす能はざるに至りしは既報の如くなり、養乾は當地の鰯焼乾よりは上品にて調理の加味料たるの外貯藏に堪ゆるより之を隨時調理して副食物とするに好適し生魚拂底の場合の如きは非常に歡迎されつゝあるが今南秋田郡の製産額を聞くに公魚は船越町にて一ヶ年九百貫目、大久保村にて同四千二百貫目、天王村にて同二百五十貫目、合計五千三百五十貫目を製出し白魚は船越町にて一ヶ年七百五十貫目、大久保村にて同五百五十貫、天王村にて一百貫目、合計一千四百貫目を製出し居り、價格は六年より二三割の値上げとなり公魚は一貫目壹圓貳拾錢、白魚は一貫目壹圓五六拾錢に販賣され居る爲め一ヶ年の産額は公魚は約六千四百圓、白魚は貳千百圓、合計八千五百圓を産出し其十分の八迄縣外に輸出され就中東京及び附近福嶋栃木兩縣最も多しと云へり又白魚の如き

は昨年東京三越呉服店にて東北六縣銘産品陣列會を開催せる際に本縣名物の一として出品せるが好評を博して忽ち賣切れとなり後追々注文續々ありたるより愈々廣まり今以て三越吳店よりの注文多しと云へるが斯く縣産物の發展は喜ぶべきも一方水産當局者は逐年湖魚の濫獲と其減少を杞憂しつゝ居れり。

□留意すべき出稼漁業 本縣の漁利は如上僅少なり約七十萬圓を漁戸に當割つれば一戸平均百圓内外に過ぎず之れを農業一戸當り四百圓以上なるに比すれば其差實に大なりと云はざるべからず茲に於てか彼等漁民は近海の漁業に安んずるを得ず遠く北海道及び樺太露領に向つて出漁の冒險を犯さざるべからず而して年々出漁の漁民大約二萬人内外にして漁利約一百万圓を得るも適當なる漁業の根據地を有せざるが爲めは其大半は資金に控除せられ純利割合ひに少なきを遺憾とせざるべからず本縣は近海漁業の改善を企及すると共に養殖方面に注意を拂ひ更に適當なる出漁漁場を北海道樺太方面に獲得する用意なくんば水産界の運命を新らたならしむるや至難なりと云はざるべからず。

工業の秋田

□工業の大勢

縣下工業の大勢は漸次進歩の状態にあれども時代的の設備研究未

だ全く十分ならず其の生産額と雖も農産の約六分一に過ぎざるが如し而して工場と稱すべきもの八十七にして製品價格一千四百四十八萬と稱すれども鑛業に屬する工場製品價格を控除する時は約四百五十萬圓にして一會社の年産僅に六萬圓を算するに過ぎず新企畫劃を實行するの餘地尙多々ありと云ふべし。

□織物 本縣在來の織物は絹物にありては秋田畝織、秋田八丈を最とす、綿織は横手地方亀田地方に産す、秋田畝織秋田八丈の起源は遠く藩政時代に在り殊に秋田八丈は縣内産出の蠶絲を原料とし特産玫瑰根を主要の染料として染織するにより一種温雅の特徴を持って中央市場に販路を有す、又畝織は主として東北地方の紋服地に需用せられ其名四隣に高し其他紫麻織と稱する新製品あり紫麻の綿毛を採りて之れを紡ぎ綿を交へたる太織にて被布又は單衣地に適す價格頗る廉なり由利郡龜田町の人佐藤雄次郎氏之れを發明す産額未だ僅少なれども將來有望の産物たるを疑はず近時臺灣滿州朝鮮地方より多大の注文ありと云ふ、綿織物は横手地方のみならず大館地方其他の各郡にも漸次産するに至れり然れども年産約八十七萬圓内外にて縣内需用の十分の一に足らざるを以て生産の増加織製の改良を企圖すべく機臺機具に補助をなす等當局は専ら獎勵に努め大正二年度より染織試験場を設置して之れが發達を圖りつゝあるも歐洲戰亂の結果頗る不振の状態に在り。

□有[○]望[○]なる清酒

本縣の産米は其品質精良にして醸造資料に適し且つ冬季は空氣清純にて温度の變化少なく酒の醸造に適するを以て夙に淳良の清酒を産す就中雄勝郡湯澤、平鹿郡増田及び由利郡矢嶋、鹿角郡花輪地方の清酒は色澤香味共に優良なるも従來縣外に輸出すること少なく爲めに久しく中央市場の認識する所ならざりしが、近來博覽會共進會等に出品して屢々一等賞を得たるより聲價頓に加はり漸次需用を増加するに至れり毎年の産額約十萬二千石製造戸數百五十戸以上なるも販路の擴張に伴ひ逐年加増の趨向を示し今や醸造地として東北第一と稱せらる。

□金銀細工

本縣は鑛山に富み金、銀、銅の産出極めて豊富なるを以て金工製作業の之れに伴ふは自然の理なり而して其の中最も著名なるは銀細工なりとす、銀細工は秋田市の特産物にて地銀の純良なる他に其類を見ず舊藩時代に於ては僅に封内の需用を充だすに過ぎざりしが今や東京、青森、仙臺、北海道に其の販路を擴張するに至り需用の増加に隨ひ技術亦大に進み漸次精巧なる工藝品を出すに至りしを以て近年に至り宮内省の御用命を拜するに至れり尙意匠彫刻其他圖案等の改善に就ては年々講習會を開らき又は實習生を東京其他に派遣する等之れが啓發に怠らず而して年々の産額は二十萬圓内外なり。

□銅器鐵器

銅器は近來の製出に係り産額未だ少なきも原料と製作の佳良とは漸

次世に紹介せられ年産約六萬圓以上なり鐵器の主なる製品は重に鐵瓶類にて秋田市及び南秋田郡五城目町并に秋田市に産す其の起元は遠く三百年前佐竹義宣公の秋田に遷封せらるゝの際舊領水戸より隨從して秋田に移住せる天明某なるもの之れを製作したるに濫觴す従來は普通の日用品たる鍋釜の類に過ぎざりしが近來に至り京都又は南部其他の製品の長所に倣ひて製出し技術大に進み形狀溫雅大に見るべきものあり價格亦低廉にして漸次四方の賞賛を博し今や南部と額頡するの勢を呈するに至れり販路は重に縣内及び北海道なりとす此他に由利郡長岡産の鉄の如きは一種の特長を有し従來大に世の歡迎する處たり年産約二十萬圓内外にて將來有望なる特産物なりとす。

□漆器

能代春慶は山本郡能代港町石郷岡庄壽郎の一家相傳に係る漆器にして七世の祖が十數年間苦心慘憺案出せるものなりと云ふ素地を長木澤の良材採り乾室に放置すること約二年にして漆を施す漆は縣産の精良なるものを選び下塗より仕上げ迄二十四回乃至二十七回而して其の製品は二年若くは三年間之れを貯藏し後ち始めて市場に販出す其の色合は一種不可言の雅致を有し滿面一點の纖塵を止めず色澤一様にて濃淡なく精妙實に神に入る然れども價格不廉にして需用の範圍廣からざる爲め其の産額は一萬六千圓内外に過ぎず、亦角館春慶は仙北郡角館町の産物にて能

代春慶に模倣せるものなれども廉價にして實用に適するを以て販路次第に擴張されつつあり而して川連漆器は雄勝郡川連村の産物にて隣村三梨村に及びり起源は今を距る三百年前にて文化文政の頃に至り漸く盛大に赴き爾來多少の盛衰ありしが嘉永年間にて更に發展し以て今日に及びり従業戸數約二百六戸職工六百人を超ゆ素地は此地方に豊富なる山毛櫨を用ひ製品は主に總輪膳、揃ひ椀、重箱、硯箱及角盆の類なり特色は塗方の堅固にて剝落の虞なく久しきに耐ふるの點にあり近來技術大に進み蒔繪も亦見るべきものあり殊に沈金は其の得意とする所にて美術的製品少なからず年産額十五萬圓以上に達す、其他北秋田郡大館町にも漆器あり川連の如くならざるも廉價を以て名あり殊に同地名産の「曲ワツバ」及び之れを利用する松皮盆の如き高尚のものにあらざるも實際の需用甚だ多し、而して本縣漆器の年産總額二十萬圓以上なりとす。

□樺細工 本縣の特産たる樺細工製作は北秋田郡阿仁に創まる寛政年中仙北郡角館町の士族藤村傳六氏なるもの之れが傳習を受け士族の内職に之れを普及せしめたるものなり而して其の製法は櫻の老樹皮を精選琢磨して優麗愛すべき光澤を發せしめ之れを重ねて壓搾し又は本質等を以て内心を作り之れを貼付せるものにて雅致掬すべきあり其の製品は從來印籠形煙草入、煙管差等主として價格の低廉なるもののみなりし、時勢の進運に伴ひ顧客の需用亦昔日の状態に甘んずるを許さず之れが改良に苦心したる結果近時需用頓に増加し他府縣に輸出するもの極めて多し就中煙草入の如き氣候の乾濕變遷に遭遇するも煙草の變質を來さざる特徴を有し大に世人の稱揚する所たり現時の生産地は仙北郡角館町を主とし北秋田郡阿仁合町及び大館町之れに次ぎ年産約三萬圓内外とす。

□木通蔓細工 木通蔓細工は素と青森縣の特産物なりしが日露戰役の際軍人遺族の生業を扶助する爲め鹿角郡に於て之れが傳習を開始せし以來漸次勃興し今や秋田及び雄勝郡に於ても製作するに至り本縣の一特産物となれり其の原料は各郡の山野に繁茂し而して製作の用具は唯小刀、鋏等に過ぎざれば婦女子の家業に好適せり製品の重なるものは食器函提籃類、乳母車等にて一ケ年の産額約二萬圓内外とす。

□竹細工 竹細工は縣内各地に於て製作せられ概ね粗造なる箆及籠の類に過ぎざりしが由利郡に於ては近年殊に練習所を設けて技術の練習に努め精巧なる製品を出すに至れり其重なるものは提籃、魚籃、煙草入及び日用品にて其産額は多からざれども價格低提にして實用に適するを以て漸次需用を増加し前途有望なり年産約一萬五千圓内外とす。

□曲木細工其他 曲木細工及び壓彫刻細工は雄勝郡湯澤町に於ける木工株式會社

に於て製作す製品の重なるものは椅子、家具、荷具、荷具、船具、車輪、運動の類に
て其の材料は地方に豊富なる「ブナ」「トチ」等を利用して明治四十四年中より開始せる
ものにて今や産額著るしく増加し縣の内外に輸出して漸次需用を加へつゝあり。

□釣針 釣針は北秋田郡大館町の一特産たり其質の堅牢と擬似針の精巧とは夙に
世の好評を博し遠くに兵庫縣及び北海道函館、釧路各縣に輸出す製造戸數七戸年産
一萬圓内外近來漸次其の産額を増進しつゝあり。

□工産物雜類 各種工産物雜類の年産約九十五萬圓にて内醬油の三十五萬圓を筆
頭とし麴類の十萬圓以上指物類の十四萬圓以上履物類の十六萬圓内外、澱粉の二萬
四千圓内外、煉瓦及び煉瓦の三萬圓内外、陶磁器の一萬三千圓内外、疊表及び莢産
類の二萬圓内外、紙類の一萬八千圓内外、革類の一萬圓、毛筆の一萬圓、麥粉の二
萬七千圓以上等は其の主要なるものとす、杞柳製品の産額未だ多からざれども將來
有望品の一に算せらる、鹿角郡花輪町の人工藤治六氏は本縣に於ける柳行李製造の
先驅者として知らる其他落摺び落漬鹿角の紫紺染茜染等又縣外人の珍重する所たり

商業の秋田

□現在の大勢

商業は其土地の特産の特長豊足と否とによりて左右せらる本縣の

營業種目

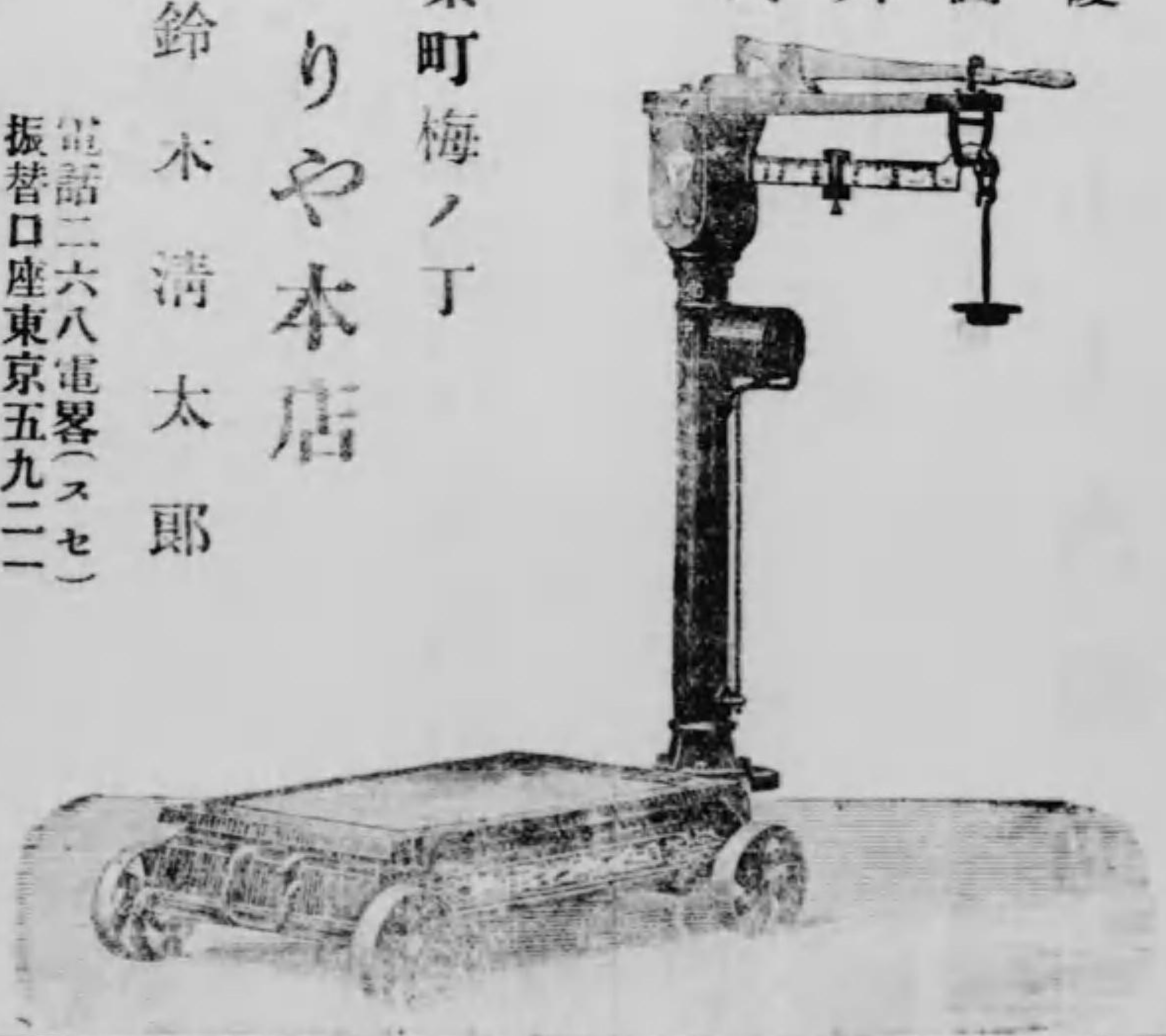
衡器製作修覆
度量衡器測量製圖
機械定規文房具
其他附屬品一式
販賣

栄

はかりや本店

店主 鈴木清太郎

電話二六八電器(スセ)
振替口座東京五九二一



於各博覽會共進會金銀賞牌受領

銘酒

カ
澁

秋田市横町

釀造元 加賀谷源右衛門

電話三三三番

※※
琴製造販賣
※※

秋田市龜ノ丁東土手町

小山内源助

元祖

米玄 製白
美 人 餅 矢留 あられ
力 キ 餅 鹽 せんべい

中野屋菓子舗
秋田市通町

於第三回奥羽聯合清酒醬油品評會
優等賞金牌一等賞銀牌受領

登錄 最上
商標 醬油



醬油 釀造元

秋田市本町五丁目

船木久藏

電話三六七番電器(フナ)又ハ(フ)
振替口座東京七〇七六番

於各公會有功賞受領

電力應用

營業種目

干	玉	片
饅	子	栗
飽	麵	麩
素	燒	生
麵	麩	麩
製	造	元

秋田市下酒田町



齋藤製麵工場

場主 齋藤林藏

目品

銅トタン屋根張
軒樋諸板器械
爪皮フチ金具
挽材印型
店卸各種
ピレス拔物

秋田市城町五十番地



林 金太郎

秋田縣土崎港町

海産物
魚類
問屋



山本長九郎

電話一四六番

秋田縣清酒品評會一等賞銀牌受領
 奧羽聯合清酒醬油品評會一等賞銀牌受領
 大藏省釀造試驗場主催全國清酒醬油品評會
 一等賞銀牌受領

登錄商標
 銘酒 黃金井

釀造元 高橋清兵衛

秋田縣新屋町



奧羽六縣聯合品評會優等賞金牌受領

登錄商標



銘酒 英雄

秋田縣新屋町

釀造元 森川祐太

振替東京三二一八八三番



秋田市上川口町十番地

材木商工藤多之助



木材製板櫃小角類
手割柿板雜割類
大桶樽丸各種

電話六十一番
(電器クタ)又ハ(タ)

砂糖メリケン粉疊表
石油荒物雜貨

卸小賣

秋田市下肴町

野口商店

電話四〇八番

秋田市上肴町

御旅館 夕田口旅館

電話七十三番

動力掛、足踏、手廻、渡部式臼摺機調製、農具一式
檜材、檜板、檜材造臼齒、鉋臺製造、丸竹、輪竹販賣

渡部 臼摺製作工場

秋田市川口本渡町



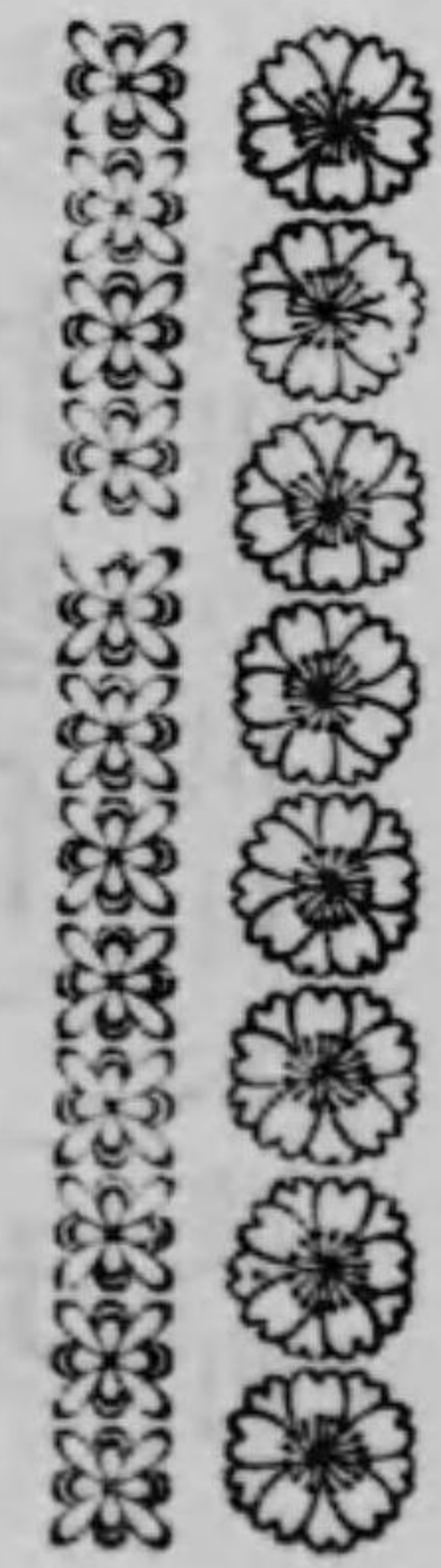
内外盆栽園藝物一切

草花 諸苗木

秋田市手形谷地町

七 萬清園

藤井清次郎



盆栽草花 諸苗木一切

秋田市八橋公園

大 八橋花樹園

園主 大竹 廣吉

電略(ヒロ)



秋田市茶町中央

小野千秋堂

國 秋田 蒔漬
秋田 諸越
産 芭蕉煎餅

電話 二六九番
振替東京一九三〇七番

トーヨー、ヒーロー 自轉車
高砂工業株式會社タイヤ、フェユア各種
秋田市下鍛冶町

販賣

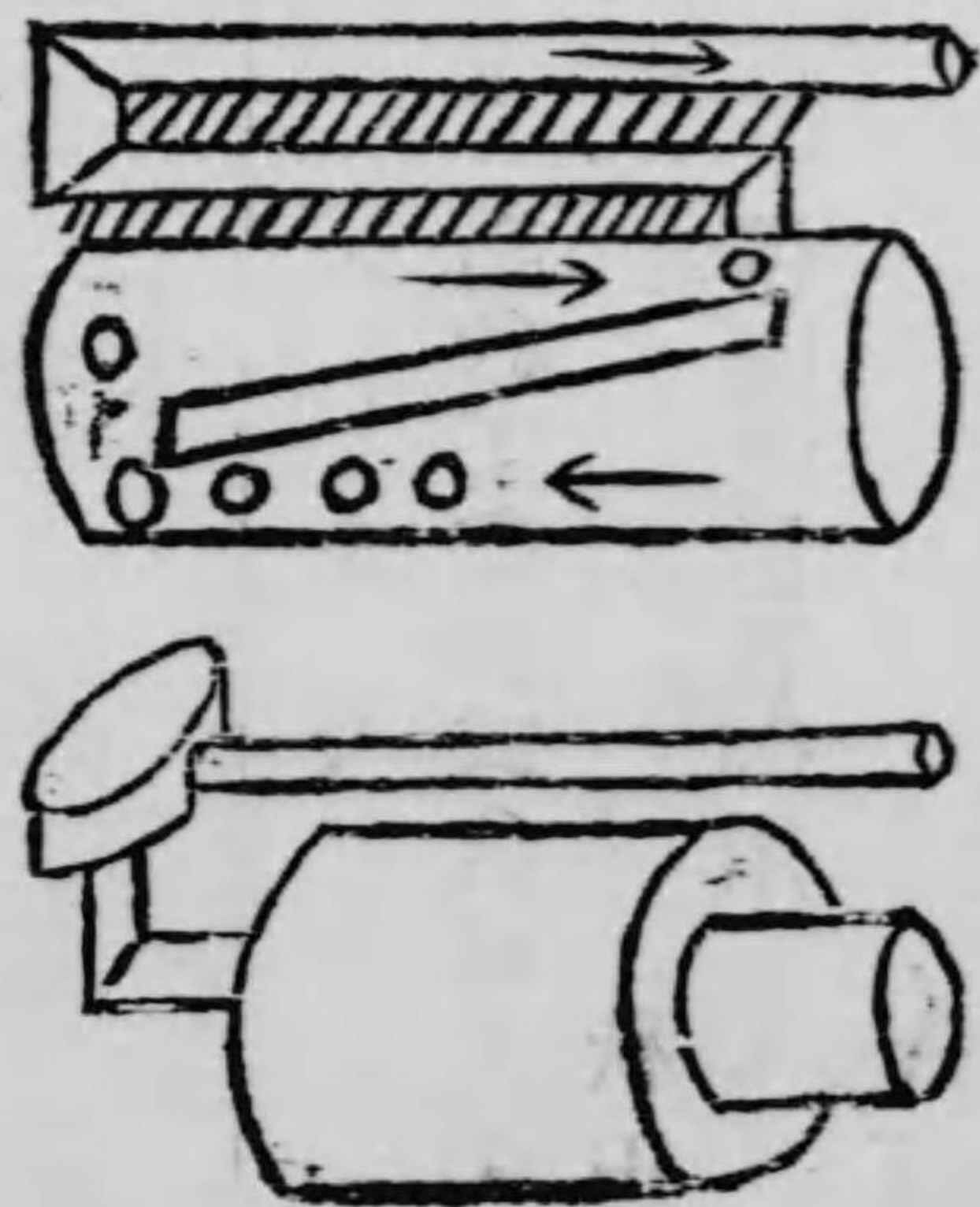
川村自轉車店

秋田市保戸野本町

同 支店

帝國遞信省御用

□經濟の親玉



近藤式
製銅

風呂竈

洗湯屋向
据風呂向

▲燃料半減にして時間は普通
▲の三分一に沸く事受合なり

秋田市下鍛冶町
銅器一式
製造元
近藤銅器店

- ▲日本石油株式會社
- ▲中外石油アスファルト會社
- ▲久原鑛業株式會社
- ▲其他石油會社用達商

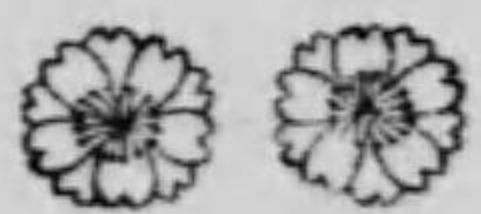
櫓木材
建木材
一切物



野田商店

秋田市上川口

電話一七四番
電器(ノタ)



鑛山賣買及仲介
鑛山ノ鑑定及實地調査

並ニ出願ニ關スル諸手續ノ依頼ニ應ズ
鑛山及炭山ノ投資經營ノ相談ニ應ズ

秋田市長野下堀端町十二番地

鑛山業 神澤準次郎

電話四六四番

會評品油醬酒清國全於
領受牌金賞等優

釀造元



銘酒

町澤湯縣田秋
門衛右仁藤伊

五五

抑々三浦農園は明治十四年... 模範園に係りては約二十年... 七町歩に及ぶ内には桑苗が... 最も力を用いる、桑苗が... 始め山林果樹用の苗を... 其他野菜等として用ゐるも... 生育振りがよく、約十六町... は桑苗にして約十町歩... 歩を占め、梨桃等の果樹園... 町歩、梨桃等の果樹園は... 三ヶ所にて多年専念に... 桑苗園は氏が多年専念に... 經營する處にて、明治... 四十一年本園に於て桑苗... 園に依りては、氏の始め... 當十三年には本園に於て... 苗圃の増設をも依りて、桑... 苗圃を擴大するは勿論、採... 苗法の改良並に病虫害の... 預防除害等に、漸次効果を... 挙げられ、今や新業界に重... き高の取實なる氏は之れ... 新業に忠實なる氏は之れ... 研究し完全無缺當地方に...

好適の真種を得ん事に努... 力され、三島は同園に於て... 中治四十三年中百七十萬... 本の魯桑實生中より僅か... みに一本見出し、後繁植を... 眞種として世の歡迎を受... くるに至るは近年縣南部... 其他新種には、近來地方... に於て發見せられ、當地方... に適する真種と稱さるる... ものには、秋田、矢留等... りて、年々該園より頒布さ... する數量は夥しき額に達... するあり。

◎苗木種類

桑苗 伊達赤木、
袖振新秋田同三島
同矢留和十文字 眞改
魯桑 種羽後錦同カ
タネオ同甘樂桑、五
郎治早生、紫早生、
寒國桑、春日、國光

五四

秋田縣仙北郡花館村字中野

三浦農園

園主 三浦友吉

振替口座東京〇六貳五番

販賣規定

- 一 代金ハ學校諸官衙ノ外ハ前金ニテ申受度候
- 二 爲替御送金ニ御拂込ノ方ハ東京三〇六二五番(振替口座)御記入被下度候
- 三 荷爲替御送文ノ方ハ原價ノ半額以上御送金アレ
- 四 御注文ノ際ハ荷物送附順路何々鐵道何驛揚ダト
- 五 發賣ノ苗木ハ總テ病虫害ノ豫防ヲ實行シ且ツ充分ナル検査ヲ爲シテシテ何等憂ナシト雖モ
- 六 尚青酸瓦斯燻蒸ヲ欲スル向ハ御望ミニ依リ燻蒸
- 七 町村其他ノ團體ヨリ共同購入ノ御申込ミニ對シテハ特ニ割引可仕候

大ニシテ國産ノ中堅

一ケ年生産額約卅萬圓以上

縣産業ノ爲メ欣喜措ク能ハザル金銀細工界ノ大發展

小ニシテハ細川金銀細工店ガ一ケ年ノ製造額ハ二萬點以上

細川ガ金銀細工界ニ生レテ茲ニ三ケ年

圖表ノ如ク偉大ナル増製造ハ何?

各家庭ノ賢明ナル御懇命ト

細川ガ唯一生命タル品質本位ノ賜トス

茲ニ於テ益々献身的努力終始一貫御期待ニ副ハンコトヲ
奉期候

各博覽會賞牌受領

秋田市本町五丁目

國産金銀細工製造販賣



細川義久治

賜今上陛下御買上之光榮
日英大博覽會一等賞金牌

登錄商標

銘酒

日の丸

秋田縣平鹿郡増田町

釀造元

沓澤甚兵衛

創業元祿二年ヨリ連綿

大藏省釀造試驗場全國清酒醬油品評會壹等賞
各共進會品評會金銀銅賞牌受領

元祿四年創業
貯藏豐富天下周知之良品

醬油



味噌

秋田市大町三丁目

釀造元
田中太吉商店

(電話七〇番)

最上精製需用無限也

登錄商標

秋田市

つるや

鷹匠

製造發賣元

秋田市本町五丁目

總本店
清鶴屋清兵衛

電話七一七番

電器(ツルヤ)
振替東京二一九二九番

印物一式



秋田市下龜ノ丁

佐廣染工場

電信略號(サヒ)

各博覽會共進會受賞數回

萬染物一式

秋田市川端二丁目



工藤 幸吉

各種印刷

秋田市川端二丁目

癸巳活版所

五人乗、八人乗、十四人乗
等御申附け次第運輸可仕候
間御用命願上候

佐々木自動車商會

秋田市土手長町中丁三十一番地

電話五六五番

第三回奥羽聯合清酒品評會 一等賞銀牌受領
第八回秋田縣聯合清酒品評會 一等賞銀牌受領

銘酒 親玉

秋田市上通町

釀造元 今野口周次郎

電話二百六十番

帝 國 名 產 食 料 品 博 覽 會 壹 等 賞 金 牌 受 領
 第 三 十 七 回 秋 田 縣 農 會 種 苗 交 換 會 賞 狀 受 領

秋 田 名 產



八 橋 商 會 謹 製

南 秋 田 郡 寺 內 村 八 橋

本 港 唯 一
 最 大 旅 館



佐 清 旅 館

電 話 一 〇 一 番

秋 田 縣 土 崎 港 上 酒 田 町 (馬 車 會 社 向)

明 治 十 年 創 業
 土 崎 旅 館 元 祖

御 旅 館



佐 々 々 々 々 々

電 話 百 〇 八 番

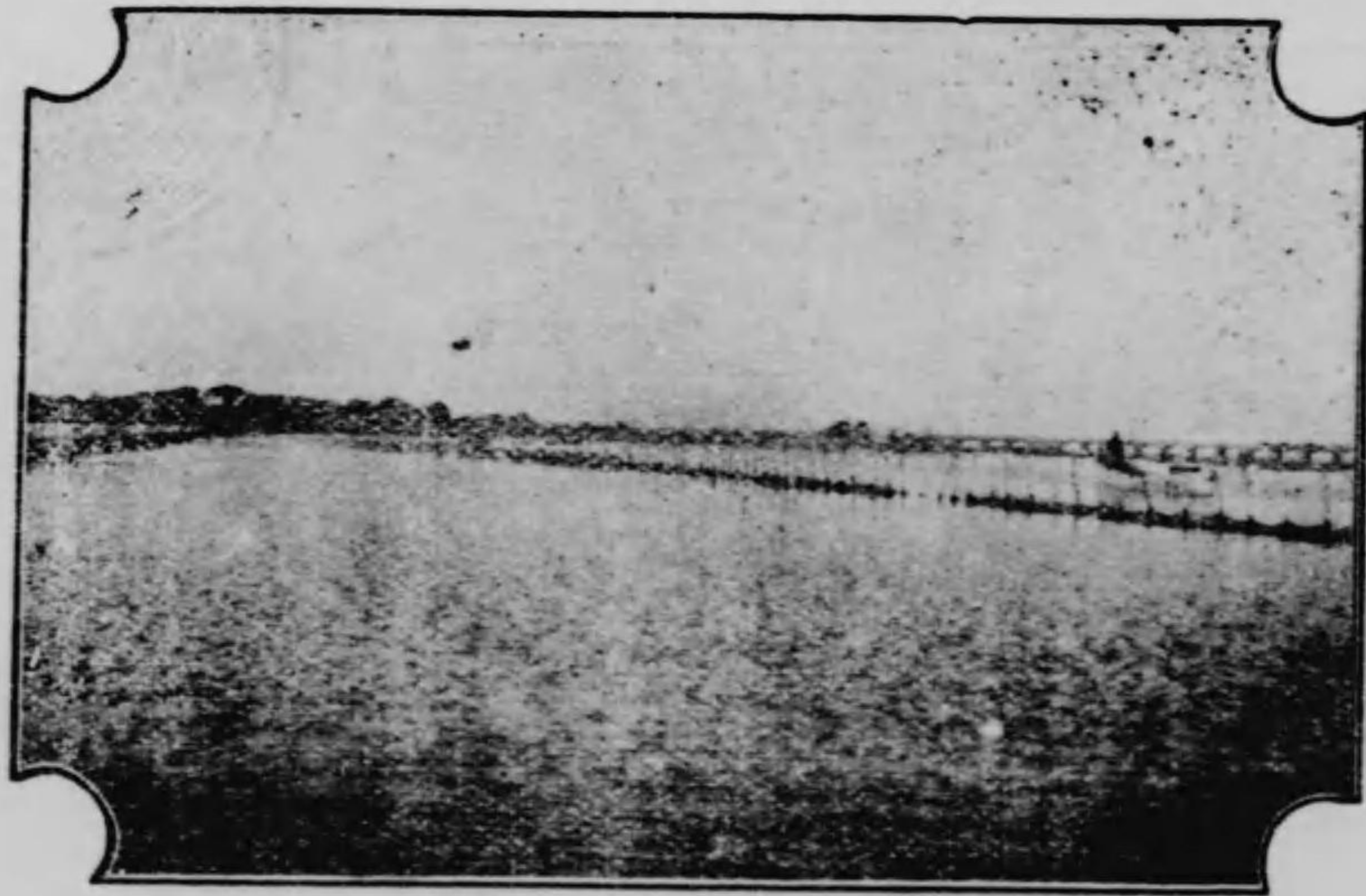
秋 田 縣 土 崎 港 新 城 町

御 注 意

當 館 は 土 崎 港 最 古 の 旅 館 に て 郡
 役 所 に 最 も 近 き 新 城 町 に 在 り



社神石座御湖澤田



網切張の湖郎八

業屋問

米穀部
木材部
沼部

カ

合資
會社

秋田縣本莊町

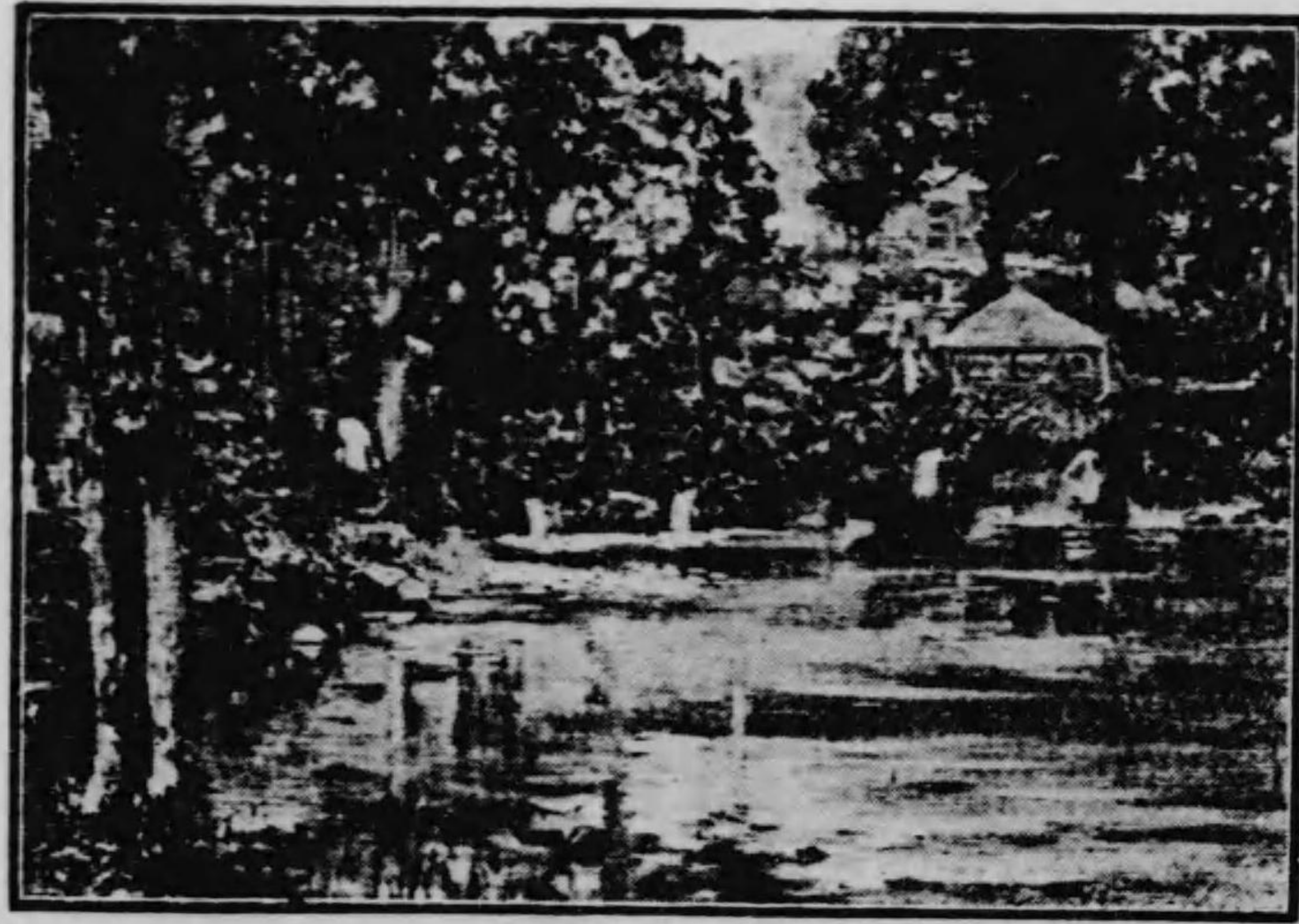
長田商店

電話三〇番

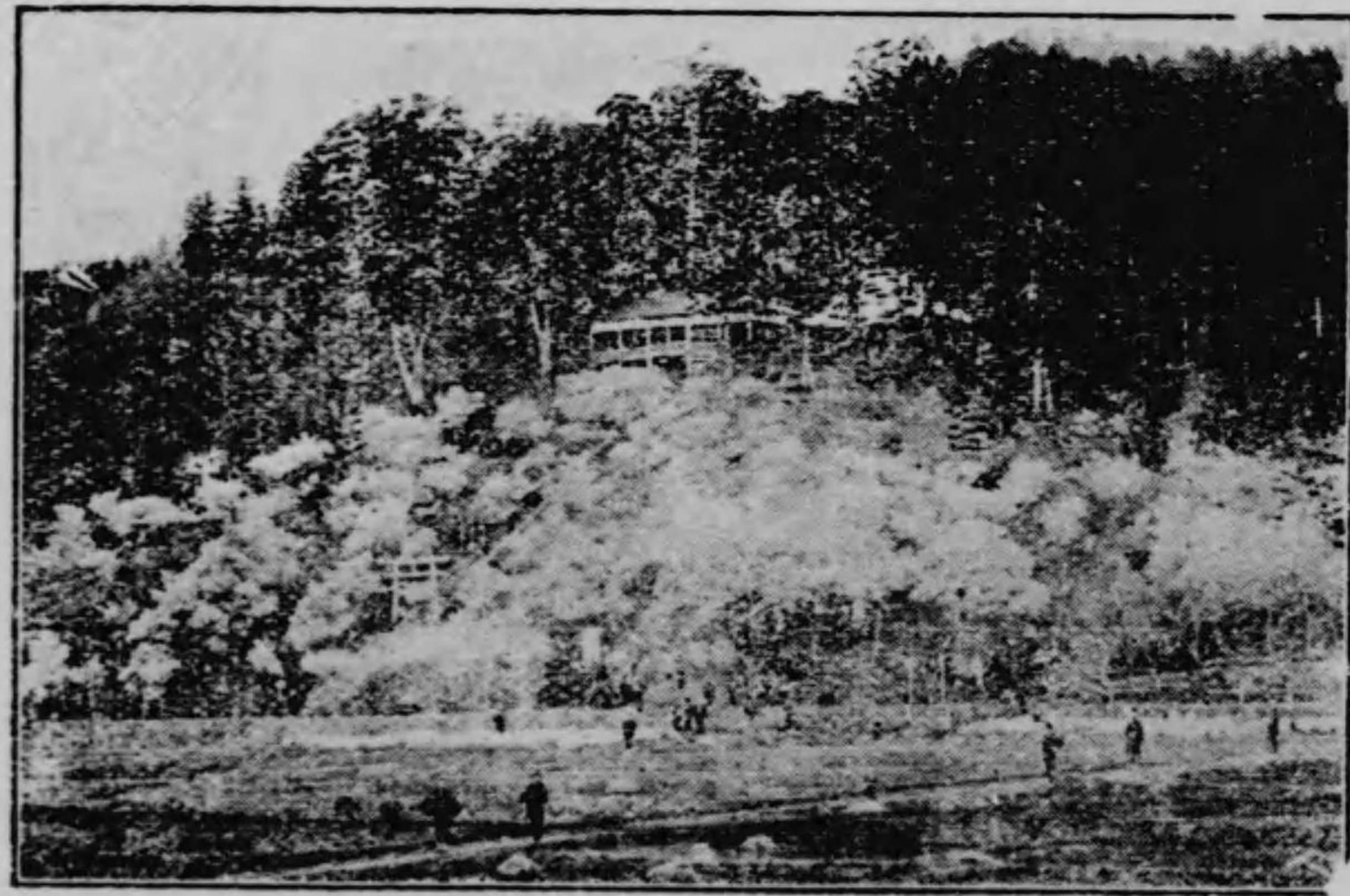
秋田縣由利郡石澤村大築

同長田白土工場

耐火煉瓦
製造販賣



頭 の 瀧 村 戸 拂



花 櫻 の 山 宕 愛 愛 町 澤 湯



崎 瀨 潮 と 崎 ケ 立 峭 奇 の 鹿 男



瀧 糸 白 嶋 臺 舞